

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M660011-1) 理論看護学 Theoretical Nursing	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 今井 多樹子・金正 貴美・西村 亜希子・ 山本 麻理奈	関連授業科目 看護研究方法論, 各領域の看護学演習・特別研究		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、看護領域における理論の捉え方と構造を理解し、主要な看護理論・中範囲理論の特徴を学ぶ。また、受講生が修士論文で取り組む興味・関心のあるテーマについて、関連する理論を抽出し、看護実践・教育・管理の場面に適用する視点を養う。理論を用いた課題の構造化、概念整理、理論的背景の明確化を通して、科学的根拠に基づく看護実践および組織的改善へつなげるための理論的基盤を形成する。			
授業の目的 受講生が「理論」の本質を理解し、修士論文の理論的基盤を形成することを目的とする。理論と研究デザインの間、看護における知識の構築方法を学び、看護実践・教育・管理の課題に理論を適用して科学的に検討する視点を養う。(DP「専門知識・理解」に対応)			
到達目標 1) 理論・概念・変数の定義と相互関係を説明できる。(DP「専門知識・理解」に対応) 2) 看護の知の構成要素(理論・概念枠組み・モデル・経験的指標(理論をみえるかたちにする)等)を説明し、事例に当てはめて示すことができる。(DP「専門知識・理解」に対応) 3) 看護領域に関連のある中範囲理論の特徴・適用範囲・限界を説明し、修士論文テーマまたは看護実践・教育・管理の課題に適用可能性を論じることができる。(DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4) 学習成果を適切な論理構成・根拠提示・可視化(図表・概念図等)により効果的にプレゼンテーションできる。(DP「研究能力・応用力」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. テーマの応じたプレゼンテーション資料の作成と発表(50%) 2. テーマに対する議論の参加度(20%) 3. 最終課題レポート(30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 授業ガイダンス (今井・西村亜・山本麻・金正) 授業の目的、学修内容、理論の位置づけ、修士論文との関連について説明する。 第2回 看護実践における理論の活用① (今井・金正) 看護理論の特徴・構造・役割を概観し、実践・教育・管理の事象を理論的に捉える視点を学ぶ。その上で、理論を実践場面の課題に適用し、現象を整理・説明する方法を学習する。 (※「看護実践における理論の活用」および「看護教育・管理における理論の活用」では、各自の臨床での事例をベースに理論を適用し、看護/管理/教育とは何かを考察する) 第3回 看護実践における理論の活用② (今井・金正) (※第2回の続き。課題の理論的整理、概念の抽出、現象の構造化などを扱う。) 第4回 看護実践における理論の活用③ (今井・金正) (※第3回の続き。理論と実践の対応関係を深め、中範囲理論につながる視点を養う。) 第5回 看護教育・管理における理論の活用① (今井・金正) リーダーシップ論、組織行動論、意思決定理論など、教育・管理領域に関連する理論の基礎を学び、管理課題の構造化に応用する。その上で、マネジメント理論を用いた改善プロセス、チェンジマネジメントの視点、管理上の現象への理論適用を深化させる。 第6回 看護教育・管理における理論の活用② (今井・金正) 教育・管理理論を実践事例に適用し、改善方策の構築や実行可能性の検討を行う。管理者の意思決定過程について理論的に整理する。			

2026 医学系研究科

第7回 科学とは サブストラクション (金正・今井)

科学的思考の特徴を理解し、理論構築・概念抽出におけるサブストラクション (差分化) の方法を学ぶ。

第8回 概念分析・看護理論① (金正・西村亜)

概念分析の手法 (Walker & Avant等) を学び、看護理論との関連を整理する。

第9回 概念分析・看護理論② (金正・西村亜)

概念定義・特徴・属性・経験的指標を抽出し、看護実践・教育・管理への応用可能性を検討する。

第10回 概念分析・看護理論を用いた論文クリティーク① (金正・西村亜)

文献検討を通して、理論・概念枠組みを手がかりに論文の目的・方法・結果を批判的に検討する。

第11回 概念分析・看護理論を用いた論文クリティーク② (金正・西村亜)

文献検討を通して、理論の適用範囲・限界・研究デザインとの一致度を理解する。

第12回 中範囲理論① (山本麻・西村亜)

主要な中範囲理論の概要と特徴を理解し、看護の実践・教育・管理での使用例を検討する。

(※中範囲理論は院生が興味・関心のある理論を選択し、その理論を題材にディスカッションを行う)

第13回 中範囲理論② (山本麻・西村亜)

学生が選択した中範囲理論を用いて課題を分析し、適用可能性を議論する。

第14回 中範囲理論③ (山本麻・西村亜)

選択した理論に基づく概念枠組み案の構築と、研究・実践・教育・管理への応用を検討する。

第15回 中範囲理論④ (山本麻・西村亜)

学生が選択した理論を用いて分析した成果をプレゼンテーションし、フィードバックを行う。

この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会状況に応じて遠隔授業を行います。

【授業および学修の方法】

各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。

【自学自習のためのアドバイス】

提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、理論をもとに看護の理解・解釈につなげて考えてください。(準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度)

教科書・参考書等

教科書

正木治恵・酒井郁子編著：Nursing Profession series 看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版株式会社，2015 (¥3000+税)

佐藤栄子著：中範囲理論入門—事例を通してやさしく学ぶ第2版，日総研出版，2009(¥3500+税)

参考図書

ペギー・L. チン，メオーナ・K. クレイマー著：チン&クレイマー看護学の総合的な知の構築に向けて，エルゼビア・ジャパン，2007 (¥4,600+税)

Beth L. Rodgers., Kathleen A. Knafel著，近藤 麻理，片田 範子監訳：看護における概念開発 基礎・方法・応用，医学書院，2023 (¥3,600+税)

オフィスアワー

今井：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階517研究室

西村亜：講義予定日の17:30～22:00 看護学科3階318研究室

山本麻：講義予定日の17:30～22:00 看護学科5階515研究室

金正：講義予定日の17:30～22:00 看護学科3階317研究室

※授業日以外に来室を希望する場合は、事前にメールでご連絡ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業参加については、学生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M1NRS-CBAM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M660007-1) 看護倫理学 Nursing Ethics	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程																																																
	水準・分野 M1・NRS	DP・提供部局 CBA・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40																																																
	授業形態 Lg	単位数 2																																																	
担当教員名 西村 亜希子, 川本 美香, 松本 啓子, 山本 美輪	関連授業科目 看護研究方法論、各領域の看護学演習・特別研究																																																		
	履修推奨科目																																																		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)																																																			
授業の概要 教員は、看護に携わるものとして、日常的に直面している倫理的問題の提起をする。看護倫理として、そのような問題をどのように考え、意思決定するのかということについて学びが深まるように伝える。まず、倫理、生命倫理、看護倫理の基本的な理論・原則について提示し、臨床の倫理的判断、ケアの倫理、意思決定モデルについてと深めていく。そして、臨床における看護の倫理的問題について検討し、理解が深まるように伝える。また看護研究を行う上で研究対象の人権擁護を行いながら、研究のプロセスを踏むための基本的な考え方やこれからの研究に必要な倫理的問題を提起し、検討する。																																																			
授業の目的 医療における倫理の概念を概観し、倫理原則、倫理的問題解決法等について探求する。特に、看護実践や研究における倫理的問題の解決を通して倫理的判断能力を養うとともに、看護の役割・責務について探求する。																																																			
到達目標 1. 医療における倫理の概念や倫理原則について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 看護倫理の意志決定モデルについて説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 3. 看護における倫理的問題について、倫理的判断を行うことができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 医療の倫理における看護の役割・責務について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究上の倫理的課題について説明できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)																																																			
成績評価の方法 評価は、プレゼンテーションの内容25%、討論への参加25%、課題レポート30%、参加状況20%により総合的に行います。																																																			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。																																																			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>オリエンテーション、倫理の基本的な考え方</td><td>松本</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>倫理の原則と重要概念</td><td>松本</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>看護倫理のための意思決定モデルについて</td><td>川本</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>看護倫理のための意思決定モデルを用いた事例</td><td>川本</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>小児の倫理的問題</td><td>川本</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>小児の倫理的問題の検討</td><td>川本</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>看護研究における倫理研修 e-learningについて</td><td>松本</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>看護研究の倫理指針</td><td>松本</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>倫理的問題の検討法、ケアの倫理</td><td>山本</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>看護倫理、職業倫理、倫理綱領</td><td>山本</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>高齢者の倫理的問題</td><td>山本</td></tr> <tr><td>第12回</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>第13回</td><td>看護研究の倫理審査について</td><td>西村亜</td></tr> <tr><td>第14回</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>第15回</td><td>研究における倫理、まとめ、発表 プレゼン</td><td>松本</td></tr> <tr><td>予備回</td><td>研究公表に関する倫理的配慮 まとめ</td><td>松本</td></tr> </table> 【授業及び学習の方法】 授業は、担当教員ごとに講義やディスカッション等の展開が様々となります。講義内容に関する課題を受け、各自が興味のあるトピックを選択し、プレゼンテーションを行う場合、その後、各発表に対するディスカッションを				第1回	オリエンテーション、倫理の基本的な考え方	松本	第2回	倫理の原則と重要概念	松本	第3回	看護倫理のための意思決定モデルについて	川本	第4回	看護倫理のための意思決定モデルを用いた事例	川本	第5回	小児の倫理的問題	川本	第6回	小児の倫理的問題の検討	川本	第7回	看護研究における倫理研修 e-learningについて	松本	第8回	看護研究の倫理指針	松本	第9回	倫理的問題の検討法、ケアの倫理	山本	第10回	看護倫理、職業倫理、倫理綱領	山本	第11回	高齢者の倫理的問題	山本	第12回			第13回	看護研究の倫理審査について	西村亜	第14回			第15回	研究における倫理、まとめ、発表 プレゼン	松本	予備回	研究公表に関する倫理的配慮 まとめ	松本
第1回	オリエンテーション、倫理の基本的な考え方	松本																																																	
第2回	倫理の原則と重要概念	松本																																																	
第3回	看護倫理のための意思決定モデルについて	川本																																																	
第4回	看護倫理のための意思決定モデルを用いた事例	川本																																																	
第5回	小児の倫理的問題	川本																																																	
第6回	小児の倫理的問題の検討	川本																																																	
第7回	看護研究における倫理研修 e-learningについて	松本																																																	
第8回	看護研究の倫理指針	松本																																																	
第9回	倫理的問題の検討法、ケアの倫理	山本																																																	
第10回	看護倫理、職業倫理、倫理綱領	山本																																																	
第11回	高齢者の倫理的問題	山本																																																	
第12回																																																			
第13回	看護研究の倫理審査について	西村亜																																																	
第14回																																																			
第15回	研究における倫理、まとめ、発表 プレゼン	松本																																																	
予備回	研究公表に関する倫理的配慮 まとめ	松本																																																	

2026 医学系研究科

行います。教員はディスカッションのファシリテーターとアドバイザーとなります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

項目によって、準備学修及び事後学修方法や内容等の具体的指定がある場合は、指示された方法に従うこととします。

特に指定がない場合は、以下の内容とします。

- 第1回 倫理の基本的な考え方について考察を深める。
- 第2回 倫理原則に関する参考書や資料を準備、考察する。
- 第3回～第4回 看護倫理の意思決定モデルの関する要点をまとめる。
- 第5回～第6回 小児の倫理問題について課題の整理をする。
- 第7回 看護研究倫理研修について、理解を深め、e-learningを受講する。
- 第8回 看護研究倫理指針について理解を深める
- 第9回 倫理的問題の検討法、ケアの倫理 について要点をまとめる。
- 第10回 看護倫理、職業倫理、倫理綱領について要点をまとめる。
- 第11回 高齢者の倫理問題について考察する。
- 第12回
- 第13回 看護研究倫理審査について、理解を深める。
- 第14回 看護研究の倫理審査について理解を深め、ケアの倫理等に関する資料や参考書から要点をまとめる。
- 第15回 医学部倫理委員会の倫理審査に必要な倫理指針について要点を整理し、理解を深め、発表する。
- 予備回 看護研究に必要な倫理指針について理解の定着を図る。

* 準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

[参考書]

サラ・フライ著、片田範子他訳(2010)、看護実践の倫理 第3版、医学書院、2,376円、書籍部
アン J. デーヴィス監修、看護倫理 理論・実践・研究、日本看護協会出版会、2004、3,150円
ジョンセン他著、赤林他監訳(2006)、臨床倫理学、新興医学出版、3,000円
その他の図書については適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日17時から18時30分、ただし事前にアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

倫理に関する感性を高めるために、日常に疑問を持ち、授業に望んで欲しい。また、研究については、研究のプロセスなど、研究計画について少し考えている方が望ましい。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M1NRS-BACM-40-Mg 授業科目名 (講義コード: M660012-1) 看護研究方法論 1 Methodology of Nursing Research I (Foundation of Nursing Research, Qualitative study)	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M1・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美, 西村 亜希子, 山本 美輪	関連授業科目 看護研究方法論 2 履修推奨科目 看護倫理学 理論看護学		
学習時間 授業・演習90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 修士論文を作成するにあたり、論文を読む能力と論文を書くために必要な基本的な知識について学ぶ。まずは看護研究の概要について教授し、次に質的なアプローチを教授する。看護実践の中から生まれる研究疑問を、研究論文としてまとめるための知識体系を発展させる基礎能力の涵養を目指す。			
授業の目的 1) 看護実践の中から生まれる研究疑問を明確化し、研究テーマを絞り込み、研究方法を選択し、研究計画書を作成して実践するといった基本的な研究プロセスを理解する。 2) 研究に欠かせない文献検索や論文のクリティークについて理解し、研究の演習に活用する。 3) 研究テーマと質的研究の関係について理解を深める。 4) 質的研究方法と研究手法について理解し、自己の研究テーマに沿った研究手法の選択に活用する。			
到達目標 1) 看護研究のめざすものおよび研究のプロセスについて説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2) 研究に必要な文献を検索することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 3) 質的なアプローチの研究の具体について説明することができる(DPの「専門知識・理解」に対応)。 4) 研究テーマに沿った研究方法と進め方について説明することができる(DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 1. 講義のテーマに応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (60%) 2. 講義のテーマに応じた議論の参加度 (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】			
第1回	看護研究方法論1のガイダンス	西村	
第2回	看護研究とは	西村	
第3回	研究デザインとプロセスの概要 ・看護実践の中から生まれる研究疑問を科学的な看護研究とするために必要な考え方やプロセスを学ぶ	西村	
第4回	看護研究と文献検索・文献検索演習1 ・研究にとって欠かせない文献検索方法を演習を通して理解する ・データベース紹介、医学中央雑誌検索方法、CiNii検索方法	渡邊	
第5回	論文のクリティーク	新小児看護学教授	
第6回	看護研究と文献検索・文献検索演習2 ・学外文献申し込み方法、Mendeley利用方法、文献検索演習	新小児看護学教授	
第7回	研究の概念枠組みとサブストラクション	新小児看護学教授	
第8回	主な質的研究方法と研究手法 テキストデータマイニング	山本	
第9回	主な質的研究方法と研究手法 テキストデータマイニング・トレンドサーチ	山本	
第10回	質的研究の質の確保		山本
第11回	看護研究へ向けてディスカッション		山本
第12回	主な質的研究方法と研究手法 概念分析、内容分析	渡邊	
第13回	主な質的研究方法と研究手法 グラウンデッド・セオリー、M-GTA	渡邊	
第14回	質的研究におけるデータ収集方法、分析	渡邊	
第15回	質的研究のクリティーク	渡邊	
【授業及び学修の方法】			

2026 医学系研究科

授業は、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れながら行うが、受講者は個々の研究テーマに基づき、具体的に学びを深めることが望ましい。第15回では、自己の研究テーマに関する適切な研究方法を整理し、発表し、討議を行う。

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

各回、以下に提示した内容を事前にまとめ、講義中、ディスカッションする。

- 第2回 授業資料を読み復習する (2時間)
- 第3回 研究になる看護実践の中の疑問を検討し、論理的に説明する資料を作成 (5時間)
- 第4回 文献検索演習問題を解く (1時間)
- 第5回 提示された文献をクリティークする (10時間)
- 第6回 演習問題を解く (1時間)
- 第7回 提示された論文の概念枠組みとサブストラクションを考え資料を作成 (5時間)
- 第8回 テキストデータマイニングについて文献をもとに考える (5時間)
- 第9回 トレンドサーチについて文献をもとに考える (5時間)
- 第10回 質的研究の質の確保について、文献を読み、具体的に考える (5時間)
- 第11回 質的研究の特徴を踏まえて、研究方法の選択について考える (3時間)
- 第12回 質的研究の歴史と特徴から看護領域への活用を考える (5時間)
- 第13回 質的研究に特有な名称と方法の概略を知る (5時間)
- 第14回 インタビューと参与観察の方法を具体的に考える (3時間)
- 第15回 グラウンデッド・セオリーの手法で実施された文献をもとに考える (5時間)

教科書・参考書等

教科書

参考書

1. D. F. ポーリット&C.T. ベック、監訳 近藤潤子：看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院, 2010. 9, 975円
2. バーンズ&グローブ、監訳 黒田裕子・中木高夫・逸見功：看護研究入門 原著第7版—評価・統合・エビデンスの生成, ELSEVIER, 2019. 9, 900円
3. アメリカ心理学会 訳 前田樹海, 江藤浩之：APA論文作成マニュアル 第3版, 医学書院, 2023. 4, 620円
4. 北素子, 谷津裕子：質的研究の実践と評価のためのサブストラクション, 医学書院, 2009. 3, 080円
5. ホロウエイ, S. ウイラー, 野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版, 医学書院, 2008. 3, 960円
6. 戈木クレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グランデッドセオリー・アプローチを学ぶ 増補版, 医学書院, 2008. 2, 860円
7. 山本則子, 萱間真美 他：グランデッドセオリー法を用いた看護研究のプロセス, 文光堂, 2005. 2, 640円
8. 木下康仁：ライブ講義M-GTA実践的質的研究法 修正版グランデッドセオリー・アプローチのすべて, 弘文堂, 2007. 2, 640円
9. 木下康仁：M-GTA グランデッドセオリーアプローチの実践 質的研究への誘い, 弘文堂, 2003. 2, 200円
10. 木下康仁：M-GTA 分野別実践編 グランデッドセオリーアプローチ, 弘文堂, 2005. 2, 530円
11. 谷津裕子：Start Up 質的看護研究 第2版, Gakken, 2017. 2, 750円
12. グレグ美鈴他編：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第3版, 医歯薬出版, 2017. 3740円

オフィスアワー

各講義終了後1時間

西村：事前にメールで連絡ください。看護学科教育研究棟 3階318号室

新小児看護学教授：事前にメールで連絡ください。看護学科教育研究棟 4階414号室

渡邊：事前にメールで連絡ください。看護学科教育研究棟 6階616号室

山本：事前にメール連絡ください。yamamoto.miwa@kagawa-u.ac.jp 3階316号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践するといった姿勢で臨むこと。

教員の実務経験との関連

看護学専攻修士・博士課程における研究指導の経験があります。長年携わってきた専門領域の研究業績、研究指導の実績をもとに授業を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M1NRS-BACM-40-Mg 授業科目名 (講義コード: M660013-1) 看護研究方法論 2 Methodology of Nursing Research II	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M1・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子・芳我 ちより・宮武 伸行	関連授業科目 看護研究方法論 I	履修推奨科目 看護倫理学、理論看護学	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業は、看護領域における研究方法の多様性を踏まえ、看護研究の基礎である看護研究方法論1の学習内容を基盤として開講する。 本授業では、量的アプローチによる研究方法の理解を深めることを目的とし、量的研究に用いられる代表的な研究デザインを紹介するとともに、実態調査研究、相関研究、実験研究などの論文を精読し、量的研究方法の特徴と実践的意義を指導します。また、記述統計や検定など統計学の基礎を講義し、見本エクセルデータを用いた記述統計・推測統計の演習を通して、統計的手法の理解と実践力の向上を図ります。			
授業の目的 看護学が対象とする人の健康を取り巻く多種多様な複雑な状況をいろんな視点から研究を進めていくため、自然科学を基盤とした量的研究の方法を学ぶ必要があります。この科目では、リサーチクエストのレベルに応じた研究デザインを理解し、さらに論文のクリティークを通して、量的研究の論文を読み込む基礎的力を身につけます。また、統計学の知識として記述統計・推定・検定などの知識を修得し、さらに量的データを分析する力を演習を通して修得します。			
到達目標 1. 研究疑問のレベルに適した研究デザイン(実態調査研究、相関研究、実験研究)を説明できる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 2. 研究デザインごとに量的研究文献を収集し深く読むことができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 量的データ分析の記述統計と推測統計について説明することができる。(DPの「専門知識・理解力」に対応) 4. 見本データから記述統計と推測統計を実施し、結果としてまとめることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 参加度20%(到達目標1と3に対応) 2. 発表および討議30%(到達目標2と4に対応) 3. 最終課題レポート50%(到達目標1から4に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は講義だけでなく、受講者の理解を深めるために対面による発表と討議を取り入れます。自学自習による準備・学習を求めます。 第1回 ガイダンス 第2回 量的研究方法とは 市原 第3回 量的研究デザイン 市原 第4回 統計学的アプローチとは 宮武 第5回 記述統計 宮武 第6回 推定 宮武 第7回 検定 宮武 第8回 相関と回帰 宮武 第9回 多変量解析 宮武 第10回 量的研究文献の抄読をもとに発表 市原 第11回 量的研究文献のクリティーク 市原 取り寄せる論文のテーマは自由ですが、期日までにまとめて発表する。			

2026 医学系研究科

第12回 統計演習：記述統計によりデータ分析 芳我
演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、
検定（t検定）を実施する（ワークシートあり）。期日までにワークシートを提出する。

第13回 統計演習の説明とまとめ1 芳我

第14回 統計演習：推定の実施（相対危険・オッズ比） 芳我

第15回 統計演習の説明とまとめ2 芳我

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

自学自習（準備学習 30時間 + 事後学習 30時間）

第2～3回 紹介した看護研究の図書等を読み、量的研究を学習しておいてください。（10時間）

第4～9回 統計学の図書を読み、事前に学習しておいてください。（20時間）

第10～11回 実態調査研究、相関研究、準実験研究の中から原著論文を深く読み、発表できるよう準備しておいてください。（10時間）

第12～15回 演習用エクセルデータを用いて、記述統計によりデータの分布を説明した上で、検定と推定を実施してください（ワークシートあり）。（20時間）

教科書・参考書等

教科書 なし

参考書 演習の進行度に合わせて適宜紹介します。

オフィスアワー

講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら積極的に学び、自らの研究において実践する姿勢で臨んでください。

教員の実務経験との関連

看護学専攻修士課程の研究指導の経験があります。長年携わってきた量的研究の業績や研究指導の実績をもとに授業を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M660003-1) 看護教育学 Nursing Education	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ACB・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・渡邊 久美・石井 有美子	関連授業科目 看護研究方法論 看護倫理学	履修推奨科目 看護研究方法論 看護倫理学	
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 看護学教育の概要を学び、看護教育学研究の課題について研究する。教育の基本要素である目標、計画、評価と、看護教育の特徴である講義から臨床教育までの実施方法を理解する。また、PBL (Problem based learning)、TBL (Team based learning)、Simulated Patient、OSCEを実際に体験し、方法を理解する。			
授業の目的 本授業は、医療機関などにおいて学生や現任者に指導・助言する立場にある看護師・保健師・助産師、養護教諭あるいは看護学の教育研究活動に従事するための基礎となる学科目であり、院生が、それぞれの現場で教育的役割を果たすための意義や方法を学ぶことを目的とする。			
到達目標 1. 看護学および看護教育学の歴史を概観し、説明できる。(DPのA：専門知識・理解に対応) 2. 看護学における教育制度・課程、教育評価、指導者養成、生涯教育などについて、概要を説明できる。(DPのA：専門知識・理解に対応) 3. 看護実践の現場における現任者と実習生に対する 教育的役割の課題と方法が説明できる。(DPのB：研究能力・応用力に対応) 4. 現状の看護の臨床および教育現場に対する問題解決方法を説明できる。(DPのB：研究能力・応用力に対応)			
成績評価の方法 事前学習と発表：50%，成果物（撮影動画を含む）：50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業計画 第1回 ガイダンス・日本の看護教育制度・教育課程と教育研究者養成 [講義] 芳我 第2回 看護学教育の歴史、学問としての看護と職業人養成、生涯学習 [講義・演習] 渡邊 第3回 看護学教育におけるカリキュラム開発一授業、演習、実習の組み立て [講義] 石井 第4回 授業方法 問題基盤型学習 (Problem Based Learning)、アクティブラーニングによる演習 [講義・演習] 石井 第5回 臨床指導者との協働による臨地実習：看護専門教育のあり方の検討 [講義・演習] 渡邊 第6回 看護実践力（コンピテンシー）の評価について [講義・演習] 渡邊 第7回 看護教育学研究 [講義] 渡邊 第8回 看護継続教育における学習ニーズ [講義] 芳我 第9回 組織における教育としてのFaculty Development :FD [講義] 芳我 第10回 クライエントの健康行動の変容を促す教育的支援の実際 1 [講義] 渡邊 第11回 クライエントの健康行動の変容を促す教育的支援の実際 2 [演習] 渡邊 第12回 教育評価の方法と看護学教育における評価項目の作成 1 [講義・演習] 石井 第13回 教育評価の方法と看護学教育における評価項目の作成 2 [講義・演習] 石井 第14回 看護教育・看護臨床における教育評価の今日的課題 [講義・演習] 芳我 第15回 看護教育・看護臨床における教育評価の今日的課題 [講義・演習] 芳我 【自己学習へのアドバイス】 院生各自がレジュメを準備し、討論形式で行う場合と演習を行う場合がある。 第1回 医学書院「看護教育学」最新版等で看護教育制度の現状について概観を行って臨む5h 第2回 上記参考図書にて、これまでの看護師養成の歴史を概観しておく5h 第3回 同上および、データベースでカリキュラム開発に関する最近の研究動向を概観しておく5h			

2026 医学系研究科

- 第4回 PBL、アクティブラーニングの用語定義を事前学習しておく 5h
- 第5回 同上および、香川大学の「教育要項：実習の手引き」を概観しておく 5h
- 第6回 看護基礎教育における看護実践能力：コンピテンシーの到達目標について事前学習する 5h
- 第7回 身近な「看護教育」上の課題と感じていることをまとめる。5h
- 第8回 現任教育として現在、経験している研修などについてまとめておく。5h
- 第9回 キャリアラダーについて、各自の領域のものを読んでおく。5h
- 第10回 自身が経験したクライアントへの教育場면을記載しておく。5h
- 第11回 グループワークで経験した内容をもとに、各自の学習課題を明確にしておく。5h
- 第12回 困難な支援場면을プロセスレコードに起こす。5h
- 第13回 「教育評価」および「到達度評価の研究」の事前学習 5h
- 第14回 「教育評価の方法」としてのタキノミーに関する事前学習 5h
- 第15回 各自の実践における継続教育について検討すること 5h

教科書・参考書等

杉森みど里・舟島なをみ編著 看護教育学、最新版、医学書院 (5,500円)
安永 悟著 (2012) 活動性を高める授業づくり、医学書院 (2,640円)
糸賀暢子他著 (2017) 看護教育のためのパフォーマンス評価、医学書院 (2,970円)
橋本重治著(2000)、到達度評価の研究—その方法と技術、図書文化 (2,530円)
橋本重治著(2000)、到達度評価の研究—その方法と技術 続、図書文化 (2,090円)
橋本重治著・応用教育研究所 編(2003)、教育評価法概説、図書文化 (2,530円)

オフィスアワー

授業前30分程度および終了後1時間程度 各教員室にて対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自の進行状況に応じて、相談に応じます。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M660004-1) 看護管理学 Nursing Management	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ACB・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子・今井 多樹子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分(講義+演習)×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、看護管理に必要なとされる知識体系について、実践現場の事例と関連づけながら学ぶ。看護組織における人材管理・労務管理・医療安全管理・情報管理・経営的視点を含め、看護サービスの質向上、安全な医療提供体制の確立、効率的・効果的な看護管理のあり方について解説する。また、実践管理者による講義を通して、看護管理に必要な意思決定、組織運営、課題解決のプロセスを理解し、看護マネジメントの実践的理解を深める。			
授業の目的 看護管理に必要な知識体系を、各自の実践現場と関連づけて理解し、組織運営・人材管理・医療安全・質改善などの管理上の主要課題について、実践的な視点から学修することを目的とする。外部講師による実践事例を通して、看護サービスの質向上、安全で効率的・効果的な看護管理のあり方を理解し、管理者として求められる意思決定力、課題解決力、マネジメント能力の基盤を形成する。			
到達目標 1) 組織とは何かを説明し、看護組織論に基づいて看護組織の構造・文化・機能・コミュニケーションの特徴を論じることができる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2) 看護サービスの質向上を目的とした資源(人・物・情報・時間)のマネジメントについて、実践事例を踏まえて具体的に述べることができる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3) リスクマネジメントと医療安全の基本概念を説明し、インシデント・アクシデント事例をもとに、管理者としての安全文化の醸成と再発防止策を検討できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4) 看護管理者の役割・機能を理解し、変化する医療環境における看護管理のあり方を、組織運営・人材育成・労務管理・質改善の視点から述べることができる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容と参加度 (10%) 2. 第2～14回 講義レポート (60%) 3. 課題レポート (30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了：到達目標を達成している。 不合格：到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 本授業では、看護部長・副部長・師長等の管理職を外部講師として招き、組織運営、人材管理、労務管理、医療安全管理、質改善など、実践的な管理事例をもとに講義と討議を行う。 第1回 ガイダンス (川田 紀美子・今井 多樹子) 科目の目的、管理領域の全体像、授業の進め方、実践管理と大学院教育の関連について説明する。 第2回 安全管理について (香川大学医学部附属病院 酒井 佳代 医療安全GRM) 医療安全管理体制、インシデント分析、患者安全文化の構築を理解する。 第3回 看護職のキャリアディベロップメント (香川大学医学部附属病院 納田 広美 副看護部長) 看護職のキャリア形成、人材育成、コンピテンシーの活用について学ぶ。 第4回 災害看護管理について (香川大学医学部附属病院 國方 美佐 看護師長) 災害時の看護管理、災害対応体制、BCPと資源配分の考え方を学ぶ。 第5回 医療施設における経営管理の実践 (香川大学医学部附属病院 阿部 慈 看護部長) 病院経営の基礎、看護必要度と収益構造、人件費管理、経営指標の活用を理解する。			

2026 医学系研究科

第 6 回 管理の基本概念・管理の概念 (香川大学医学部附属病院 阿部 慈 看護部長)

看護管理の基礎概念 (組織運営・労務管理・意思決定・情報管理) について学ぶ。

第 7 回 感染管理 (香川大学医学部附属病院 間嶋 由美子 看護師長)

感染対策と組織的管理、スタッフ教育、安全なケア提供体制の構築を理解する。

第 8 回 診療報酬・介護報酬・物品管理 (香川大学医学部附属病院 角田 光代 副看護部長)

診療報酬制度の基礎、収益構造、物品管理とコストマネジメントについて学ぶ。

第 9 回 薬剤に関する医療事故と防止策 (香川大学医学部附属病院 山口 佳津騎 医療安全管理部薬剤師 GRM)

薬剤関連事故の要因分析、リスク低減策、チーム医療の視点から考察する。

第10回 病院における業務管理の実際 (総合周産期母子医療センター) (香川大学医学部附属病院 槇野 久美子 看護師長)

医療現場における業務管理、調整、患者・家族支援、他職種連携を理解する。

第11・12 回 医療安全における他職種との連携 (香川大学医学部附属病院 光家 努 医療技術部副部長 スキルラボセンター長)

医療事故防止の視点から、看護・医療技術職・医師の協働と連携モデルを学ぶ。

第13回 総合地域医療連携センターの業務と役割 (香川大学医学部附属病院 松前 有香 看護師長)

地域連携のしくみ、多職種協働、退院支援と地域包括ケアの流れを理解する。

第14回 特殊業務における看護管理 (フライトナースについて) (香川大学医学部附属病院 國方 美佐 看護師長・吉田 和史 副看護師長)

フライトナース業務の特徴、特殊環境における看護管理、危機管理の実際を学ぶ。

第15回 総括 (川田 紀美子・今井 多樹子)

全体の学修成果を振り返り、看護管理者としての課題意識と今後の展望を共有する。

※授業計画は状況に応じて変更する場合があります。変更が生じた際は授業内で案内します。

【授業および学修の方法】

講義を中心にすすめるが、内容に応じて受講者の理解を深めるためにグループワークを取り入れる。第2回から第14回までは学習内容の整理と理解を深めるためにレポートを課す。最終回には課題レポートを提出する。(各回2-4時間)

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

受講者がこれまで経験してきた職場管理の視点から、現在の各職場の問題や課題について、看護管理の視点から改めて見直しまとめておく。それらから、実際に起こっている問題は何か、解決するにはどのようなことが必要かを検討する。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書は使用しない。参考書は講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー

講義終了後1時間

※授業日以外に来室を希望する場合は、事前にメールでご連絡ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は平日昼間に開講しますが、社会人学生に配慮した講義日時を設定する予定です。第1回講義時にご相談ください。学習目標をもって主体的に受講することを期待します。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M1NRS-ABXM-40-Mg 授業科目名 (講義コード: M660005-1) 臨床科学 Clinical Science	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M1・NRS	DP・提供部局 ABX・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Mg	単位数 2	
担当教員名 三明 淳一郎・加藤 育子	関連授業科目 看護医科学特論	履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 近年の医学の進歩は目覚ましく、遺伝子医学や個別化医療(プレジジョン・メディシン)に代表される新たな道を歩みつつある。本講義では、担当教員の専門領域である「臨床薬理学」と「乳幼児発達学」の分野における最新トピックスを紹介する。 特に、薬物療法の原理、創薬プロセス、副作用マネジメント、および小児の成長発達に関する最新の医学情報を提供し、看護職が高度な看護実践や研究を進める上で不可欠な科学的思考を深めることを目指す。また、基礎研究から臨床応用への橋渡し(トランスレーショナルリサーチ)の視点も養う。			
授業の目的 目覚ましく進歩・発展を遂げる医学を理解するためには、その基礎にある薬理的・生理学的メカニズムと、エビデンスの構築プロセスを学ぶことが重要である。 本講義では、臨床薬理学および乳幼児発達学の各トピックスを通して、薬物治療の最適化や適正使用、ライフステージに応じた発達支援に関する科学的根拠を理解し、的確な看護実践および研究立案に応用できる能力を修得することを目標とする。			
到達目標 1. 薬物動態学(PK)および薬力学(PD)の基本原理を説明でき、投与設計の意義を理解できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 2. 医薬品開発のプロセス(治験)と、ドラッグ・ラグなどの社会的課題について説明できる。(DPのA「専門知識・理解」、C「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 薬物有害事象(副作用)や相互作用のメカニズムを理解し、ポリファーマシー対策などの薬学的管理について考察できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応) 4. 循環器疾患や生活習慣病など、主要な疾患に対する最新の薬物療法について説明できる。(DPのA「専門知識・理解」に対応) 5. 胎児期から学童期に至る子どもの発達過程と特徴を説明できる。(DPのA「専門知識・理解」に対応) 6. 母子相互作用や発達障害などの課題に対し、科学的根拠に基づいた支援の在り方を考察できる。(DPのA「専門知識・理解」、B「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議・参加状況(20%) 2. プレゼンテーションおよびレポート(80%) ※担当教員ごとに課題を提示し、総合的に評価する。			
成績評価の基準 大学規定の基準に準ずる: 秀・優・良・可・不可			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 この科目は担当教員と調整の上、原則として対面授業(集中講義形式を含む)を行う。 構成は「Part I: 臨床薬理学の基礎(三明)」「Part II: 乳幼児発達学(加藤)」「Part III: 臨床薬理学の応用(三明)」の3部構成とする。 (Part I: 臨床薬理学の基礎と開発 / 担当: 三明) 第1回 臨床薬理学概論: 薬物治療の基本原則とEBM 第2回 薬効薬理学(薬力学): 受容体・チャネル・トランスポーターと創薬ターゲット 第3回 薬物動態学(PK/PD): ADME、TDM(血中濃度モニタリング)、投与設計 第4回 薬物相互作用と遺伝多型: 薬の飲み合わせ、PGx(個別化医療) 第5回 医薬品開発と臨床試験: 治験(フェーズI-III)、承認審査、ドラッグ・ラグ (Part II: 乳幼児発達学 / 担当: 加藤) 第6回 胎児期から新生児までの行動 第7回 乳児期の発達 第8回 母子相互作用(母乳育児を含む) 第9回 幼児期の発達 第10回 学童期の心の変化 (Part III: 臨床薬理学のトピックスと応用 / 担当: 三明) 第11回 循環器系の臨床薬理: 心不全・不整脈の病態生理と最新薬物治療 第12回 生活習慣病の薬物療法: 高血圧、糖尿病、脂質異常症の治療薬 第13回 高齢者の薬物療法: ポリファーマシー、フレイルと薬、服薬管理			

2026 医学系研究科

第14回 薬物有害事象（副作用）：重篤副作用のメカニズム、薬害の歴史と倫理

第15回 トランスレーショナルリサーチ：基礎研究から臨床への橋渡し研究

各回の授業内容に関連する最新の文献や資料を事前に熟読し、疑問点を整理しておくこと（準備学習 各回2時間）。

授業後は、講義内容を振り返り、自身の研究課題や臨床実践にどのように応用可能であるかを考察し、まとめておくこと（事後学習 各回2時間）。

教科書・参考書等

特定の教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布するか、適宜、専門書や学術論文を紹介する。

<参考書例>

Bertram G. Katzung（著），柳澤 輝行ほか監訳（2009）：『カッツング薬理学』丸善出版．¥3,871

飯野 正光ほか編（2021）：『標準薬理学（第8版）』医学書院．¥7,480

林洋一監修（2022）：『最新図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社．¥1,650

オフィスアワー

担当教員とメール等で個別に調整してください。

三明：jmiake@tottori-u.ac.jp（※着任後のアドレスに変更予定）

加藤：kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程は、社会人院生が履修しやすいように、土・日・夜間等を基本として調整しますが、随時相談に応じます。

主体的な参加を期待します

教員の実務経験との関連

三明：医師・医学博士として、薬理学・臨床薬理学の教育・研究に従事。循環器内科医としての臨床経験および基礎研究から臨床試験に至る研究実務経験に基づき、薬物療法に関する講義を行う。

加藤：小児科医として臨床経験を積み、母乳育児や乳幼児の脳機能評価に関する研究を行っている。その経験に基づき、発達支援に関する講義を行う。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M1NRS-acdM-40-Pf 授業科目名 (講義コード: M660006-1) 国際看護学特論 Global Nursing Theories International Exchange Activities	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M1・NRS	DP・提供部局 acd・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪・川田 紀美子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 経済のグローバル化、国際間の移動手段と情報の発達に伴い、人間の活動は国境を越えて拡大している。また、地球温暖化やそれぞれの国や地域で起こっている紛争なども自分たちを安全地帯において考えるわけにはいかない状況がある。このような国際社会において、広い視野に基づき、改めて看護の意味を考える。そして、文化の異なる日本以外の国の看護、その教育、実践、医療福祉政策における看護の役割について学習する。また、発展途上国におけるボランティア活動、国際貢献の実際とそのピットフォールについて理解を深め、国際的視野に立って世界の看護・保健・医療・福祉の現状を理解し、国際看護学の課題と展望を追求する。			
授業の目的 授業の目的 1. 世界の健康問題について理解する 2. 異文化における看護教育、看護実践、看護政策について理解する 3. 発展途上国での保健医療の現状と問題点について理解する 4. 先進国での保健医療の現状と問題点について理解する 5. グローバルな視点から、日本の健康課題について考察する 6. 他の国の人々と積極的に相互理解する行動をとる 7. 国際保健医療における看護の役割について考察する			
到達目標 1. 国際保健医療での看護の役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 日本とそれ以外の異文化における看護、その教育、実践に関して比較して述べることができる (DPの「グローバルマインド」に対応) 3. 世界の健康問題について、疫学や生態学等の視点から述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 世界の健康問題について、社会、文化、政治、経済及び保健医療システムの関連から総合的に現状を評価できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 5. グローバルな視点から、日本の健康問題について論理的に説明できる (DPの「グローバルマインド」に対応) 6. 日本以外の人々と相互理解する行動をとることができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 国際保健医療におけるこれからの看護の役割について、創造的に述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 1. 講義のテーマに応じたプレゼンテーション資料の作成と発表 (40%) 2. 講義のテーマに応じた議論の参加度 (50%) 3. 国際交流活動への参加度・貢献度 (10%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス、レポート課題提示 谷本 看護基礎教育における「国際看護学」 インターナショナルとグローバル 第2回 看護職に求められる国際的視点 川田 第3回 国際看護学の概念 川田 第3回 国際看護学の概説 川田 第4回 国際看護の展開 I : 看護の将来 川田			

2026 医学系研究科

第5回 国際看護の展開Ⅱ：異文化・多文化 山本

第6回 諸外国の看護教育 山本

第7回 諸外国の看護師資格 山本

第8回 看護の国際組織 山本

第9回 世界の健康問題：人口 山本

第10回 世界の健康問題：社会経済指標 山本

第11回 世界の健康問題：保健指標 山本

第12回 健康問題の背景 山本

第13回 在日外国人の保健医療問題 新地域准教授

第14回 在日外国人への看護 新地域准教授

第15回 国際看護学特論の学びとまとめ 川田

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と全体討議を取り入れる。毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、資料を作成する。第15回では、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、受講者が発表し、討議を行う。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

国際的な視野に立っての討論や発表を試みます。

教科書・参考書以外の国際看護に関する情報をインターネットで収集するなどの自己学習が必要です。海外の資料も講読しましょう。

第2～4回 国際保健医療での看護の役割についてまとめる（15時間）

第5～7回 日本とそれ以外の異文化における看護、その教育、実践に関して調べ、整理する（15時間）

第9 世界の健康問題について、疫学や生態学等について概観する（5時間）

第8、10～12回 世界の健康問題について、社会、文化、政治、経済及び保健医療システムの関連から総合的に現状を評価し、整理する（5時間）

第13～14回 日本以外の人々と相互理解するために必要な行動についてまとめる（5時間）

第15回 グローバルな視点から、日本の健康問題について論理的にディスカッションできるよう準備する（5時間）

第15回 国際保健医療におけるこれからの看護の役割について、小レポートを作成する（10時間）

教科書・参考書等

【参考書】

近藤麻理，知って考えて実践する国際看護，医学書院，2011年，¥1,800＋税

【参考書】

田代順子監修，ワークブック国際保健・看護基礎論，PILAR PRESS，2016年，¥2,200＋税

田代やよひ編集，新体系看護学全書 看護の統合と実践③ 国際看護学，メジカルフレンド社，2012年，2,100円＋税

オフィスアワー

講義当日の18時から18時半と21時45分から22時30分 316研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義内容は受講生との検討により、変更する可能性があります。また、非常勤講師による講義のため、集中講義で行う可能性があります。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M660014-1) 養護教育特論 School Health Care Theories	科目区分 基盤科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 石井 有美子	関連授業科目 履修推奨科目 看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、学校現場における現代的な健康課題を題材に、養護教諭の専門的役割、保健教育の実践、ならびに学校保健に関する研究の基礎について体系的に学ぶ。あわせて、慢性疾患や医療的配慮を要する子どもへの支援、校内外連携の在り方について、事例や文献を通して検討する。			
授業の目的 本授業は、養護教諭免許を有する者を対象に、学校における健康課題に対して専門的かつ実践的に対応できる力を養うことを目的とする。具体的には、保健教育の立案・省察、慢性疾患等をもつ子どもへの支援、ならびに実践を基盤とした研究的視点を身につけ、養護教諭としての専門性を再構築・高度化することを目指す。			
到達目標 1. 学校生活に影響を及ぼす小児慢性疾患や性に関する健康課題について、医学的・教育的観点を踏まえて説明することができる。 2. 慢性疾患や不調を抱える子どもに対する保健室対応や個別支援について、養護教諭の専門性にに基づき具体的に構想することができる。 3. 病弱・身体虚弱のある子どもへの教育的支援において、校内外の関係職種との連携の在り方を理解し、役割を整理して説明することができる。 4. 学校保健における実践をもとに、養護教諭が取り組む研究の意義を理解し、研究課題や方法を構想することができる。 5. 事例をもとに、継続的な健康支援と学校体制の中で養護教諭が果たす役割について批判的に検討し、自身の実践に結びつけて考察することができる。			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 レポート75% (主に到達目標1、2、4～6に対応)、発表及び討議25% (主に到達目標3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 養護教諭の専門性と学校における健康課題の現状 第2回 幼児期・学童期におけるヘルスプロモーションと養護教諭の保健教育 第3回 学校保健における保健教育計画の立案 (実践的検討) 第4回 保健教育計画の発表とディスカッション 第5回 保健教育実践の省察と理論化 第6回 日本の児童生徒を取り巻く健康課題 (文献講読・講義) 第7回 海外における児童生徒の健康課題とスクールヘルスー 日本への示唆 ― (文献講読・演習) 第8回 学校保健における研究の意義と方法 ― 養護教諭の実践研究 ― 第9回 養護教諭として行う研究の進め方① (講義) 第10回 養護教諭として行う研究の進め方② (演習) 第11回 学校生活に影響する小児慢性疾患および性に関する健康課題の事例的理解 (学校生活への影響)			

2026 医学系研究科

第12回 慢性疾患や不調を抱える子どもへの養護教諭による保健室対応と支援の実際 (判断と調整)

第13回 病弱・身体虚弱のある子どもへの教育的支援と校内外連携の在り方

第14回 事例を通して考える継続的な健康支援と学校体制における養護教諭の役割

第15回 授業全体のまとめ — 養護教諭としての専門性の再構築 —

【授業及び学修の方法】

本授業は集中講義として実施する。

第1回～第5回および第11回～第15回では、担当教員による講義に加え、講義内容を踏まえたディスカッションを通して、学校保健に関する多角的な視点の獲得を目指す。一方、第6回～第10回は、担当教員による個別的な講義・演習を中心に行い、学校保健に関する研究の意義や方法について理解を深める。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1～5回

現代の子どもを取り巻く健康課題について、新聞、専門誌、公的資料等から関心のあるテーマを選び、その現状と課題を整理し、授業内で説明できるよう準備する。(1時間×5回)

また、取り上げた健康課題について、養護教諭の専門性を踏まえた保健教育計画を立案し、実践への応用可能性について検討する。(10時間)

第6～10回

小児の健康課題に関する国内外の動向について、厚生労働省やWHO等の公的機関の資料、ならびに学術論文や専門誌の記事を収集・講読し、内容を整理したうえで授業に臨む。(2時間×5回)

授業で提示される課題に取り組み、学校保健における研究の意義や、養護教諭が研究に取り組む意義・役割について考察する。(10時間)

第11～14回

小児がん、1型糖尿病、アレルギー疾患などの慢性疾患や、病弱・身体虚弱のある子どもへの支援について、情報センター等の公的ウェブサイトや関連資料を用いて調べ、授業内容を踏まえて説明できるよう復習する。(2時間×4回)

あわせて、病院内学級や病弱・身体虚弱特別支援学級に関する研究論文を検索・講読し、継続的な健康支援や学校復帰支援における課題、ならびに養護教諭の専門的役割について考察する。(10時間)

教科書・参考書等

課題および研究進行度を考慮し、適宜、提示・紹介します。

オフィスアワー

講義の前後の時間に相談する事。

石井：メールでアポイントをとってください。 看護学科教育研究棟 5階 514号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的な学びを基に授業に参加してください。

教員の実務経験との関連

医療機関や学校での子どもの健康に関する経験を有し、広い母子保健、健康リテラシーに関する研究実績をもとに講義を担当する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M661106-1) 看護医科学特論 Advanced Medical Science of Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 三明 淳一郎・加藤 育子	関連授業科目 臨床科学	履修推奨科目 特になし	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習（準備学習 30時間＋事後学習 30時間）			
授業の概要 看護に関する医学的問題点やジレンマを探求するために、臨床薬理学および乳幼児発達学の手法を通して、人体の構造や生理的機能、疾病の病態生理、薬物療法について学生とともに知識を深める。			
授業の目的 学生にとって関心のある看護分野に関する文献や成書、先行研究をもとに、リサーチクエストをたて、臨床薬理学および乳幼児発達学といった医学的手法を用いて課題解決の方法を探求する。			
到達目標 1) 漢方の考え方、アセスメント、言葉の力を各々の看護分野に活かす方法を考え、研究テーマを見出すことができる。 2) 乳幼児の発達や母子相互作用、母乳育児を理解し、看護における効果的な乳幼児を持つ家族支援システムを提案することができる。 3) 文献検索により上記の問題点を探求することができる 4) 上記の問題点を解決するために必要な研究方法を具体的に述べられる (DPの「専門知識・理解」、「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容 (10%) 2. 選択したテーマに応じたプレゼンテーション資料作成と発表内容 (50%) 3. 最終課題レポート (40%)			
成績評価の基準 大学規定の基準に準ずる：秀・優・良・可・不可			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行う可能性があります。 (担当：三明) 第1回 臨床薬理学概論：EBMと薬物療法 第2回 薬効薬理学：創薬ターゲットの理解 第3回 薬物動態学：TDMと投与設計 第4回 薬物相互作用と個別化医療（PGx） 第5回 医薬品開発と臨床試験 (担当：加藤) 第6回 新生児期の看護 第7回 乳児期の看護 第8回 児の発達からみた母子支援 第9回 学童期の発達障害に関する支援 第10回 早産時特有の発達障害に関する支援 (担当：三明) 第11回 循環器疾患の臨床薬理 第12回 生活習慣病の薬物療法 第13回 高齢者の薬物療法とポリファーマシー 第14回 薬物有害事象（副作用）のメカニズム 第15回 まとめ：トランスレーショナルリサーチの視点 【授業及び学習の方法】 講義と学生の自主学习によるプレゼンテーションを基にして、ディスカッションによる演習を行います。 【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】 自学自習（準備学習 30時間＋事後学習 30時間）			
教科書・参考書等 参考書（購入は必須ではありませんが、参考にするとわかりやすいと思います） Bertram G. Katzung（著），柳澤 輝行ほか監訳（2009）：『カッツング薬理学』丸善出版．¥3,871 飯野 正光ほか編（2021）：『標準薬理学（第8版）』医学書院．¥7,480 林洋一監修（2022）：『最新図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社．¥1,650			
オフィスアワー 担当教員とメール等で個別に調整してください。			

2026 医学系研究科

三明：jmiake@tottori-u.ac.jp（※着任後のアドレスに変更予定）

加藤：kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義日程については随時相談に応じます。

教員の実務経験との関連

三明：医師・医学博士として、薬理学・臨床薬理学の教育・研究に従事。循環器内科医としての臨床経験および基礎研究から臨床試験に至る研究実務経験に基づき、薬物療法に関する講義を行う。

加藤：小児科医として臨床経験を積み、母乳育児や乳幼児の脳機能評価に関する研究を行っている。その経験に基づき、発達支援に関する講義を行う。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M661007-1) 基礎看護学特論 Advanced Fundamental Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 今井 多樹子・山本 麻理奈	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分(演習含む) × 15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本授業では、各自の看護実践を理論的に省察し、問題解決、意思決定、教育・人材育成、情報活用といった実践上の課題について、多角的な視点から探究する。あわせて、看護の実践・教育・管理など、看護ケアに直接・間接に影響を与える事象を対象に、文献抄読を通して基礎看護学の理論を深化させ、科学的根拠に基づく課題解決の方法を理解する。本講義を通じて、基礎看護学の理論を、看護管理・教育、組織的な実践改善へ応用するための基盤を養う。			
授業の目的 看護実践・教育・管理場面を振り返って見出された実践上の課題に対し、関連する文献・先行研究・理論をもとに、多面的に分析を行う。そのうえで、プレゼンテーションやディスカッションを通して、科学的根拠に基づく課題解決の方法を探究する。本授業では、基礎看護学に関連する諸理論を看護実践・教育・管理へ応用する視点を養い、組織的な看護ケアの改善につながる理論的基盤を形成することを目的とする。			
到達目標 1) 各自の看護実践・教育・管理を振り返り、省察することで、実践上の課題や組織的要因を理論的枠組みを用いて明確化できる。 2) 明らかになった課題に対し、関連する文献・先行研究・理論をもとに、多面的に分析し、科学的根拠に基づく解決方法を具体的に構想できる。 3) EBN (Evidence-Based Nursing) の基本ステップを説明し、それを看護実践・教育・管理における意思決定プロセスに適用できる。 4) 自身の関心に基づく看護に関する研究課題について、現在までに明らかにされている科学的・理論的根拠を系統的に調べ、整理し、説明できる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 課題レポートおよびプレゼンテーション内容 (50%)、ディスカッション内容 (50%) を総合して行います。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了：到達目標を達成している。 不合格：到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本授業は、看護管理・教育に関する論文を軸に、以下の計画で進める。 第1回 ガイダンス 科目の目的、本授業で扱う基礎看護学の理論と看護実践・教育・管理への応用の視点を確認する。学修課題の設定方法を説明する。 第2回 文献の活用とEBN (1) 概論 (討議・発表を含む) EBNの基本ステップを概観し、実践・教育・管理における意思決定との関連を理解する。 第3回 文献の活用とEBN (2) 疑問点の抽出と文献検索 (討議・発表を含む) 実践場面からの課題・疑問を整理し、PICO等を用いた検索式の作成と文献検索を行う。 第4回 文献の活用とEBN (3) 文献の批判的吟味① (討議・発表を含む) 量的研究を中心に、研究デザイン・バイアス・アウトカムの質を評価する視点を学ぶ。 第5回 文献の活用とEBN (4) 文献の批判的吟味② (討議・発表を含む) 質的研究・レビュー論文を取り上げ、信頼性・妥当性・適用可能性を吟味する。 第6回 経営組織論の基礎と看護実践の課題構造 (討議・発表を含む) 組織構造・文化・コミュニケーションの基礎を学び、実践課題の組織的要因を理論枠組みに基づき可視化する。 第7回 リーダーシップ論と看護実践の省察 (討議・発表を含む) トランスフォーメーション、サーバント等のリーダーシップ理論を用いて、看護実践を省察し、改善方策を検討する。 第8回 看護と研究 (1) 論文の要点と情報の質 (討議・発表を含む)			

2026 医学系研究科

論文を構造化して読み、目的・方法・結果・考察を整理する。

看護管理への応用可能性を視点として加える。

第9回 看護と研究(2) 論文記述に関する各種声明(討議・発表を含む)

CONSORT、STROBE、SRQR等の声明を学び、科学的根拠の質が管理上の意思決定に及ぼす影響を考察する。

第10回 看護と研究(3) バイアス(討議・発表を含む)

臨床研究・組織研究におけるバイアスの種類を理解し、実践・教育・管理課題の評価への影響を学ぶ。

第11回 身近な看護場面における課題検討(討議・発表を含む)

各自の実践・教育・管理に関連する場面から課題を抽出し、理論枠組みに基づいて構造化する。

第12回 課題解決につながる先行研究レビュー(討議・発表を含む)

抽出した課題に対し、先行研究の統合と批判的検討を行い、改善に向けた仮説を導く。

第13回 課題解決の検討(討議・発表を含む)

理論と証拠をもとに、実施可能性・効果・リスクを踏まえた課題解決の方法を構想する。

第14回 課題解決案のブラッシュアップ(討議・発表を含む)

理論的背景・エビデンス・実行可能性を統合し、課題解決案をブラッシュアップする。

第15回 プレゼンテーション(学修成果の共有・総括)

各自の成果「例：課題解決に資する看護管理能力とは：○○○○○」を発表し、総括を行う。

【授業および学修の方法】

各テーマに関して、課題学習およびディスカッションポイントを準備し、

プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。

この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など、社会状況に応じて遠隔授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

提示されたテーマについて、自身の経験などを振り返り、関連する参考図書、文献を探り、看護の理解につなげて考えてください。(準備学習各2時間程度 + 事後学習各2時間程度)

教科書・参考書等

教科書 特になし

参考書

パトリシア・ベナー著、井部俊子監訳：ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ、医学書院
他、適宜提示する

オフィスアワー

今井：講義予定日の17:30~22:00 看護学科5階517研究室

山本麻：講義予定日の17:30~22:00 看護学科5階515研究室

※授業日以外に来室を希望する場合は、事前にメールでご連絡ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自、看護実践における課題を意識して受講されることを期待します。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M662011-1) 急性期成人看護学特論 Advanced Adult Health Acute Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目 急性期成人看護学演習 履修推奨科目 理論看護学 看護研究方法論		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 成人看護領域における看護の現象を理解するための科目です。成人領域でよく使用する中範囲理論や実践理論について、学生との討議を通して指導します。また学生の興味関心のある健康障害に関する看護の現状と課題について、学生との討議を通して指導します。授業は学生からの発表とディスカッションによってすすめていきます。			
授業の目的 本講義では、成人看護領域における健康課題を解決するために、既存の中範囲理論や実践理論に関する知識を修得します。これまでの学生の看護実践をもとに事例を分析する能力を身につけるとともに、研究する意義のある疑問を選定する能力を身につけます。			
到達目標 1. 成人領域で使われる中範囲理論・実践理論に関する文献を検索し、提示することができる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」に対応する) 2. 1に関連した文献を精読し、プレゼンテーションできる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」に対応する) 3. 学生が興味関心のある看護の現状と課題についてレポートできる。(DPの「専門的知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. テーマに関する討議に主体的に参加できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート50% (主に到達目標1と2に対応) 討議・発表50% (主に到達目標3と4に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業は、各自が興味のあるテーマを下記より選択し、対面による発表・討議によって進めます。そのため、自学自習による準備・学習を求めます。 第1回 ガイダンス 第2回 成人患者の理解に関する理論：健康観・保健行動 第3回 成人患者の理解に関する理論：ストレス・コーピング 第4回 急性期患者の理解に関する理論：危機理論 第5回 リハビリテーション患者に関する理論：障害受容 第6回 リハビリテーションに関する理論：ICFモデル 第7回 成人患者の看護援助に関する理論：成人教育（アンドラゴジーモデル） 第8回 成人患者の看護援助に関する理論：自己効力感 第9回 成人患者の看護援助に関する理論：意思決定 第10回 成人患者の看護援助に関する理論：健康行動理論 第11回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：周術期患者 第12回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：クリティカル患者 第13回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：救急患者 第14回 健康障害をもつ患者に必要な看護援助の現状と課題の検討：リハビリテーション患者 第15回 総括 【自学自習のためのアドバイス】 興味のあるテーマを探索し、レポートを作成し、発表する 第2回～6回 成人急性期・リハビリテーション期の看護を理解するための理論・概念を探索し、内容を解釈し、授業で発表でき			

2026 医学系研究科

るように準備する。10時間

成人急性期・リハビリテーション期の看護を理解するための理論・概念について、レポートにまとめる。10時間
第7回～10回

成人患者の看護援助に関する理論・概念を探索し、内容を解釈し、授業で紹介できるよう準備する。10時間

成人患者の看護援助に関する理論・概念についてレポートにまとめる。10時間

第11回～15回

健康障害をもつ患者の看護：看護動向と課題について文献を収集し、精読し、授業で発表できるように準備する。
10時間

健康障害をもつ患者の看護：看護動向と課題についてレポートにまとめる。10時間

教科書・参考書等

教科書

なし

参考書

小島操子：看護における危機理論・危機介入第4版、Kinpodo、2018年 2640円

上田敏：ICFの理解と活用、きょうされん、2016年 733円

野川道子：看護実践に活かす中範囲理論第2版、2016年 4620円

佐藤栄子：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門、2014年 3850円

大川弥生：よくする介護を実践するためのICFの理解と活用、中央法規、2015年 1980円

南雲直二：社会受容、荘道社、2002年 2750円

松本千明：健康行動理論の基礎、医歯薬出版株式会社、2012年 1980円

曽根智史訳：健康行動と健康教育、医学書院、2009年授業の時に適宜、紹介します。

オフィスアワー

講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

積極的に討論に参加し、自分の関心領域・専門領域を関連させて探求してください。

教員の実務経験との関連

看護学専攻修士課程の研究指導の経験があります。長年携わってきた専門領域の研究業績や研究指導の実績をもとに指導します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-b c d M-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M662021-1) 慢性期成人看護学特論 Chronic nursing theory for adults	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 b c d・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 西村 亜希子	関連授業科目 慢性期成人看護学演習		
	履修推奨科目 理論看護学、看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業では、慢性疾患、生活習慣病、がんなどの慢性・長期的な健康問題をもつ人と家族への支援をめぐり、各専門領域における先駆的な研究および実践について第一線で活躍する専門家による講義を行う。 あわせて、慢性期成人看護学の視座を踏まえたディスカッションを通して、対象者および家族の特性や支援上の課題を多角的に捉え、課題解決に向けた有効な支援方を学際的かつ発展的に導き出す力を養う。			
授業の目的 本授業は、慢性疾患や生活習慣病、がんなどの慢性・長期的な健康問題をもつ人と家族への支援について、慢性期成人看護学の理論的視座を基盤として、先駆的かつ学際的な知見を統合的に理解することを目的とする。 システマティックレビュー、データサイエンス、周産期医療、へき地・島嶼医療、基礎医学、栄養科学、身体活動・運動療法など、多様な専門領域における最新の研究および実践に触れ、専門家とのディスカッションを通して、慢性期看護における課題を多面的に捉え、根拠に基づいた支援方を創造的に構築する能力の涵養を目指す。			
到達目標 本授業を修了した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 慢性期成人看護学の理論的枠組みを基盤として、慢性・長期的健康問題をもつ人と家族の特性および支援上の課題を体系的に説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. ビッグデータ解析、システマティックレビュー等の先進的手法を、慢性期看護の研究および実践にどのように応用し得るかを批判的に検討できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 多職種・多領域の専門的視点を統合し、慢性期看護における課題解決に向けた支援戦略を論理的に構築し、提案できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 専門家とのディスカッションを通して自身の関心領域や研究課題を明確化し、修士課程における研究および実践の発展につなげることができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 ・ディスカッションへの参加度：40% ・レポート：60%			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 ※日程・内容は変更になる場合があります 第1回 ガイダンス、慢性期看護学のトピックス 第2・3回 「システマティック・レビュー (仮)」 (京都大学大学院 教授 古田真里枝 先生) 第4・5回 「進化に伴う体液調節とイルカ研究 (仮)」 (香川大学 医学部長/教授 西山成先生) 第6・7回 「妊娠と糖代謝異常 (仮)」 (御所南はらしまクリニック 院長 原島伸一 先生) 第8・9回 「島嶼医療 (仮)」 (鹿児島県三島村竹島へき地診療所 看護師 前田慶太 先生) 第10・11回 「宇宙栄養学 (仮)」 (徳島大学大学院/京都大学医学部附属病院 水野菜穂子 先生) 第12・13回 「看護ビッグデータ解析 (仮)」 (神戸大学大学院 准教授 福重春菜 先生)			

2026 医学系研究科

第14・15回 「糖代謝異常と身体活動・運動療法（仮）」

（公立豊岡病院組合立豊岡病院 リハビリテーション技術科 副課長 井垣誠 先生）

【自学自習へのアドバイス】

※本授業では、各回の講義内容を踏まえた主体的な学修とディスカッションへの積極的な参加を重視する。以下を目安として、自学自習に取り組むことが望ましい。

第1回（約4時間）

・シラバスを熟読し、本授業全体の構成と到達目標を理解するとともに、慢性期成人看護学における近年の主要トピックスについて概観する。

第2回～第15回（各回約4時間）

・講義テーマに関連する基礎知識や概念を事前に確認し、文献・資料を参照して内容の背景と位置づけを理解するとともに、不明点を明確にする。

・講義内容を多面的に検討し、慢性期看護学の視座から捉え直し、対象理解、支援、研究の在り方と関連づけて考察する。

・講義からの学びを踏まえ、自身の関心領域や実践・研究への展開可能性を検討し、論点を構造化する。

教科書・参考書等

【参考書】

・慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点. Anselm L. Strauss, Corbin・Fagerhaugh・Glasr Maines・Suczek・Wiener, 南 裕子（監訳），南 裕子（訳），木下 康仁（訳），野島 佐由美（訳）. 医学書院, 1987. （税込3,960円）

・クロニクイルネス-人 と病いの新たななかかわり. 1987 Ilene Morof Lubkin・Pamala D. Lersen, 黒江ゆり子監訳. 医学書院, 2007. （税込7,480円）

※その他、授業中に適宜紹介する

オフィスアワー

随時メールで連絡してください。対面の場合は、事前にアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講生の主体的な取り組みを期待します。

教員の実務経験との関連

慢性看護領域の臨床・研究・教育の経験を元に、授業を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M662105-1) 小児看護学特論 Pediatric Nursing Theories	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ACB・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 石井 有美子	関連授業科目 小児看護学演習、小児看護学特別研究 履修推奨科目 看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間) 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間) 授			
授業の概要 本研究科小児看護学では、小児看護の臨床現場における複雑で困難な問題を解決し、その看護実践を体系化、理論化することを目指しています。そのため、小児看護学特論は、小児看護において用いられる子どもとその家族に関する諸理論を学際的に探究していきます。授業は、各回のテーマに関して院生による主体的な学びをもとに、参加者によるディスカッションによって進行していきます。また、必要に応じて英語文献の講読も行います。自学自習により、講読を進めて講義に臨んでください。			
授業の目的 子どもを統合体としてとらえた上で、小児看護において重要な理論に関して概観していきます。この事を通して、子どもを理解するとともに、子どもの最善の利益を守るための法律や条約に関して理解を深めます。加えて、子どもを持つ家族に関する理論に関して検討していきます。そして、これらの諸理論に関して、社会情勢を踏まえ、日本の文化の中において適応する際の課題について考察していきます。これらの過程を通して、講義のためにレビューした文献を読み進めることにより、研究の動向が明らかとなり、個々の研究課題の明確化につなげることが可能			
到達目標 1. 子どもの成長発達に関する原則を列挙することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 子どもの権利条約に関する歴史的背景とその内容、現状および課題について説明することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 子どもの認知発達に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 子どもを持つ家族に関する理論について述べるすることができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 5. これらの理論を臨床現場における現状に適応し、その課題を説明することができる。 (DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 講義での討議の内容(50%)およびレポート内容(50%)から、積極性・論理性・理解力・表現力を評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 生涯発達と小児：成長発達の理解—生物学的視点 第3回 成長発達の理解：解剖生理学的視点 第4回 成長発達の理解：心理学的視点 第5回 成長発達の理解：社会学的視点 第6回 子どもの最善の利益を守るための法律・条約 第7回 医療現場において子どもとその家族の最善の利益を守るためのケアモデル 第8回 子どもの認知発達に関する理論：ピアジェの思考発達段階説 第9回 子どもの関係性の発達：マラーの分離—固体化理論、ボルビの愛着理論 第10回 子どもの関係性の発達：ボルビの愛着理論 第11回 子どもの自我の発達：エリクソンの自我発達理論 第12回 子どもの自我の発達：フロイトの心理学的理論 第13回 子どもの生活援助に関する理論 第14回 健康危機状態にある子どもとその家族への援助に関する理論 第15回 諸理論適応による事例検討とその課題			

2026 医学系研究科

【授業及び学修の方法】

授業は、受講者の理解を深めるために発表と全体討議で展開します。毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、資料を作成する。13回～15回では、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、受講者が発表し、討議を行います。

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

第2回～12回 毎回、提示された内容に関して、事前学習をし、理解を深め、受講者で討議する資料を作成します。(5時間×11回)

第13回～15回 自ら選択した小児とその家族の健康課題について、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理し、その解決策を発表資料にまとめてください。(5時間)

教科書・参考書等

【参考書】

- ・松森直美, 蝦名美智子編集: 小児看護ケアモデル実践集 看護師が行う子ども目線のプレパレーション, へるす出版, 2012年, ¥3,000+税.
- ・小嶋謙四郎 著: 乳児期の母子関係 アタッチメントの発達 第2版, 医学書院, 1981年, ¥4,500+税.
- ・バーバラ・M. ニューマン, フィリップ・R. ニューマン 著 福富護 訳: 生涯発達心理学: エリクソンによる人間の一生とその可能性, 川島書店, 1988年, ¥6,000+税.
- ・J. Bowlby 著, 二木武 監訳: ボウルビィ 母と子のアタッチメント 心の安全基地, 医歯薬出版株式会社, 1993年, ¥2,500+税.
- ・J. Bowlby 著, 黒田実郎, 大羽葵, 岡田洋子, 黒田聖一 翻訳, I 愛着行動 新版, 岩崎学術出版社, 1991年, ¥10,000+税.
- ・Marshall H. Klaus, John H. Kennell 著, 竹内徹, 柏木哲夫, 横尾京子 翻訳, 親と子のきずな, 医学書院, 1998年, ¥3,000+税.

オフィスアワー

講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的な学びをもとに授業に参加するとともに、参加者相互で積極的に討議し、論理的思考と表現力の向上を図りましょう。関連する文献は積極的に講読、多読すること。必要に応じて英語論文も講読していただきます。講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的検索を行い、文献管理ツール (Mendeley等) を利用して効率よく管理してください。

教員の実務経験との関連

石井は医療機関や学校での子どもの健康に関する経験を有し、広い母子保健、健康リテラシーに関する研究実績をもとに講義を担当します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M662205-1) 母性看護学特論 Maternal Nursing Theories	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子	関連授業科目 母性看護学演習		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、女性の生涯を通じたリプロダクティブヘルス/ライツの概念から、各ライフステージにおける健康問題と課題について教授する。また、援助の方向性を探求するために、母性看護領域に関連する概念と理論の知識を教授する。			
授業の目的 母性看護学領域に関連する理論と知識を学び、女性のライフステージにおける課題探求と問題解決について理解する。			
到達目標 1. 女性のライフステージにおける健康問題の特徴と課題について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. リプロダクティブヘルス/ライツの概念から、女性の健康問題について援助の方向性が説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 母性看護領域に関連する概念と理論について説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 各課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) 2. 各課題に対する討議内容と参加度 (30%) 3. 課題レポート (30%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンスー講義内容と学修方法 第2回 女性のライフステージと健康 第3回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (思春期・成熟期) 第4回 女性のライフステージにおける健康問題の特徴 (更年期・老年期) 第5回 セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 第6回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー性感染症, 人工妊娠中絶 第7回 リプロダクティブヘルスの主要概念ー不妊と生殖医療 第8回 リプロダクティブヘルスの主要概念ードメスティックヴァイオレンス, 他 第9回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性と父性 第10回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母性の発達, 母親役割取得過程 第11回 母性看護学領域に関連する概念と理論ージェンダー, セクシュアリティ 第12回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー妊娠期から育児期に移行する家族 第13回 母性看護学領域に関連する概念と理論ー母子の愛着 第14回 母性看護学領域における倫理的配慮 第15回 母性看護学領域における倫理的課題ー生命倫理 【授業および学修の方法】 本科目は対面授業を行う。 第1回に課題を提示する。第2回以降は各自まとめた内容を発表し討議をする。 毎回課題についてディスカッションしていくので、問題意識をもちながら主体的に課題に取り組むこと。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第2回~4回 母性看護学に関連する基礎的知識, および健康問題の特徴と課題について紹介できるよう準備する。 また、テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(3時間 × 3回) 第5回~8回 リプロダクティブヘルスの概念と関連する内容について調べ、紹介できるように準備する。また、テ			

2026 医学系研究科

テーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 4回)

第9回から15回 母性看護学領域に関連する概念について調べ、問題と今後の課題について紹介できるように準備する。またテーマに関連する文献を複数クリティークして紹介する。(4時間 × 7回)

最終課題レポート 講義全体をとおしての学びと自ら選択した課題について、さらに文献等を用いてレポートにまとめる。(7時間)

教科書・参考書等

教科書 なし

参考書

各講義で適宜紹介します。

オフィスアワー

火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生は自らに課せられた課題を把握すること。

疑問点や質問は教員に尋ねて解決し、主体的に学習をすすめること。

課題についてのプレゼンテーションは、文献等で根拠を明らかにした上で行うこと。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M662311-1) 老年看護学特論 Gerontological Nursing Theories	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目 老年看護学演習、特別研究		
	履修推奨科目		
学習時間 講義 90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 超高齢社会である日本において、人間発達や全人的な見方について文献から学び、老年期の発達課題に焦点を当てて学びを深める。そして、加齢に伴う変化からのアセスメントを基礎とした高齢者の全人的理解から、現在起こっている高齢者問題や認知症高齢者またその家族への対応、高齢者問題に潜む倫理的問題や予測されるリスクについてその背景や、介護予防・認知症予防等のグッドエイジングも含めて学ぶことで老年看護のあり方や認知症高齢者の専門的ケアについて探求する。			
授業の目的 高齢者を人間発達の視点で捉え、高齢者とその家族も看護の対象であることを理解するために、重要な専門的知識や理論について学び、高齢者とその家族を援助する方法について考える。また、認知症ケアや介護予防・認知症予防、地域包括ケアシステムにおける老年看護、認知症高齢者の専門的ケアのあり方について探求する。			
到達目標 1. 高齢者について、人間発達の視点から説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 2. 高齢者とその家族の理解を促す専門的知識や理論について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 3. 人間発達の視点を踏まえ、高齢者とその家族への援助について説明できる。(DPの「専門的知識・理解」に対応) 4. 理論に基づく高齢者とその家族への援助について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応) 5. 地域包括ケアシステムにおける老年看護について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応) 6. 認知症高齢者の専門的ケアの考えを説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 プレゼンテーションの内容、授業での発言内容50%、課題レポート50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、レポート 第1回 オリエンテーション 人間発達・高齢者の全人的な見方について 山本 第2回 老年期の心理社会的課題の理論 山本 第3回 老年期の心理社会的課題、地域包括ケアシステムに関する研究 山本 第4回 高齢者体験・加齢に伴う身体的変化 山本 第5回 高齢者の生活評価 ADL/IADL、運動機能 山本 第6回 高齢者の生活評価 ADL/IADLへの援助・福祉機器 山本 第7回 介護予防・高齢者へのアクティビティケア 山本 第8回 認知症高齢者ケア・アルツハイマー型認知症 山本 第9回 認知症高齢者の家族への看護 山本 第10回 認知症高齢者ケア・レビー小体型認知症 山本 第11回 認知症高齢者ケア・前頭側頭型認知症 山本 第12回 高齢者看護における倫理的問題 山本 第13回 老老介護・認知介護・介護殺人 山本 第14回 高齢者の死生観 山本 第15回 老年期にいる高齢者の対象理解・援助のあり方のまとめ 山本 レポート作成 以上の評価に関しては、進捗状況、内容の理解度によって変更することがある。 第1回～3回：高齢者における文献・テキストを用いて講義形式で行う (準備+まとめ15時間)。			

2026 医学系研究科

第4回～7回：講義・演習形式で行う（準備＋まとめ15時間）。

第8回～15回：動画・文献を用いてディスカッションを主体とし、学生のプレゼンテーションを含めながら進める（プレゼン等準備15時間＋まとめ15時間）。

第1回～15回の理解を助け深めるため教科書の指示する動画を視聴して講義に参加するのが望ましい。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

（準備学習30時間 + 事後学習30時間）

*この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては一部の授業回では遠隔授業へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

参考書等

教科書 これからの高齢者 ケア～知る・織る・共感する，山本美輪，前川泰子，松井幸子，シービーアール，2018年，2750円

オフィスアワー

火曜日17時から18時30分 316研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

研究テーマや実践の中から、関心を持ち、積極的に討論に参加して、人間発達や高齢者の全人的な見方や高齢者看護における倫理的問題について関心を持って欲しい。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-abcM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M663201-1) 精神看護学特論 Advanced Psychiatric Mental Health Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 abc・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目 精神看護学演習		
	履修推奨科目 看護倫理学、理論看護学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 我が国の現代社会における精神保健福祉の諸課題を概観し、グローバル社会・情報社会の中で生きる人々の精神保健の動向を、ライフサイクル各期における発達課題と危機の観点から捉えていく。精神保健における1・2・3次予防のあり方について、職種間連携・協働による地域包括ケアシステム、地域の社会資源に着目し、理解を深める。精神健康の障害をもつ人とその家族への支援については、対人関係論やセルフケア理論、認知行動療法的アプローチなどの理論や技法を取り上げて学んでいく。精神科医療における疾病概念や治療法の変遷、多職種連携におけるITの利活用による家族とのパートナーシップ形成に基づくケアのあり方について検討し、精神保健の普遍性と精神看護の専門性について考察する。			
授業の目的 我が国の精神保健福祉施策は歴史的に様々な課題に直面しつつも改革を重ねてきた。しかし、少子高齢社会・人口減少社会におけるストレス社会を背景に精神疾患は増加傾向にあり、社会の経済活動の基盤となる精神健康を精神保健活動の重要性は増している。本授業では、対象・家族・社会を理解し、スティグマに配慮し、多面的に環境調整をはかりつつ当事者によるセルフケア向上を支援していく精神看護に関連する諸理論として、生活面のアセスメント、援助関係の位相などに着目したモデルを取り上げ、多職種との協働によりケアの質を高め、持続可能な共			
到達目標 1. 日本の精神障害者の処遇及び法制度の変遷を理解できる。(DPのA:専門知識・理解に対応) 2. 現代社会における精神保健の現状と課題について説明できる。(DPのA:専門知識・理解に対応) 3. 援助者としての自己を見つめ、哲学と看護・ケアを結び付けて考えることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 精神科臨床における看護アプローチ法やモデル開発に向けた研究方法を理解できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 5. 特に地域精神保健福祉における当事者の生活や就労支援について、多職種や家族との協働に関する看護の課題を述べるができる。(DPの「専門知識・理解」、「研究能力・応用力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 各回のプレゼンテーション内容(30%)、ディスカッション内容(30%)、レポート(40%)から総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで)到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満)到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満)到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満)到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満)到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本授業は講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、課題レポート提出を通して進めていく。 基本的に対面授業とするが、状況に応じて遠隔授業も適宜対応していく。 第1回 ガイダンス・健康の定義、精神の健康とは、精神看護の目的 第2回 精神保健予防活動についてー1次、2次、3次予防 第3回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度(1)精神保健福祉法 第4回 精神保健福祉の歴史の変遷と法制度(2)障害者総合支援法、その他 第5回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題(1)児童思春期の問題 第6回 現代のメンタルヘルスに関する諸問題(2)成人・老年期の問題 第7回 精神看護の哲学的基盤(1)精神看護の役割、専門性 第8回 精神看護の哲学的基盤(2)トラベルビー看護論 人間対人間の看護 第9回 精神看護の哲学的基盤(3)ペプロウ看護論・対人関係論 第10回 精神看護学の主要理論(1)セルフケア看護理論(オレム-アンダーウッド) 第11回 精神看護学の主要理論(2)ストレングスモデル、リカバリー 第12回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法(1)			

2026 医学系研究科

- 第13回 精神看護臨床における当事者へのアプローチ法（2）
- 第14回 精神保健福祉における多職種との協働 -障害者の就労支援を考える
- 第15回 まとめ

【自己学習】

準備3時間、事後学習2時間の5時間、計75時間

- 第1回 様々な健康の定義・こころの健康の定義について調べておく
- 第2回 うつ病とアルコール依存症の1次、2次、3次予防について事前学習する
- 第3回 日本の精神保健福祉領域の近代以降の法律の変遷について事前学習する
- 第4回 障害者総合支援法、児童福祉法による障害者・児の福祉サービスについて概観する
- 第5回 近年の児童・思春期のメンタルヘルスのTOPICSと動向について調べる
- 第6回 近年の成人・老年期のメンタルヘルスのTOPICSと動向について調べる
- 第7回 身近な精神保健システムをとりあげて現状と課題を分析する
- 第8回 防衛スタイルやタイプ論について概観する
- 第9回 対人援助職の「対象-援助者関係」における基盤的理論を概観する
- 第10回 セルフケア看護理論における諸概念を事前学習する
- 第11回 リカバリー の定義、ストレングスモデルのアセスメント方法を事前学習する
- 第12回 一般向け認知行動療法等を活用したアプローチについて調べる
- 第13回 ICTを用いた支援の実例、効果に関する先行研究を調べる
- 第14回 香川県における精神障害者の就労支援、ピアサポートの現状を調べる
- 第15回 まとめ

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

中井久夫：看護のための精神医学、医学書院

ジェイムス・プロチャスカ著、中村正和監訳：チェンジング・フォー・グッド、法研

南裕子編著：実践オレム-アンダーウッド理論 こころを癒す、講談社

南裕子、稲岡文昭監修：セルフケア概念と看護実践、へるす出版

ミシェル・フーコー著、田村俣訳：狂気の歴史-古典主義時代における-、新潮社

ジョン・G・ワトキンス：治療的自己-治療を効果的に進めるための医療者の心得-、アドスリー

その他、授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日午後6時～7時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

精神看護学領域では、疾患として捉える科学的な視点と、対象と自己との関係性における自己理解に加えて、ケアの対象となる人の誕生からのヒストリーを捉え、人生の文脈の中で生きる意味をみつめるスピリチュアルな視点など、様々な観点から人間について考えることとなる。現代社会の中で生きる個人への精神看護を検討するには、家族・組織・地域にて成長発達していく存在として、生命論、人生論など幅広い視野で、東洋西洋の比較文化論や歴史の変遷を概観し、文明を支えてきた哲学書にも触れ、自己の芸術的感性を養い、精神看護学の思索を深めたい

教員の実務経験との関連

認知症の専門病棟で看護師としての実務経験を持ち、大学での精神看護学教育研究に長年携わっています。当事者や家族の声に耳を傾けた多職種連携が欠かせない地域精神保健領域において、香川県内の関係機関の協力のもと、実践的な教育活動を行っています。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ACBM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M663105-1) 在宅看護学特論 Advanced Home Care Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ACB・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目 在宅看護学演習、在宅看護学特別研究、精神看護学特論、看護教育学		
	履修推奨科目 看護研究方法論1・2、看護医科学特論		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 在宅看護学に関して、学生の興味に沿った課題で授業を展開する。日本における在宅療養者支援の制度や支援方法を学び、実践の在り方およびその教育について討議する。また、在宅看護学の研究に必要なことを理解するために授業を展開する。課題に関する文献を素材にして話し合い、課題への理解を深める授業を行う。			
授業の目的 在宅療養者および家族の健康を支援するために必要な看護の在り方を考える。在宅看護の特徴、ケアマネジメント、チームアプローチに関する基本的知識を理解し、地域・在宅ケアについて考察する。在宅看護や関連領域の文献を用いた発表や話し合いを通して、在宅特有の支援方法と課題を明確にし、今後の在宅医療と看護の在り方について探究する。			
到達目標 1. 学生の関心領域について、明確に述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 学生の関心領域に関する文献を検索し、提示できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 学生の関心領域に関する文献を読み解き、在宅看護の課題として提示できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 在宅療養者支援の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 在宅療養者支援の質向上を目指した教育の現状と課題について述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 評価は、1. テーマに応じたプレゼンテーション内容30%、2. 討議の参加度と深さ40%、3. 提出レポート30%により総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス、在宅看護の対象 第2回 日本の在宅看護の歴史と変遷 第3回 在宅療養者の特徴 第4回 在宅療養者支援のアセスメント内容 第5回 ケアマネジメント理論 第6回 看護とケアマネジメント 第7回 多職種との連携とチームアプローチ 第8回 チームアプローチの質評価 第9回 在宅療養者支援におけるチームアプローチ研究 第10回 訪問看護の質評価・ケアの質評価と改善方法 第11回 在宅看護の現状と在宅看護の展望 第12回 地域包括ケアの推進と在宅看護 第13回 在宅看護学教育の現状と展望 第14回 在宅看護学研究の動向と展望 第15回 まとめ 【授業及び学修の方法】 提示されたテーマから、学生個々の興味に沿ったプレゼンテーションをもとに、ディスカッションを行う。 【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】 第1回 在宅看護領域における現状の情報を地域を特定して収集する (8時間)。			

2026 医学系研究科

第2回～第4回 在宅療養者を中心としたケアの実際に関する情報の整理をするために考察する（16時間）。

第5回～第9回 チームアプローチの視点からIPWの実際に関する情報収集をする（16時間）。

第10回 在宅看護の評価に関する課題の考察をする（4時間）。

第11回～第15回 在宅看護に絡む実践と教育、研究との接点について考察する（16時間）。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

教科書 なし

参考書

- ・公益法人日本看護協会編、最新版看護白書、日本看護協会出版会、2024、3,800円＋税
- ・訪問看護基本テキスト総論編、日本看護協会出版会、2018、3,200円＋税
- ・石垣和子、上野まり他、地域・在宅看護論Ⅰ 総論改訂第3版、南江堂、2024、2,800円＋税
- ・石垣和子、上野まり他、地域・在宅看護論Ⅱ 支援論改訂第3版、南江堂、2024、3,000円＋税

オフィスアワー

火曜日6時限、ただし事前にアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門分野及び関心領域と地域・在宅看護を関連させて探求すること

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M663005-1) 地域看護学特論 Community Health Nursing Theories	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川本 美香・芳我 ちより	関連授業科目 地域看護学演習		
	履修推奨科目 看護研究方法論1, 看護研究方法論2, 理論看護学, 看護倫理学		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習23時間+事後学習15時間)			
授業の概要 個人や家族・特定集団等によって構成されている地域全体を対象として、地域全体の健康水準の向上を目指す公衆衛生看護活動の専門性について理解を深めます。そのために、基盤となる理論及びモデルを多角的に学修し、新たな公衆衛生看護の視点、技術、展開方法等を探索していきます。授業は、講義とディスカッションにより進めていきます。テーマに関して、各自での主体的な学びを前提に進めていきます。			
授業の目的 あらゆる人を対象とする地域において、健康の社会的決定要因及び健康課題に対応するための資源や法令、制度について理解し、公衆衛生看護活動の専門性を発揮できるよう主要理論を学修し、実践活動への応用を学ぶ。 研究の一連の過程を通して公衆衛生看護管理としての地域を把握し、健康課題を見出し、解決するための思考過程を修練することを目的とする。			
到達目標 1. 社会環境の変化と健康課題について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 2. 健康課題に対応するための資源や法令、制度について説明できる (DP「専門知識・理解」に対応)。 3. 公衆衛生看護活動を行うための主要理論について説明できる (DP「研究能力・応用力」に対応)。 4. 公衆衛生看護管理の機能について理解し、説明することができる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 プレゼンテーション等40% (主に到達目標1、2に対応)、課題レポート50% (主に到達目標3、4に対応)、文献リスト10% (主に到達目標3に対応) 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 社会環境の変化と健康課題、健康の社会的決定要因 第2回 公衆衛生看護活動の歴史の変遷と法・制度 第3回 公衆衛生看護の理念と保健師倫理、公衆衛生看護と地域看護の概念整理 第4回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (1) ーヘルスプロモーション、家族システム理論等 第5回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (2) ーコミュニティアズパートナーモデル 第6回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (3) ープリシード・プロシードモデル他 第7回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (4) ー行動変容、グループダイナミクス他 第8回 公衆衛生看護活動のための主要理論 (5) ーマネジメント、リーダーシップ論 第9回 健康格差社会への対応 第10回 地域包括ケアシステム[講義] 第11回 地域包括ケアシステム[演習] 第12回 ソーシャルキャピタル[講義] 第13回 ソーシャルキャピタル[演習]			

2026 医学系研究科

第14回 自らの実践における課題の検討

第15回 まとめ

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と討議を取り入れる。また、各理論（モデル、概念）の終了時にレポートを課し、授業で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促す。

すべての授業は対面とするが、感染症等の状況に応じて遠隔授業を実施する。その際にはメール等にて事前に周知するため確認すること。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

第1～2回 興味のある健康課題を1つ選び、その社会的決定要因を関連図としてまとめた上で、これまでの対策について、その歴史を調べレポートする。(5時間×2)

第3～8回 説明を受けた理論について、その適用範囲、活用についてレポートにまとめる。(5時間×6)

第9回 健康格差を指摘している新聞や雑誌の記事を集め、授業で紹介できるように準備する。1時間

第10～11回 厚労省HPの地域包括ケアシステム概念図について、授業で説明できるように準備する。1時間
授業で紹介された事例について、支援体制を計画しレポートする。5時間

第12～13回 ソーシャルキャピタルを構成する概念について調べ、授業で紹介できるように準備する。1時間

授業で紹介された事例より、ソーシャルキャピタルを醸成した支援をレポートする。5時間

第14回 学修したモデルを用いて自らの実践を分析し、授業で発表できるように準備する。1時間

第15回 授業中に示した課題に対するレポートを作成する。5時間

教科書・参考書等

教科書 特に指定しないが、随時、紹介する。

参考書
・コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版第6刷,
エリザベスT. アンダーソン, ジュディス・マクファーレン編集
金川克子・早川和生編集, 医学書院 2015, 4180円
・健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点, 近藤尚己, 医学書院, 2016, 2750円

オフィスアワー

授業終了後1時間程度。研究室は6階618室。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自ら学ぶ姿勢を持ち、ディスカッションを積極的に参加するとともに質問力を磨いていきましょう。

感染症拡大状況に応じて、オンライン授業とします。適宜、連絡をしますが、事前に確認するようにしてください。

教員の実務経験との関連

行政保健師としての実務経験を有す。また、疫学研究を遂行してきた経験をもつ。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M661104-1) 看護医科学演習 Seminar in Medical Science of Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 三明 淳一郎・加藤 育子	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 看護医科学特論、臨床科学		
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
授業の概要 看護に関連する医学的論文(主に臨床薬理学、乳幼児発達学領域)を検索・読解し、研究計画の立案、実施、考察の方法を習得する。研究計画書や修士論文作成に必要な基礎的知識と実践力を養う。			
授業の目的 それぞれの専門分野において、設定したテーマに関する論文をクリティーク・レビューし、研究テーマを決定する。プレゼンテーション、討議を行いながら、研究倫理に配慮した研究計画書を作成する。			
到達目標 1. リサーチクエスチョンに対して文献レビューを行い、検討し、自らの研究課題との関連性を明確化できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 研究課題を明確化し、研究の進め方、研究方法を選択、結果を予測し、考察の方法について検討できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究倫理に配慮した研究方法を検討し、倫理審査をうける。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. プレゼンテーション資料の作成と発表 (30%) 2. テーマに対する発言と討議内容 (20%) 3. 研究計画書 (50%)			
成績評価の基準 大学規定の基準に準ずる：秀・優・良・可・不可			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行う可能性があります。 第1回～第5回 文献検索の方法、邦文・英文文献の抽出と絞り込み(三明、加藤) 第6回～第9回 興味を持つ研究分野・研究予定テーマについてのプレゼンテーション(三明、加藤) 第10回～第15回 関連する文献の輪読(ジャーナルクラブ)(三明、加藤) 第16回～第18回 文献の輪読と研究テーマの絞り込み・修正(三明、加藤) 第19回～第20回 研究テーマと研究計画の概略作成(三明、加藤) 第21回～第23回 研究計画書の作成・修正・再修正(三明、加藤) 第24回～第25回 研究計画書のプレゼンテーション(三明、加藤) 第26回～第28回 倫理審査書類の作成・修正(三明、加藤) 第29回 倫理審査の申請(三明、加藤) 第30回 研究計画書の提出(三明)			
【授業及び学習の方法】 講義と学生の自主学習によるプレゼンテーションを基にして、ディスカッションによる演習を行います。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 自学自習(準備学習 60時間 + 事後学習 60時間)			
教科書・参考書等 参考書(購入は必須ではありません) 1. 『実証研究の手引き』古谷野亘、長田久雄著、ワールドプランニング 2. 『SPSSによる統計処理の手順』石村貞夫、石村光資郎著、東京図書 3. 『カッシング薬理学』(丸善出版) 4. 『最新図解よくわかる発達心理学』(ナツメ社)			
オフィスアワー 担当教員とメール等で個別に調整してください。 三明：jmiake@tottori-u.ac.jp (※着任後のアドレスに変更予定) 加藤：kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 講義日程については随時相談に応じます。			
教員の実務経験との関連 三明：医師・医学博士として、薬理学・臨床薬理学の教育・研究に従事。 循環器内科医としての臨床経験および基礎研究から臨床試験に至る研究実務経験に基づき、薬物療法に関する講義を行う。			

2026 医学系研究科

加藤：小児科医として臨床経験を積み、母乳育児や乳幼児の脳機能評価に関する研究を行っている。その経験に基づき、発達支援に関する講義を行う

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BCDM-40-Ex 授業科目名 (講義コード：M661005-1) 基礎看護学演習 Seminar in Fundamental Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BCD・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 今井 多樹子・山本 麻理奈	関連授業科目 基礎看護学特論		
	履修推奨科目 看護研究方法論1, 看護研究方法論2		
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習90時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 基礎看護学領域でそれぞれの関心のある実践・教育・管理に関する研究テーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化することを支援します。そして、研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審の各プロセスにおいて支援します。			
授業の目的 基礎看護学領域でそれぞれの関心のある実践・教育・管理に関するテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化する。また研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審に向けて準備する。 (以上、DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応)			
到達目標 1. 研究疑問に対して、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 2. 各自の研究課題を解決するための研究方法を選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 3. 研究デザインの設計ならびに、研究計画書の作成ができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門知識・理解」に対応) 4. 研究における倫理的配慮について理解し、倫理委員会受審に向けて準備ができる。 (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 課題レポートの提出およびプレゼンテーション内容、ディスカッション内容を総合して行う。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了：到達目標を達成している。 不合格：到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れて展開する。 第1回 ガイダンス 第2回 基礎看護学に関する文献検索 第3回 基礎看護学に関する研究の動向 第4回 基礎看護学に関する研究論文1クリティーク 第5回 基礎看護学に関する研究論文2クリティーク 第6回 基礎看護学に関する研究論文3クリティーク 第7回 研究テーマ検討 第8回 研究テーマに関連する文献検討 第9回 研究目的の検討 第10回 研究目的の明確化 第11回 研究方法の検討 第12回 研究デザイン 第13回 研究の倫理的配慮の検討 第14回 研究計画書の作成 第15回 中間発表 第16回 研究計画書の作成 (研究テーマの修正) 第17回 研究計画書の作成 (研究目的の修正) 第18回 研究計画書の作成 (研究デザインの修正) 第19回 研究計画書の作成 (研究対象の修正)			

2026 医学系研究科

- 第20回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第21回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第22回 倫理的配慮の修正
- 第23回 倫理審査申請書の作成
- 第24回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第25回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第26回 倫理審査申請書の修正
- 第27回 倫理審査申請書，必要資料の修正
- 第28回 研究計画書，倫理審査申請書・必要資料のまとめ
- 第29回 研究計画発表
- 第30回 まとめ

【授業および学修の方法】

各テーマに関して，事前に準備し，プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。
この科目は基本的に対面授業を行います。感染症拡大など，社会助教に応じて遠隔授業を行います。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～7回 関心あるテーマについて文献の検索および評価を行い，既存のエビデンスについて整理する。
- 第8～10回 研究の主要概念について定義をまとめ，概念図を作成して疑問をモデル化する。
- 第11回 各概念を評価する方法についてまとめる。
- 第12回 基本的な研究デザインの特徴についてまとめ，自分の研究に適した研究デザインを選択し，理由をまとめる。
- 第13回 研究における倫理的原則を整理し，倫理的問題のリスクを明確化する。
- 第14～15回 研究計画書の草案を準備する。
- 第16～22回 研究の質，誤差，バイアスの考え方について整理し，研究計画書を修正する。
- 第23～27回 研究実施前に行うべき倫理的配慮のステップ，利益相反への配慮を整理し，倫理審査申請書を作成する。
- 第28回 研究開始のための手続き，必要書類について整理し，準備する。
- 第29～30回 作成した研究計画について発表資料を作成する。
(各回につき，準備学習3時間＋事後学習1時間 計120時間)

教科書・参考書等

研究方法論等で紹介された図書の活用を勧める。他、適宜提示する。

オフィスアワー

今井：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階517研究室
山本麻：講義予定日の17：30～22：00 看護学科5階515研究室
※授業日以外に来室を希望する場合は，事前にメールでご連絡ください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自研究計画は，研究目的を絶えず意識して進めることを心がけて下さい。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M662012-1) 急性期成人看護学演習 Adult Health Acute Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 市原 多香子	関連授業科目 急性期成人看護学特論、看護研究方法論		
	履修推奨科目 看護研究方法論		
学習時間 授業90分×45回+自学自習(準備学習90時間 + 事後学習90時間)			
授業の概要 成人領域の健康課題となる現象に関して、研究疑問として捉えなおし、自らの研究課題を焦点化していくプロセスを指導します。多くの文献を探索し、考え、思考を整理する学習により、研究課題とその意義を明確にし、加えて研究課題の解決に向けた適切な研究方法の設計について、討議によって指導します。このプロセスを経て研究計画書の作成を支援します。			
授業の目的 成人看護領域における健康障害をもった対象とその家族の問題となる看護現象を解決するため、研究を適切に設計する必要があります。自らの研究課題を文献検討およびクリティークを通して焦点化し、解決するための研究デザインを選択したうえで、研究計画書を作成するための能力を修得します。			
到達目標 1. 研究疑問に対して文献レビューを行い、研究課題を明確にできる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する) 2. 研究課題を解決するための多様な研究方法について調べて報告できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 3. 研究で主要概念となる用語を定義し説明できる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」に対応する) 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠をもって選択できる。(DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応する) 5. 研究計画書を作成することができる。(DPの「研究能力・応用力」「専門的知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応する)			
成績評価の方法 レポート50% (主に到達目標1から4に対応) 研究計画書50% (主に到達目標5に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 研究計画書を作成するステップの基本となる知識について、各自が資料を準備したうえでプレゼンテーションし、参加者相互のディスカッションを通して理解を深めます。 第1回 オリエンテーション：研究計画書作成の目的 第2回 研究テーマの見つけ方 第3回 研究計画書を作成するための導入 第4回 研究論文クリティークその1：因子探索研究 第5回 研究論文クリティークその2：実態調査研究 第6回 研究論文クリティークその3：関係探索研究 第7回 研究論文クリティークその4：介入研究 第8回 研究論文クリティーク1と2演習① 第9回 研究論文クリティーク3と4演習② 第10回 リサーチクエスションとは 第11回 リサーチクエスションの作成演習 第12回 リサーチクエスションのブラッシュアップ 第13回 リサーチクエスションに対する文献検索 第14回 文献検索演習 第15回 文献の整理とレビューの方法 第16回 リサーチクエスションに関する文献検討：研究対象者			

2026 医学系研究科

- 第17回 リサーチクエスションに関する文献検討：研究デザイン
- 第18回 リサーチクエスションに関する文献検討：測定方法
- 第19回 研究課題の明確化
- 第20回 研究課題の整理演習
- 第21回 研究の概念枠組み
- 第22回 概念枠組みの作成演習
- 第23回 研究方法の検討：研究デザイン
- 第24回 研究方法の検討：主要概念の定義
- 第25回 研究方法の検討：研究対象者
- 第26回 研究方法の検討：測定方法
- 第27回 研究方法の検討：データ収集方法
- 第28回 研究方法の検討：分析
- 第29回 研究方法の検討：研究の倫理的配慮
- 第30回 研究計画書の構成
- 第31回 研究計画書の作成：研究背景
- 第32回 研究計画書の修正：研究背景
- 第33回 研究計画書の作成：研究の意義
- 第34回 研究計画書の修正：研究の意義
- 第35回 研究計画書の作成：研究目的
- 第36回 研究計画書の修正：研究目的
- 第37回 研究計画書の作成：研究方法
- 第38回 研究計画書の修正：研究方法
- 第39回 研究計画書の作成：倫理的配慮
- 第40回 研究計画書の修正：倫理的配慮
- 第41回 研究計画書の作成：発表資料作成
- 第42回 研究計画書の修正：発表資料修正
- 第43回 研究計画書の発表
- 第44回 研究計画書の最終修正
- 第45回 まとめ・研究計画書完成

【自学自習のためのアドバイス】

事前学習（90時間）

各回の授業内容に関連する文献を事前に読み、研究の基礎概念や研究方法について理解を深めておくこと。特に以下の点を中心に準備すること。

- ・研究方法論や看護研究に関する基礎文献を読み、研究の基本概念（研究目的、研究デザイン、倫理など）を理解する。
- ・授業で扱う研究論文を事前に読み、研究目的、研究方法、結果、考察の構成を整理する。
- ・自身の関心のある研究テーマについて文献検索を行い、研究の背景や研究動向を把握する。
- ・リサーチクエスションを検討するために関連文献を収集し、研究対象者、研究デザイン、測定方法などについて整理する。
- ・研究計画書作成に向けて、研究背景や研究の意義に関する文献を読み、研究課題の明確化に備える。
- ・データ分析（質的研究・統計解析）や研究倫理に関するFD研修会等に参加し、研究遂行に必要な知識の習得に努める。

事後学習（90時間）

授業で学んだ内容を整理し、自身の研究テーマに適用しながら研究計画書の作成を進めること。特に以下の点に取り組むこと。

- ・授業で扱った研究論文のクリティーク内容を整理し、研究の妥当性や限界についてまとめる。
- ・授業で検討したリサーチクエスションや研究課題を振り返り、文献レビューを進めながら内容をブラッシュアップする。
- ・概念枠組み、研究デザイン、研究対象者、測定方法、分析方法などについて文献を参考にしながら検討を深める。
- ・研究の倫理的配慮について関連指針や文献を確認し、自身の研究における倫理的課題を整理する。
- ・テーマに関連する予備調査（インタビュー、質問紙の試行、現場の情報収集など）を行い、研究計画の具体化に役立てる。
- ・授業での指摘や討議内容を踏まえ、研究計画書（研究背景、研究の意義・目的、研究方法等）の修正を行う。
- ・最終発表に向けて研究計画書を完成させ、研究内容を整理して発表資料を作成する。

（目安：1回あたり約2時間）

教科書・参考書等

教科書なし

参考書

D. F. ポーリット&C. T. ベック著、近藤潤子監訳、看護研究-原理と方法第2版、医学書院、2011年 10450円

P. J. ブリンク・M. J. ウッド著 小玉香津子・輪湖史子訳、看護研究計画書作成の基本ステップ、日本看護協会出版会、1999年 3630円

南裕子：看護における研究第2版、日本看護協会出版会、2017年 3190円

木原正博：医学的研究のデザイン第4班、メディカル・サイエンス・インターナショナル、5170円

2026 医学系研究科

小笠原知枝：これからの看護研究 基礎と応用、NOUVELLE HOROKAWA、2012年 4180円

古谷野亘：実証研究の手引き、ワールドプランニング、2001年 3025円

前田樹海：APAに学ぶ看護系論文執筆ルール、医学書院、2013年 1980円

オフィスアワー

講義終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

事前に研究テーマに関する多くの書物や文献をよく読んで、知識を整理してから授業に臨んでください。

教員の実務経験との関連

看護学専攻修士課程の研究指導の経験があります。長年携わってきた専門領域の研究業績、研究指導の実績をもとに指導します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-bcdM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M662022-1) 慢性期成人看護学演習 Chronic nursing theory for adults	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 bcd・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 6	
担当教員名 西村 亜希子	関連授業科目 看護研究方法論1、看護研究方法論2、慢性期成人看護学特論		
	履修推奨科目 看護研究方法論1、看護研究方法論2、慢性期成人看護学特論		
学習時間 授業90分×45回 + 自学自習 (準備学習 90時間 + 事後学習90時間)			
授業の概要 慢性期成人看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化することを支援します。そして、研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審の各プロセスにおいて支援します。			
授業の目的 慢性期成人看護学領域でそれぞれの関心のあるテーマについて、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化する。また研究課題に適した研究方法を検討し、研究計画書の作成、中間発表会、倫理委員会受審に向けて準備する。 (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
到達目標 1. 研究疑問に対して、国内外の先行研究レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 各自の研究課題を解決するための研究方法を選択できる。(DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 研究デザインの設計ならびに、研究計画書の作成ができる。(DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 研究における倫理的配慮について理解し、倫理委員会受審に向けて準備ができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 事前学習、成果物、50%、授業や討論への参加状況、プレゼンテーションの50%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 各テーマに関して、事前に準備し、プレゼン・ディスカッションを通して学びを深める。 第1回 ガイダンス 第2回 慢性期成人看護学に関する文献検索 第3回 慢性期成人看護学に関する研究の動向 第4回 慢性期成人看護学に関する研究論文1クリティーク 第5回 慢性期成人看護学に関する研究論文2クリティーク 第6回 慢性期成人看護学に関する研究論文3クリティーク 第7回 慢性期成人看護学に関する研究論文4クリティーク 第8回 研究テーマ検討 第9回 研究テーマに関連する文献検討1 第10回 研究テーマに関連する文献検討2 第11回 研究テーマに関連する文献検討3 第12回 研究テーマに関連する文献検討4 第13回 研究テーマに関連する文献検討5 第14回 研究目的の検討 第15回 研究目的の明確化 第16回 研究方法の検討1 第17回 研究方法の検討2			

2026 医学系研究科

- 第18回 研究方法の検討3
- 第19回 研究方法の検討4
- 第20回 研究デザイン1
- 第21回 研究デザイン2
- 第22回 研究デザイン3
- 第23回 研究の倫理的配慮の検討1
- 第24回 研究の倫理的配慮の検討2
- 第25回 研究の倫理的配慮の検討3
- 第26回 研究計画書の作成1
- 第27回 研究計画書の作成2
- 第28回 中間発表
- 第29回 研究計画書の作成（研究テーマの修正）
- 第30回 研究計画書の作成（研究目的の修正）
- 第31回 研究計画書の作成（研究デザインの修正）
- 第32回 研究計画書の作成（研究対象の修正）
- 第33回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第34回 研究計画書の作成（研究方法の修正）
- 第35回 倫理的配慮の修正1
- 第36回 倫理的配慮の修正2
- 第37回 倫理審査申請書の作成
- 第38回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第39回 倫理審査申請書の作成（必要資料の作成）
- 第40回 倫理審査申請書の修正
- 第41回 倫理審査申請書，必要資料の修正
- 第42回 倫理審査申請書，必要資料の修正
- 第43回 研究計画書，倫理審査申請書・必要資料のまとめ
- 第44回 研究計画発表
- 第45回 まとめ

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～8回 関心あるテーマについて文献の検索および評価を行い、既存のエビデンスについて整理する。
- 第9～15回 研究の主要概念について定義をまとめ、概念図を作成して疑問をモデル化する。
- 第16～19回 各概念を評価する方法についてまとめる。
- 第20～22回 基本的な研究デザインの特徴についてまとめ、自分の研究に適した研究デザインを選択し、理由をまとめる。
- 第23～25回 研究における倫理的原則を整理し、倫理的問題のリスクを明確化する。
- 第26～27回 研究計画書の草案を準備する。
- 第28～34回 研究の質、誤差、バイアスの考え方について整理し、研究計画書を修正する。
- 第35～36回 研究実施前に行うべき倫理的配慮のステップ、利益相反への配慮を整理し、倫理審査申請書を作成する。
- 第37～42回 研究開始のための手続き、必要書類について整理し、準備する。
- 第43～45回 作成した研究計画について発表資料を作成する。
(各回につき、準備学習2時間＋事後学習2時間 計180時間)

教科書・参考書等

関連科目で紹介された図書の活用を勧める。他、適宜提示する。

オフィスアワー

火曜日18:30～19:30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

各自研究計画は、研究目的を絶えず意識して進めることを心がけて下さい。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M662103-1) 小児看護学演習 Pediatric Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 石井 有美子	関連授業科目 小児看護学特論、小児看護学特別研究		
	履修推奨科目 看護倫理学、看護研究方法論1、看護研究方法論2、小児看護学特論、小児看護学特別研究		
学習時間 授業90分×45回+自学自習(準備学習90時間+事後学習90時間)			
授業の概要 それぞれのテーマに沿って文献をクリティークおよびレビューしつつ、研究テーマの明確化を支援します。さらに、文献検討をすすめて自己の研究方法を具体的に検討し、研究計画書の作成を支援します。なお、院生間の発表、ディスカッションは概念の明確化や論理的表現を助けます。履修者には主体的かつ積極的に参加を求めます。			
授業の目的 小児看護分野での主要なテーマに関する論文をクリティークおよびレビューし、研究テーマを決定する。そのうえで、研究の基本要件を踏まえて、研究計画書を作成することを目的とする。			
到達目標 1. 研究の問いに関して文献レビューを行い、研究課題を明確化できる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 自己の研究課題を過去の研究の蓄積の中で適切に位置づけることができる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究課題に応じた適切な研究対象者や研究方法を選択できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 研究計画書を作成できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 以下の項目から積極性・論理性・理解力・表現力および科学的合理性を評価する。 1. プレゼンテーション資料の作成と発表 (30%) 2. テーマに対する発言と討議内容 (30%) 3. 研究計画書 (40%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回：研究計画書を作成するための導入 第2回：文献検索、クリティークとレビュー (復習) 第3回：興味ある量的研究 (和文) をクリティーク 1 第4回：興味ある量的研究 (和文) をクリティーク 2 第5回：興味ある量的研究 (欧文) をクリティーク 1 第6回：興味ある量的研究 (欧文) をクリティーク 2 第7回：興味ある質的研究 (和文) をクリティーク 1 第8回：興味ある質的研究 (和文) をクリティーク 2 第9回：興味ある質的研究 (欧文) をクリティーク 1 第10回：興味ある質的研究 (欧文) をクリティーク 2 第11回：既読の文献による知見の整理 第12回：研究すべき問題の発見 第13回：研究テーマの明確化 第14回：リサーチクエッションの明確化 第15回：研究背景、残された課題、目的、意義の文章化 第16回：リサーチミーティング：研究テーマ、リサーチクエッション 第17回：研究目的の明確化 第18回：研究方法の検討—研究デザイン 第19回：研究方法の検討—主要概念の定義			

2026 医学系研究科

- 第20回：研究方法の検討—研究枠組み
- 第21回：研究方法の検討—仮説の立案
- 第22回：研究方法の検討—対象の選定、取り込み基準、除外基準
- 第23回：研究方法の検討—対象者へのアクセス方法
- 第24回：研究方法の検討—可能性のある対象者への不利益検討
- 第25回：研究方法の検討—倫理的配慮
- 第26回：研究方法の検討—分析方法 プロセス
- 第27回：研究方法の検討—分析方法 信頼性・妥当性・真実性
- 第28回：分析方法に関する演習—自己の方法に応じて演習
- 第29回：分析方法に関する演習—質であればインタビュー演習
- 第30回：分析方法に関する演習—量であれば統計ソフト演習
- 第31回：リサーチミーティング：研究方法
- 第32回：研究計画書作成—ひな形の選択
- 第33回：研究計画書作成—背景その1
- 第34回：研究計画書作成—背景その2
- 第35回：研究計画書作成—目的・意義その1
- 第36回：研究計画書作成—目的・意義その2
- 第37回：研究計画書作成—方法その1
- 第38回：研究計画書作成—方法その2
- 第39回：研究計画書作成—研究参加への同意を得る方法
- 第40回：研究計画書作成—対象者への説明文書
- 第41回：研究計画書作成—同意書・同意撤回書
- 第42回：研究計画書作成—データ管理
- 第43回：医学部倫理委員会への電子申請
- 第44回：リサーチミーティング：進捗状況に関して
- 第45回：まとめ

【授業及び学修の方法】

講義および院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。そのため、自学自習による準備・学習が必要です。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

本演習では、各回の内容に応じて以下の準備および事後学修を行うことが求められる。

- ・各回のテーマに関連する文献（和文・欧文）を事前に検索し、研究目的、方法、結果、限界について整理したうえで授業に臨むこと。
 - ・クリティーク対象論文については、評価指標（研究デザイン、サンプリング、測定方法、分析方法、倫理的配慮等）に基づき、自身の見解を整理しておくこと。
 - ・授業での討議内容を踏まえ、文献レビューの再構成や研究課題の精緻化を行うこと。
 - ・演習の進行に合わせて、自身の研究テーマに基づく文献レビュー、概念整理、研究方法の検討を段階的に進め、研究計画書の各項目（背景、目的、方法、倫理的配慮等）を作成・修正すること。
 - ・指導教員および副指導教員の助言を踏まえ、研究計画書および倫理審査申請書類の完成度を高めること。
- (4時間×45回)

教科書・参考書等

【教科書】

なし

【参考書】

- ・Burns N, Grove SK (2005) / 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功訳 (2015): バーンズ&グローブ看護研究入門—評価・統合・エビデンスの生成—, エルゼビア・ジャパン, 9,900円
- ・DF. Polit, CT. Beck (2004) / 近藤潤子 (2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院, 9,975円
- ・APA(2010)/前田樹海, 江藤裕之訳(2023) : APA論文作成マニュアル, 医学書院, 4,620円
- ・前田樹海, 江藤裕之 (2023) : APAに学ぶ看護系論文執筆のルール, 医学書院, 1,980円

オフィスアワー

講義予定日の18時から22時。また、メール等で適宜受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講読する文献に関しては、医学部図書館でガイダンスしていただける医中誌、PubMed等を用いて系統的に検索を行い、文献管理ツール（Mendeley等）を利用して効率よく管理してください。

実際に研究に取り掛かるためには、修士論文中間発表会での発表および医学部倫理委員会での申請が必要となります。このことを考慮し、計画的に研究計画を作成することが必要です。

教員の実務経験との関連

石井は医療機関や学校での子どもの健康に関する経験を有し、広い母子保健、健康リテラシーに関する研究実績をもとに講義を担当します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M662203-1) 母性看護学演習 Maternal Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BCA・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 川田 紀美子	関連授業科目 特別研究		
	履修推奨科目 母性看護学特論, 看護研究方法論 I・II		
学習時間 講義90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 本科目では、母性看護学領域における自己の研究課題と研究方法について探求する能力を涵養する。研究課題探求期では、先行研究の熟読とクリティークから、自身の興味を研究課題に具体化する。研究計画立案期では、研究目的を達成するための具体的な研究計画を完成させる。調査デザイン期では、調査の実施に向けた詳細な設計や準備を進め、調査の基盤を構築する。			
授業の目的 文献による先行研究の検討から自己の研究課題を見出せることと、自身の研究目的を達成するために適切な研究計画を立案する。また、自らの研究計画について中間発表等で適切に説明ができ、得た助言を基に研究計画を発展させ、実施につなげる。			
到達目標			
研究課題探求期 1. 自身の興味のある課題の現状や研究の動向について、文献をもとにまとめることができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 先行研究について検索し要約することができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
研究計画立案期 1. 自身のResearch Questionを明確にすることができる。(DPの「研究能力・応用力」「研究能力・応用力」に対応) 2. 研究目的を達成するために適切な研究計画が立案できる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
調査デザイン期 1. 調査の実施に向けた詳細な準備を行い、調査の基盤を構築することができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 中間発表や倫理審査のプロセスを通じて、研究計画を発展させることができる。(DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法			
研究課題探求期 1. 各テーマに応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (20%) 2. 各テーマに対する議論の内容と参加度 (10%)			
研究計画立案期 1. 研究課題の妥当性と新規性 (10%) 2. 研究計画書内容 (20%)			
調査デザイン期 1. 中間発表内容 (20%) 2. 倫理委員会申請書類と承認を得るまでの作業内容 (20%)			
形成的評価として、研究課題探求期、研究計画立案期、調査デザイン期の履修後に面談を行う。			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 本科目では、研究課題探求期、研究計画立案期、調査デザイン期を設ける。 研究課題探求期 第1回 授業ガイダンス 文献クリティークについて			

2026 医学系研究科

- 第 2回 関心のある母性看護学領域のkeyword設定
- 第 3回 関心のある母性看護学領域の研究論文検索
- 第 4回 関心のある母性看護学領域の研究論文紹介
- 第 5回 関心のある母性看護学領域の研究論文についてクリティーク
- 第 6回 関心のある母性看護学領域の研究論文についてグループ討議
- 第 7回 研究課題の探索と具体化
- 第 8回 研究課題に関連する研究論文についてkeyword設定と検索
- 第 9回 研究課題に関連する研究論文について紹介
- 第10回 研究課題に関連する研究論文についてクリティーク
- 第11回 理論的枠組みに基づく研究論文について紹介
- 第12回 理論的枠組みに基づく研究論文についてクリティーク
- 第13回 研究手法に関する研究論文についてクリティーク
- 第14回 研究課題に関連した既知の内容確認
- 第15回 研究課題に関連した未知の内容確認

研究計画立案期

- 第16回 Research Questionの検討
- 第17回 Research Questionの決定
- 第18回 研究課題の選定・精査
- 第19回 研究課題名の決定
- 第20回 研究計画書の作成—研究テーマの背景と現状のまとめ
- 第21回 研究計画書の作成—テーマにおける未解決の課題提示
- 第22回 研究計画書の作成—研究テーマの新規性の明確化
- 第23回 研究計画書の作成—研究目的の設定
- 第24回 研究計画書の作成—研究の意義の明確化
- 第25回 研究計画書の作成—研究デザインの検討
- 第26回 研究計画書の作成—対象者の選定（選択基準）
- 第27回 研究計画書の作成—対象者の選定（除外基準）
- 第28回 研究計画書の作成—分析方法の検討
- 第29回 研究計画書の作成—予測される結果の明確化
- 第30回 研究計画書の作成—倫理的配慮の検討

調査デザイン期

- 第31回 研究ロードマップの作成
- 第32回 研究協力施設の決定と依頼方法の検討
- 第33回 調査媒体（質問紙・インタビューガイドなど）の作成
- 第34回 質問紙パイロット調査（設問の妥当性・質問文の評価）
- 第35回 模擬インタビュー（ロールプレイ・インタビュー練習）
- 第36回 研究計画発表準備—修士研究中間発表媒体作成
- 第37回 研究計画発表準備—修士研究中間発表媒体修正と完成
- 第38回 研究計画発表準備—修士研究中間発表会リハーサル
- 第39回 研究計画発表準備—修士研究中間発表会発表内容・完成
- 第40回 修士研究中間発表会発表
- 第41回 研究計画立案
- 第42回 倫理書類作成・倫理審査申請
- 第43回 倫理委員会審査
- 第44回 倫理審査に基づく書類の修正および研究計画の精度向上
- 第45回 倫理承認と、その後の研究進捗状況・終了報告等の報告義務の確認

【授業および学修の方法】

授業は受講者が主体性を持って学習し、自ら自身の研究課題を見出すために発表と討議を行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

研究課題探求期

- 第1回～13回 関心あるテーマからkeywordを設定して文献検索を行い、選定した論文を熟読して紹介してもらいます。その後、学生間でクリティークします。複数の研究論文をクリティークして、自身の研究課題を具体化しましょう。（2時間×13回）

- 第14回・15回 研究課題に関連した既知と未知の内容を理解し、研究課題を絞り込んでいきましょう。（2時間×2回）

研究計画立案期

- 第16回～19回 自身のResearch Questionと研究課題を明確にしましょう。（2時間×4回）
- 第20回～30回 研究目的を明らかにするための研究計画を立てましょう。（2時間×10回）

調査デザイン期

- 第31回～35回 調査実施に向けた準備を具体的に進めましょう。（2時間×5回）
- 第36回～40回 修士論文中間発表会の準備をしっかりと行い、本番で発表をしましょう。発表で得た助言を活用し

2026 医学系研究科

て、研

究計画書の完成度をさらに高めてください。(2時間×5回)

教科書・参考書等

参考書

1. D.F. ポーリット/C.T. ベック, 近藤潤子監訳: 看護研究—原理と方法(第2版), 医学書院, 2010.

他、適宜提示する.

オフィスアワー

火曜日12:00～13:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目では、研究課題探求期、研究計画立案期、調査デザイン期を設けています。

形成的評価として、各期の終了後に面談を実施します。

面談の結果によっては、各期の延長を指示する場合があります。

講義時間だけでは熟考された研究計画立案は難しいので、自主的・積極的に学習をすすめてください。

国内外の学会への積極的な参加を推奨します。

最新の研究動向を把握し、プレゼンテーションの実践を積むことで、研究能力をさらに高めることができます。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M662312-1) 老年看護学演習 Gerontological Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 山本 美輪	関連授業科目 老年看護学特論、特別研究		
	履修推奨科目 看護研究方法論、看護研究特論		
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間 + 事後学習60時間)			
授業の概要 研究の概要について理解を深めた上で、様々な視点から研究テーマを検討し、研究テーマを絞り込む。研究に用いられる概念に基づいた国内外の文献検討を行い、その概念に関する研究について見識を深め、研究方法を検討する。研究計画書の作成を行い、中間発表により得られた意見も参考に研究計画書を修正する。			
授業の目的 老年看護学領域の対象とその家族が置かれている状況や体験について学ぶと共に、国内外の老年看護学領域の対象とその家族の看護及び援助の実態 (DP「専門的知識・理解」に対応) を理解する。その中で、修士論文のテーマを明らかにし、研究テーマに関連する文献検討を行い研究方法を検討し、修士論文の計画書の作成 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応) する。			
到達目標 1. 関心のある老年看護学における対象の体験や看護の実態について説明できる。 2. 研究テーマに関連する文献検討を行い、修士論文のテーマを決めることができる。 3. 研究テーマに適切な研究方法を説明できる。 4. 計画する研究に必要な倫理的配慮について説明できる。 5. 修士論文の計画書を作成できる。 いずれもDPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応する。			
成績評価の方法 レポート20%、計画書80%で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 第1回 オリエンテーション 山本 第2回 研究計画書の作成方法-使用する文献等を決める 山本 第3回 研究計画書の作成方法-テーマを定める方法を考える 山本 第4回 研究計画書の作成方法-研究方法を決める方法を考える 山本 第5回 研究計画書の作成方法-倫理的配慮を考える 山本 第6回 文献批判による内容の把握-研究の背景 山本 第7回 文献批判による内容の把握-研究テーマ 山本 第8回 文献批判による内容の把握-研究方法 山本 第9回 文献批判による内容の把握-論理の一貫性 山本 第10回 研究テーマに関する検討-研究成果 山本 第11回 研究テーマに関する検討-研究成果のまとめ 山本 第12回 研究テーマに関する検討-論理の一貫性 山本 第13回 研究テーマに関する検討-研究の意義 山本 第14回 研究テーマに関連する文献検討-論理的展開 山本 第15回 研究テーマに関連する文献検討-対象 山本 第16回 研究テーマに関連する文献検討-研究方法 山本 第17回 研究テーマに関連する文献検討-倫理的配慮 山本 第18回 研究計画書の作成 (研究テーマ) 山本 第19回 研究計画書の作成 (研究の背景・意義) 山本 第20回 研究計画書の作成 (研究の目的) 山本 第21回 研究計画書の作成 (研究の方法) 山本			

2026 医学系研究科

第22回	研究計画書の作成（研究の倫理的配慮）	山本
第23回	中間発表	山本
第24回	研究計画書の作成（研究テーマの修正）	山本
第25回	研究計画書の作成（研究の背景・意義の修正）	山本
第26回	研究計画書の作成（研究の目的の修正）	山本
第27回	研究計画書の作成（研究の方法の修正）	山本
第28回	研究計画書の作成（研究の倫理的配慮の修正）	山本
第29回	研究計画発表	山本
第30回	研究計画書のまとめ・提出	山本
1回～5回テーマに関する文献レビュー（2時間×5回）		
6回～9回文献レビューのまとめ（2時間×5回）		
10回～17回テーマに関連する文献検討より対象、方法論、倫理的配慮のまとめ（2時間×8回）		
18回～22回計画書作成準備（4時間×5回）		
23回中間発表準備（10時間）		
24回～30回計画書作成（54時間）		
【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】		
（準備学習60時間 + 事後学習60時間）		
*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。		

教科書・参考書等

教科書 特になし

参考書 看護研究 第2版—原理と方法（日本語）、D.Fポリーット,C.Tベック(著),その他,医学書院,10450円

オフィスアワー

火曜日17時から18時30分 316研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

関心のあるテーマに主体的に取り組んで欲しい。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-abcM-40-Ex 授業科目名 (講義コード:M663202-1) 精神看護学演習 Psychiatric Mental Health Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 abc・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 渡邊 久美	関連授業科目 精神看護学特論、特別研究 履修推奨科目 看護研究特論		
学習時間 授業 90分 × 30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 精神看護学領域における研究課題について、個々人の動機や関心に基づき、様々な視点で研究テーマを検討し、研究目的を明確化し、目的を達成する方法を検討していく。 具体的には、研究テーマに関する国内外の先行研究を幅広く概観して、これまで得られている知見を整理し、研究に用いる概念や方法論を批判的に文献から検討、収集し、先行研究を参考に、研究デザイン、概念枠組みを規定し、研究方法を構築していく。 最終成果物として、研究計画書の作成を行い、中間発表により得た意見を参考にして、研究計画書を修正する。また、研究の着想から計画段階までのプレゼンテーション力を養成する。			
授業の目的 精神看護の対象となる当事者及びその家族の置かれている状況を理解するにあたり、個人的な経験則や理解から、先行研究や基盤となる哲学などに視野を広げ、当事者への看護に資する疑問を、研究的手法により解明する方法を多角的に検討する。 研究テーマの外縁が描けた段階で、記述研究、探索研究、介入研究などの量的研究や事例研究をはじめとする質的研究から、既に明らかにされている知見や理論を掌握し、修士論文における研究目的(リサーチクエスション)を決定するため、さらに研究テーマに焦点をあてた文献検討を行う中で、新規性のある研			
到達目標 1. 精神看護の対象となる当事者とその家族が置かれている状況や体験を説明できる。 2. 精神看護の対象となる当事者とその家族への看護について説明できる。 3. 修士論文のテーマ及びリサーチクエスションを述べることができる。 4. 研究テーマに関連する文献検討を順序立てて記述し、研究目的へと展開できる。 5. 修士論文の計画書を、先行研究における諸理論を援用して作成できる。 (以上、DPの「研究能力・応用力」、「専門知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応する)			
成績評価の方法 各回の発表内容(20%)、参加状況、課題レポート(一貫性・論理性・発展性)(50%)と修士論文の計画書(30%)を総合的に評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 本授業は講義、テーマに基づいた院生のプレゼンテーション、テーマに関するディスカッション、課題レポート提出を通して進めていく。基本的に対面授業とするが、状況に応じて遠隔授業も適宜対応していく。 第1回 オリエンテーション 第2回 文献クリティーク(日本における現状と課題) 第3回 文献クリティーク(諸外国の現状と課題) 第4回 文献クリティーク(自己の経験に基づく課題の整理) 第5回 文献クリティーク(首尾一貫性の確認、用語の定義の検討) 第6回 文献クリティーク(研究デザインとエビデンスレベル) 第7回 文献クリティーク(サブストラクション) 第8回 文献クリティーク(社会的意義の観点から) 第9回 研究テーマ検討(周辺領域との比較) 第10回 研究テーマ検討(Research Questionの検討; 上位目標の確認) 第11回 研究テーマ検討(Research Questionの検討; 研究目的の明確化) 第12回 研究テーマに関連する文献検討(研究方法; 質的研究の種類) 第13回 研究テーマに関連する文献検討(研究方法; 質的研究/M-GTAを中心に)			

2026 医学系研究科

- 第14回 研究テーマに関連する文献検討（研究方法；量的研究/理論的枠組み）
- 第15回 研究テーマに関連する文献検討（研究方法；量的研究/研究デザインと統計処理）
- 第16回 研究テーマに関連する文献検討（研究方法；プログラム評価の理論）
- 第17回 研究テーマに関連する文献検討（研究方法；プログラム評価の方法）
- 第18回 研究計画書の作成（研究テーマの検討）
- 第19回 研究計画書の作成（研究の背景・意義の検討）
- 第20回 研究計画書の作成（研究の目的の検討）
- 第21回 研究計画書の作成（研究の方法の検討）
- 第22回 研究計画書の作成（研究の倫理的配慮の検討）
- 第23回 中間発表
- 第24回 研究計画書の作成（研究テーマの修正）
- 第25回 研究計画書の作成（研究の背景・意義の修正）
- 第26回 研究計画書の作成（研究の目的の修正）
- 第27回 研究計画書の作成（研究の方法の修正）
- 第28回 研究計画書の作成（研究の倫理的配慮の修正）
- 第29回 研究計画発表
- 第30回 まとめ

【準備学修に必要な学修時間の目安】

30回まで、前後2時間 計4時間（120時間）以上は自習学習にあてる。

精神看護学演習では、研究計画立案の過程において、先行研究を批判的に分析して、研究していくテーマに関して、これまで明らかになっている知見を明らかにし、社会的課題を解決していくために、何をどのように研究的に取り組むことに意義があるかを探求していく。論文は適宜、多読、精読して先行研究を網羅し、追究する研究分野の動向は、国内のみならず国際的動向も鑑み、着手する研究の立ち位置を定めていく。このため、文献検索し、内容を理解し文献レビューを経て、研究課題を見出すことのできる力、研究者としての発想・着想を言語化する力、他者に伝える発表資料の創意工夫と発信力を養うために必要な時間を、各自、確保すること。

科学的に物事を捉え、論理的に思考し、表現力を高めるため関連文献のinput、outputをゼミで繰り返して発表していく。教科書は、各回の該当箇所（研究目的、方法論の検討など）を進めていく上で、「研究テーマを考えるためのチェックリスト等」が提示されているので、参考にされたい。

教科書・参考書等

【教科書】

近藤克則:研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」、医学書院、2018

【参考書】

山川みやえ、牧本清子:研究手法別のチェックシートで学ぶ よくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会、2014

バーンズ&グローブ:看護研究入門ー評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビアジャパン、2015

ポーリット、ベック:看護研究ー原理と方法、医学書院、2010

オフィスアワー

金曜日午後5時30分～6時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

関心領域の国内外の研究成果に着目し、背景や周辺領域にも視野を広げ、関連性の高い研究を精読し、クリティークしておいてください。既存研究においては、エビデンスだけでなく数値化できない事例研究からもケアの現象を読み取る力を養うなど、先行研究に学ぶ姿勢で臨んでください。対人援助職としてのアイデンティティを軸としつつ、精神保健医療福祉領域における多様な価値観の中で、自身が着手する研究がどう役立つのかを述べられるようにしてください。

教員の実務経験との関連

精神看護学領域における教育経験と認知症専門病棟での実務経験があります。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BCAM-40-Ex 授業科目名 (講義コード：M663103-1) 在宅看護学演習 Seminar in Home Care Nursing	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BCA・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 松本 啓子	関連授業科目 在宅看護学特論、在宅看護学特別研究 履修推奨科目 看護研究方法論、看護倫理学		
学習時間 授業90分×30回 + 自学自習 (準備学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要 学生の関心領域に沿って、先行研究の動向を調べ、文献レビューを行うよう指導する。学生が興味を持つ研究課題を明確にし、研究目的の明確化、研究対象の選定、概念モデルの作成、分析方法など研究計画書の概要を作成するよう指導する。			
授業の目的 ① 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文を読み、適切なキーワードを明らかにする。 ② 在宅看護学分野における学生自身の関心領域の論文をクリティークし、クリティークの方法を理解する。 ③ 文献レビュー、クリティークを行い、研究課題を明確にする。 ④ 研究課題および研究目的を明確にする。 ⑤ 研究目的に沿った研究対象、研究方法を検討し、研究計画を立てる。 ⑥ 本授業で自身の研究計画をプレゼンテーションし、研究計画の修正を行う。 ⑦ 修士論文中間発表会においてプレゼンテーションを行い、批判的意見を収集			
到達目標 1. 自己の関心領域について、適切なキーワードを述べるができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 2. 自己の関心領域に関する先行研究を収集することができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 先行研究のレビュー、クリティークを行い、文献レビューをまとめることができる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 自己の関心領域の中で、研究課題の位置づけを明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 5. 自己の関心領域に関する論文の研究目的を明確に示すことができる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 6. 研究目的に応じた適切な研究対象や研究方法を選択できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 7. 学生の関心に沿った研究計画書を作成できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 8. 研究計画を公開発表会でプレゼンし、研究の質を向上するために意見を収集し、研究計画書を修正できる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。			
成績評価の方法 評価は、演習授業におけるプレゼンテーション内容30%、参加状況30%、作成された研究計画書の内容40%により総合的に評価します。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 在宅看護関連の論文クリティーク 第2回 研究プロセスの理解 第3回 論文クリティークの意義と実践 第4回 論文クリティーク演習1：質的研究のクリティーク 第5回 論文クリティーク演習2：量的研究のクリティーク 第6回 文献レビューについて：論文クリティークの内容の文章化 第7回 リサーチ・クエスチョンについて 第8回 研究テーマの明確化 第9回 論文クリティーク演習3：研究テーマ関連の論文 第10回 論文クリティーク演習4：より広範囲での関連を探求する 第11回 知見の整理 第12回 リサーチ・クエスチョンから研究仮説へ 第13回 研究課題の抽出			

2026 医学系研究科

- 第14回 研究目的について
- 第15回 概念モデルについて
- 第16回 概念モデル演習1：作成の手順
- 第17回 概念モデル演習2：実践
- 第18回 研究目的の明確化
- 第19回 研究目的に沿った概念枠組みの明確化
- 第20回 研究デザインの明確化
- 第21回 研究対象の選定とその方法
- 第22回 分析方法の明確化
- 第23回 研究の信頼性と妥当性、信用性、信用可能性について
- 第24回 研究計画書の機能と内容
- 第25回 研究計画書作成演習1：背景と重要性
- 第26回 研究計画書作成演習2：文献レビューの作成、予備研究について
- 第27回 研究計画書作成演習3：倫理的配慮について
- 第28回 研究計画書作成演習4：作成と検討
- 第29回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーションの準備演習
- 第30回 修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション

【授業及び学修の方法】

講義及び院生によるプレゼンテーションと討議で展開する。

【事前学修及び事後学修のためのアドバイス】

第2回～第6回 論文の読み方、クリティークのために自己の課題に沿った論文の検索方法など授業で意見や質問ができるように準備しておく。

第7回～第13回 自己の研究課題の明確化に向けて、論文検索を通して課題に沿った論文を準備する。

第14回～第17回 研究課題に沿った手順について授業で紹介できるように準備をしておく。

第18回～第24回 研究の進め方を自分なりに考察しておく。

第25回～第28回 プレゼンテーションに向けての準備をしておく。

第29回～第30回 有意義な発表となるように課題における示唆や捉えを考察しておく。

なお、授業は対面を予定していますが、その時の状況により、遠隔授業へと変更になる可能性があります。事前に、大学からのお知らせ等の確認するようにしてください。

教科書・参考書等

教科書、使用しない

参考書

坂下玲子監訳、ポーリット & ベック 看護研究 第3版、医学書院、2025、9,800円＋税

オフィスアワー

水曜日5時限（看護学科教育研究棟6階松本研究室(619)）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学生の専門領域と在宅看護を関連させて探求すること

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-BACM-40-Ex 授業科目名 (講義コード: M663003-1) 地域看護学演習 Community Health Nursing Seminar	科目区分 専門科目	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Ex	単位数 6	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 看護研究方法論1, 看護研究方法論2		
	履修推奨科目 地域看護学特論		
学習時間 授業90分×30回+自学自習(準備学習53時間+事後学習50時間)			
授業の概要 地域を基盤とした公衆衛生看護活動の展開を効果的、効率的に行うために、実践の中から解決すべき事象や疑問、今後の方向性、新しい手法などを見出すことを目指し、自らの研究課題を焦点化していけるように段階的に進めます。 理論と実践を融合しながら、文献学習と合わせて研究課題を明確にし、研究課題解決に向けて効果的な研究方法をディスカッション等により探究していき、こういったプロセスから研究計画書の作成支援を行います。			
授業の目的 1. 公衆衛生看護における健康課題について、文献検討及びクリティークを通じて、研究課題の焦点化を行うことができる。 2. 自らの研究課題を解決するための妥当な研究方法を理解し、研究計画書を作成することができる。			
到達目標 1. 先行研究の動向を文献レビューを行い、研究課題を明確にできる (DPの「研究能力・応用力」に対応)。 2. 研究課題を解決するために必要となる研究方法について学び、説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 3. 研究において必要な主要概念となる用語について定義し説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)。 4. 研究課題の解決に適した研究方法を根拠を示して説明できる (Dpの「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 研究計画書を作成できる。 (DPの「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 成績評価の方法と基準 レポート80% (主に到達目標1、3、5に対応)、発表および討議20% (主に到達目標2、4に対応) 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 公衆衛生看護学における研究とは 第2回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク①CONSORT, PRISMA声明 第3回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク②文献選択 第4回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク③演習(発表) 第5回 公衆衛生看護学における研究論文クリティーク④まとめ 第6回 論文作成のためのTips①引用文献の管理 (EndNote) 第7回 論文作成のためのTips②要旨の書き方 第8回 論文作成のためのTips③一貫性のある論文にするためには 第9回 論文作成のためのTips④論文特有の言い回し 第10回 リサーチクエスションに関連した文献検索 第11回 研究課題の明確化 第12回 研究方法の検討①; 研究デザイン 第13回 研究方法の検討②; 概念規定, 枠組み 第14回 研究方法の検討③; 研究背景, 意義, 目的			

2026 医学系研究科

- 第15回 研究方法の検討④；各自の計画書について発表[演習]
- 第16回 研究計画書発表・検討①
- 第17回 研究計画書発表・検討②
- 第18回 研究計画書発表・検討③
- 第19回 研究計画書発表・検討④
- 第20回 研究計画書の作成および修正①
- 第21回 研究計画書の作成および修正②
- 第22回 研究計画書の作成および修正③
- 第23回 研究計画書の作成および修正④
- 第24回 研究計画書の作成および修正⑤
- 第25回 研究計画書の作成および修正⑥
- 第26回 研究計画書の作成および修正⑦
- 第27回 研究計画書の作成および修正⑧
- 第28回 研究計画書の作成および修正⑨
- 第29回 研究計画書の作成および修正⑩
- 第30回 まとめ

【授業及び学修の方法】

公衆衛生看護学の向上に寄与する研究計画を立案するにあたり、基本となる知識や各自でまとめた資料を発表しながら、ディスカッションを通して理解を深めていきます。この科目はすべての回で対面とします。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔によるオンライン授業とする可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第2～5回 クリティークの方法についてテキストを読み、レビューできるように準備する。(1時間×4)
クリティークをする研究論文を自ら探しクリティークを行いまとめて発表する。(5時間×4)
- 第6～9回 リサーチクエスチョンに関する文献検索とまとめ (20時間)
- 第10回 文献の収集 (5時間)
- 第11回 リサーチクエスチョンの決定 (5時間)
- 第12～15回 文献検索、プレゼン準備 (10時間×4)
- 第16～19回 研究方法の検討に関する資料検索、準備 (10時間×4)
- 第20～29回 研究計画書作成及び修正 (10時間×4)
- 第30回 最終プレゼン準備 (10時間)

教科書・参考書等

教科書 ・看護における研究 最新版 南裕子・野嶋佐由美編集，日本看護協会出版会 ，2017，3190円

参考書

・よくわかる看護研究論文のクリティーク Critique 山川みやえ・牧本清子編著，第2版，日本看護協会出版会，2018，3520円

・これからの看護研究—基礎と応用— 第3版 小笠原知枝・松木光子編集，ヌーベルヒロカワ，2012，4180円

オフィスアワー

火曜日 5 時限 (17:30～19:00)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ご自身の研究テーマに関する文献や書物を系統的に探し、批判的吟味（クリティーク）を通して論文の書き方を学びましょう。

感染症拡大状況に応じて、オンライン授業とします。適宜、こちらから連絡いたしますが、事前に確認するようにしてください。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M664101-1) 助産学特論Ⅰ (助産学概論) Midwifery I: Introduction to Midwifery	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学特論Ⅱ		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学実習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、助産の対象理解と意義、および倫理的対応能力や専門職としての自律について教授する。また、周産期医療の概要や諸外国における助産師教育や助産師活動について学ぶ。さらに、助産師としての社会的責務と規範について教授する。			
授業の目的 助産の概念として、助産の歴史、法律、母子保健と助産の変遷、助産学教育の動向、諸制度などを学習し、助産師の役割・責務・活動範囲・助産師の能力と活動について理解を深める。さらに周産期を取り巻く倫理的問題についても学び、助産師の現状と今後の課題について考察する。			
到達目標 1. 助産や助産師の定義を説明できる。 (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. 助産学の重要な概念、倫理、法律、歴史、文化が説明できる。 (DPの「専門知識・理解」に対応) 3. 国内外の助産師教育や活動を説明できる。 (DPの「専門知識・理解」に対応) 4. 助産師としての社会的責務と規範が説明できる (DPの「専門知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 授業への参加態度、グループ討議、プレゼンテーション (80%) 2. 課題レポート (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス、助産師の役割、助産師の職業倫理 (原田) 第2回 助産の概念 (野口) 第3回 助産師の定義と関係法規 (野口) 第3回 助産と出産の歴史・文化 (野口) 第4回 助産師の業務範囲と必須能力 (野口) 第5回 助産実践の基準と助産ケアの質保証 (野口) 第6回 国内外における助産師教育の変遷 (野口) 第7回 助産師の専門性と展望 (野口) 第8回 グループ発表 (野口・原田) 【授業および学修の方法】 講義および学生によるプレゼンテーションと討議で展開する。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第1回 事前:教科書の該当箇所と助産師の声明 (日本助産師会) を通読する (2時間) 事後:助産の概念と助産師の職業倫理について要点を整理する (2時間) 第2回 事前:教科書の該当箇所を通読する (2時間) 事後:助産師の定義と関係法規について要点を整理する (2時間) 第3回 事前:教科書の該当箇所を通読する (2時間) 事後:助産師と出産の歴史・文化について要点を整理する (2時間) 第4回 事前:教科書の該当箇所、を精読する (2時間) 事後:助産師の業務範囲と必須能力について要点を整			

2026 医学系研究科

理する (2時間)

第5回 事前：教科書の該当箇所、助産師の声明 (日本助産師会) を精読する (2時間) 事後：助産実践の基準と助産ケアの質保証について要点を整理する (2時間)

第6回 事前：教科書の該当箇所を通読する (2時間) 事後：国内外における助産師教育の変遷をふまえ、日本の助産師教育の課題について要点を整理する (2時間)

第7回 事前：課題に沿ってプレゼンテーションの準備を行う (2時間) 事後：助産師の専門性と今後の助産師活動の展望についてプレゼンテーションに向けた要点を確認する (2時間)

第8回 事前：課題に沿ってプレゼンテーションの準備を行う (2時間) 事後：これまでの学び、ディスカッションを通して感じたことを文献をもとに整理し、まとめる (2時間)

教科書・参考書等

教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論 第6版, 医学書院, 2025年 4,180円

参考書

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 I 基礎編, 日本看護協会出版会, 2026年, 3,200円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 II 実践編, 日本看護協会出版会, 2026年, 3,900円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 III アドバンス編, 日本看護協会出版会, 2026年, 3,900円

オフィスアワー

月曜日12:00~13:00 原田研究室 (4階415)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

これから学修する助産師教育課程の科目の基盤となる科目です。主体的に取り組み、「助産師とは」を考えてみましょう。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児ケアの実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M664102-1) 助産学特論Ⅱ (リプロダクティブヘルスと女性の健康) Midwifery Ⅱ: Reproductive Health and Women's Health	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり・野口 修司・野原 留美・橋本 忠行・長谷 綾子・三木 崇範	関連授業科目 助産学特論Ⅰ, Ⅲ～Ⅴ		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルスの概念と女性の権利、女性のライフサイクルにおける発達課題および女性やその家族の発達と家族機能について教授する。また様々な課題を抱える家族や、生殖医療における倫理的問題について、そして現代における家族の特徴と健康課題や望ましい支援のあり方について教授する。			
授業の目的 リプロダクティブヘルス・ライツに関する見解を深める。女性のライフサイクルにおける発達課題と、家族の成長と機能について学び、様々な課題を抱える女性とその家族の支援のあり方について考察する。			
到達目標 1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 女性の各ライフサイクルの心理・社会的課題について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 我が国のリプロダクティブヘルス・ライツの課題を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 4. 日本における家族機能、課題について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 5. 様々な課題をもつ家族への支援のあり方について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (80%) 2. グループ討議 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツの概念、歴史、意義 (原田) 第2回 我が国におけるリプロダクティブヘルス・ライツの課題 (原田) 第3回 セクシュアリティと性的マイノリティ・ジェンダーにかかわる問題 (原田) 第4回 海外と日本におけるプレコンセプションケアと避妊法・その課題、助産師としての役割 (原田) 第5回 周産期の死をめぐる医療者の関り (三木) 第6回 疾病をもつ妊産婦、母子・父子家庭、障がい児をもつ妊産婦の現状と課題 (長谷) 第7回 災害時のメンタルヘルス (野口) 第8回 子どもと家族の心理的アセスメント (橋本) 【授業および学修の方法】 教員による授業を行い、一部授業内容についてディスカッションを行う。一部オンラインで実施する場合もある。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 準備学習：教科書や文献等で各授業内容の該当箇所を通読する (各回2時間) 事後学習：講義資料、教科書、参考書、自身で調べた文献をもとに、各回の講義内容の要点をまとめる。 第1～2回 リプロダクティブヘルス・ライツについて、基本的知識と歴史をまとめておく (各2時間) 第3回 性の発達とセクシュアリティについて、基本的内容をまとめておく (2時間) 第4回 女性のライフサイクル各期における特徴と課題について考えておく (2時間) 第5回 ベリネイタルロスの基本的知識についてまとめておく (2時間) 第6回 様々な課題をかかえる家族について文献等を用いてまとめておく (2時間)			

2026 医学系研究科

【授業計画】

- 第1回 リプロダクティブヘルス・ライツの概念, 歴史, 意義 (原田)
- 第2回 我が国におけるリプロダクティブヘルス・ライツの課題 (原田)
- 第3回 セクシュアリティと性的マイノリティ・ジェンダーにかかわる問題 (原田)
- 第4回 海外と日本におけるプレコンセプションケアと避妊法・その課題, 助産師としての役割 (原田)
- 第5回 周産期の死をめぐる医療者の関り (三木)
- 第6回 疾病をもつ妊産婦, 母子・父子家庭, 障がい児をもつ妊産婦の現状と課題 (長谷)
- 第7回 災害時のメンタルヘルス (野口)
- 第8回 子どもと家族の心理的アセスメント (橋本)

【授業および学修の方法】

- 第1～4回は各課題においてプレゼンテーションとグループワークを行う。
- 第5～8回は教員により講義を行い, 一部授業内容についてディスカッションを行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

- 準備学習: 教科書や文献等で各授業内容の該当箇所を通読する (各回2時間)
- 事後学習: 講義資料, 教科書, 参考書, 自身で調べた文献をもとに, 各回の講義内容の要点をまとめる。
- 第1～2回 リプロダクティブヘルス・ライツについて, 基本的知識と歴史をまとめておく (各2時間)
- 第3回 性の発達とセクシュアリティについて, 基本的内容をまとめておく (2時間)
- 第4回 女性のライフサイクル各期における特徴と課題について考えておく (2時間)
- 第5回 ペリネイタルロスの基本的知識についてまとめておく (2時間)
- 第6回 様々な課題をかかえる家族について文献等を用いてまとめておく (2時間)
- 第7回 災害時のメンタルヘルスについて, 基礎的知識をまとめておく (2時間)
- 第8回 家族発達, 親子関係の基本概念についてまとめておく (2時間)

教科書・参考書等

教科書

- 我部山キヨ子他編: 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2023年 4,840円
- 我部山キヨ子他編: 助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第5版, 医学書院, 2023年 4,180円
- 木村好秀他著: 家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版, 医学書院, 2017年 3,300円
- 日本産科婦人科学会編: 産婦人科診療ガイドライン産科編2023, 日本産科婦人科学会, 2023年 7,273円

参考書

- 鯨岡峻著: 関係発達論の展開—初期「子ども—養育者」関係の発達的変容, ミネルヴァ書房, 1999 3,960円
- 橋本真紀編: よくわかる家族援助論 第2版, ミネルヴァ書房, 2009 2,640円

オフィスアワー

- 水曜日12:00～13:00
- 4階415研究室 (原田)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に必要な科目であることから, 主体的に取り組む。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M664103-1) 基礎助産学Ⅰ(周産期学婦人科学) Basic MidwiferyⅠ: Obstetrics and Gynecological Nursing	科目区分 専門科目(助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 原田 さゆり・金西 賢治・田中 宏和・星 野 克明	関連授業科目 助産診断学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		履修推奨科目
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化および免疫、感染症、生殖補助医療、不妊症等について教授する。また妊娠・分娩・産褥期の生理病態を理解し、妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに、周産期の産科手術と精神疾患について教授する。			
授業の目的 リプロダクティブヘルスに関連した解剖生理と生理学的変化と免疫、感染症、生殖補助医療、不妊症等を学び、学び、生殖に関連した問題について考える。また妊娠・分娩・産褥期の解剖生理をを理解し、妊産婦管理の基本を学ぶ。さらに、周産期の産科手術と精神疾患について学ぶ。			
到達目標 1. 女性のライフサイクル各期の主な疾患が説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 妊産婦管理に必要な解剖生理を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 免疫のしくみ、母子と感染について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 4. 遺伝と生殖補助医療について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 5. 妊娠期の産科手術、産科的医療処置を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討論内容と参加度(80%) 2. 課題レポート(20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 リプロダクションに関する解剖・生理 第2回 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患 第3回 女性生殖器疾患 第4回 不妊症・不育症、性分化疾患 第5回 妊娠期の異常①産科合併症 第6回 妊娠期の異常②妊娠に伴う合併症 第7回 妊娠期の異常③妊娠期の産科手術・産科的医療処置 第8回 分娩期の異常①分娩3要素の異常、分娩に伴う損傷、弛緩出血 第9回 分娩期の異常②産科的医療処置 第10回 産褥期の異常 第11回 免疫のしくみ、周産期の免疫 第12回 遺伝カウンセリング概論 第13回 遺伝カウンセリングの実際 第14回 まとめ(リプロダクションに関する解剖生理、女性のライフサイクル各期の疾患) 第15回 まとめ(女性生殖器疾患、不妊症・不育症、性分化疾患、妊娠分娩産褥期の異常とその管理、遺伝カウンセリング)			
【授業および学習の方法】 授業は講義を中心にすすめる。看護基礎教育で学んだ内容を整理して臨む。また、毎回の授業内容を教科書等で事後学習し、まとめておく。			

2026 医学系研究科

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

準備学習：教科書の各授業内容の該当箇所を通読する（各回2時間）

事後学習：講義資料，教科書，参考書，自身で調べた文献をもとに，各回の講義内容の要点をまとめる．

第1回 リプロダクションに関する解剖・生理についてまとめる（2時間）

第2回 女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患についてまとめる（2時間）

第3回 女性生殖器疾患についてまとめる（2時間）

第4回 不妊症・不育症，性分化疾患の検査、診断、患者を取り巻く課題についてまとめる（2時間）

第5回～10回 妊娠期・分娩期・産褥期の異常についてまとめる（2時間）

第11回 免疫のしくみ、周産期の免疫についてまとめる（2時間）

第12～13回 遺伝カウンセリングの基礎知識、実践についてまとめる（2時間）

第14～15回 授業資料、助産師国家試験をもとに整理し、まとめる（2時間）

教科書・参考書等

【教科書】

堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第7版，医学書院，2026年，4,400円（税込）

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2025年，5,500円（税込）

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版，医学書院，2026年，5,390円（税込）

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会，2023年，7,000円（税込）

【参考書】

北川真理子/内山和美編：今日の助産，改訂第4版、南江堂，2019年、9,680円

医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.10 産科 第4版，メディックメディア，2018年，3,900円＋税

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟415号室（原田）

または各回の講義後担当教員に質問可

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は医師の資格を有し，病院，診療所等，多様な場所での臨床経験を持ちます．妊産褥婦および新生児ケアの実務経験をもとに講義を行います．

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M664104-1) 基礎助産学Ⅱ (胎児学・新生児乳幼児学) Basic Midwifery Ⅱ: Neonatal Nursing	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり・日下 隆・小谷野 耕佑・三 木 崇範	関連授業科目 助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 地 域母子保健学実習		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)	履修推奨科目		
授業の概要 本科目では、児と新生児の成長発達と異常、および診断学と治療について教授する。また、胎児と新生児期・乳幼児 期の主たる病態について、正常新生児、異常新生児の診断における基礎的知識について教授する。			
授業の目的 胎児と新生児の成長発達と、診断について理解することができる。また、胎児と新生児期・乳幼児期の主たる病態に ついて理解し、助産診断時に必要な正常新生児、異常新生児の診断における基礎的知識を身に着けることができる。			
到達目標 1. 胎児の発達と生理、代表的疾患を説明できる。 (DPの「知識・理解」に対応) 2. 新生児の発達と生理、代表的疾患を説明できる。 (DPの「知識・理解」に対応) 3. 新生児の異常兆候を説明できる。 (DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 課題に対する討議内容と参加度 (100%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり とする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 胎児総論、成長発達 (三木 崇範) 第2回 胎児の循環・肺・中枢神経系の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第3回 胎児の消化器系・泌尿器の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第4回 胎児の代謝・免疫の生理と代表的疾患 (三木 崇範) 第5回 新生児学総論、発達・発育とその評価 (日下 隆) 第6回 新生児の循環・呼吸、体温調節・栄養・電解質バランス・血液系の基礎と適応と代表的疾患 (小谷野 耕 佑) 第7回 新生児の内分泌系・代謝系・免疫系・中枢神経系・行動と感覚機能・代表的疾患 (小谷野 耕佑) 第8回 新生児の異常兆候 (胎児発育異常・チアノーゼ・多血と蒼白・嘔吐と腹部膨満・けいれん) (小谷野 耕 佑) 【授業および学修の方法】 授業は講義中心です。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 準備学習：各回の授業内容について、母性看護学での既習内容を復習し、教科書の該当箇所を通読する (各回2時 間) 事後学習：講義資料、参考書、自身で探した文献をもとに、各回の授業内容について要点をまとめる。 第1回 胎児総論、成長発達について要点をまとめる (2時間) 第2回 胎児の循環・肺・中枢神経系の生理と代表的疾患について要点をまとめる (2時間) 第3回 胎児の消化器系・泌尿器の生理と代表的疾患について要点をまとめる (2時間) 第4回 胎児の代謝・免疫の生理と代表的疾患について要点をまとめる (2時間) 第5回 新生児学総論、発達・発育とその評価について要点をまとめる (2時間) 第6回 新生児の循環・呼吸、体温調節・栄養・電解質バランス・血液系の基礎と適応と代表的疾患について要点 をまとめる (2時間)			

2026 医学系研究科

第7回 新生児の内分泌系・代謝系・免疫系・中枢神経系・行動と感覚機能・代表的疾患について要点をまとめる (2時間)

第8回 新生児の異常兆候 (胎児発育異常・チアノーゼ・多血と蒼白・嘔吐と腹部膨満・けいれん) について要点をまとめる (2時間)

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2025年，5,500円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2025年，5,280円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2025年，3,960円

細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年，4,400円

【参考書】

仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年，6,380円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟4階415号室 (原田)

または各回の授業後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は医師の資格を有し，病院，診療所等，多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産婦および新生児診療の実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M664105-1) 基礎助産学Ⅲ(薬理・臨床検査学) Basic Midwifery Ⅲ: Pharmacology and Clinical Laboratory	科目区分 専門科目(助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 bca・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり・加藤 育子・金西 賢治・田 中 宏和	関連授業科目 助産学特論Ⅲ・Ⅳ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		履修推奨科目
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、周産期で使用される薬剤について、効果や影響等の専門的な知識を教授する。また、周産期における臨床検査の内容について教授する。			
授業の目的 本科目は、周産期で使用される薬剤について、妊娠中の母体胎児および産褥期の母子への薬剤の効果と影響等について、専門的な薬剤知識を学ぶ。また、女性のライフステージに合わせた特有のホルモン補充療法や避妊薬の知識と管理について、さらに、周産期における母子の健康管理に必要な臨床検査の内容について学ぶ。			
到達目標 1. 周産期で使用される薬剤について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる(DPの「知識・理解」に対応) 2. ホルモン補充療法について、薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる(DPの「知識・理解」に対応) 3. 避妊薬について、その薬理作用と機序および禁忌等の注意事項が理解できる(DPの「知識・理解」に対応) 4. 周産期管理に必要な臨床検査について理解できる(DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に対する討議内容と参加度(80%) 2. 課題レポート(20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 薬理学総論 第2回 妊娠・分娩・産褥期における薬剤投与の原則 第3回 妊娠中に用いられる薬剤療法(異常妊娠・合併症妊娠) 第4回 分娩期に用いられる薬物療法(陣痛誘発・促進, 異常出血, 産科麻酔) 第5回 周産期の検査: 妊娠診断薬・胎児胎盤機能検査・胎児血採取 第6回 新生児期の医薬品・授乳期の医薬品 第7回 まとめ(周産期で使用される薬剤の作用、機序、禁忌) 第8回 まとめ(周産期管理に必要な検査) 【授業および学修の方法】 授業は講義中心です。看護基礎教育における既習内容について、事前にまとめておく。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 準備学習として、各回の授業内容の母性看護学での既習内容の復習と、該当箇所の教科書を通読する(各回2時間)。 事後学習として、講義資料、教科書および参考書で各回の授業内容の要点をまとめる(各回2時間)。			
教科書・参考書等 【教科書】 堀内成子他編: 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第7版, 医学書院, 2026年, 4,400円 我部山キヨ子他編: 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2025年, 5,500円 我部山キヨ子他編: 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版, 医学書院, 2026年, 5,390円 日本産科婦人科学会編: 産婦人科診療ガイドライン産科編2023, 日本産科婦人科学会, 2023年, 8,000円 中井章人著: 図説CTGテキスト, メジカルビュー社, 2016年, 3,850円 【参考書】			

2026 医学系研究科

北川真理子/内山和美編：今日の助産，改訂第4版、南江堂，2019年、9,680円

医療情報科学研究所 編集：病気がみえるvol.10 産科 第4版，メディックメディア，2018年，3,960円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟4階415号室（原田）

または各回の授業後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は医師の資格を有し，病院，診療所等，多様な場所での臨床経験を持ちます．妊産褥婦および新生児診療の実務経験をもとに講義を行います．

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M664201-1) 助産診断技術学 I (妊娠期) Midwifery Diagnostic Techniques I : Pregnancy	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産診断技術学演習 I 助産学実習 I・II		
	履修推奨科目 基礎助産学 I～III, 周産期ハイリスクケア		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 この授業は、妊娠期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と妊娠期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術や妊婦の日常生活適応を高める支援に関する理論と実践方法、パーソプランを尊重した分娩につながるケア技術について教授する。			
授業の目的 妊娠期における助産過程の展開を健康の維持増進・セルフケアの支援の視点から理解し、その支援に必要な基礎知識を習得する。また、母子とその家族の妊娠の受容や、アイデンティティの再構築、親役割への移行など、妊娠期から家族の発達を支援する助産ケアについて理解する。			
到達目標 1. 妊娠の成立と妊娠経過について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 妊娠期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 妊娠期に起こりやすい異常について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. ハイリスク妊婦へのケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 妊娠期に必要な助産診断の考え方が説明でき、紙上事例による助産過程の展開ができる (DPの「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) (到達目標1.2.3.4.5に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (40%) (到達目標1.2.3.4.5に対応) 3. 小テスト (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画・内容】 第1回：助産診断の基本的な考え方 (原田) 第2回：妊娠にともなう母体の変化 (原田) 第3回：胎児の成長発達 (原田) 第4回：妊娠期における心理・社会的特徴とケア (原田) 第5回：妊婦の健康診査 (原田) 第6回：妊娠初期の助産診断 (原田) 第7回：妊娠中期の助産診断 (原田) 第8回：妊娠末期の助産診断 (原田) 【授業及び学修の方法】 第1～4回は教員による講義を中心にすすめる。第5回～第8回は、各授業の前半は学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や事前学修に基づきグループディスカッションを行う。後半は教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。また授業開始時には前回の授業内容に関する小テストを行って知識の定着をはかる。授業はオンラインで行う場合もある。			

2026 医学系研究科

【自学自習へのアドバイス】

基礎助産学Ⅰ～Ⅲ，周産期ハイリスクケアの妊娠期に該当する箇所を復習して授業の準備をしておくこと（1時間×8回）。プレゼンテーションの担当に当たってなくても，毎回の授業前には授業内容にそった予習をしておくこと（1時間×8回）。授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し，次回授業前の小テストに備える（1時間×7回）

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版，医学書院，2025年 4,840円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2025年 5,500円

森恵美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第4巻 妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，2025年 4,070円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2023年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2025年 5,280円

中川章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024，日本助産師会出版，2025年 2,200円

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会，2023年 8,000円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2025年 3,700円

【参考書】

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00

4階415研究室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産診断技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。また助産師国家試験受験資格に必要な科目ですので，主体的に取り組み，確実に知識を定着しましょう。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し，病院，診療所，地域等，多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児ケアの実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M664202-1) 助産診断技術学Ⅱ (分娩期) Midwifery Diagnostic Techniques II: Delivery	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産診断学演習Ⅱ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
	履修推奨科目 助産学特論Ⅲ～Ⅴ, 周産期ハイリスクケア		
学習時間 授業90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業は、分娩の生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術と健康支援の展開に必要な知識について教授する。			
授業の目的 分娩期の助産ケアを行うにあたり必要な基礎となる知識、正常な分娩進行と異常予測および予防行動について習得する。			
到達目標 1. 分娩期の助産診断に必要な知識について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 分娩経過に応じた産婦のケアや家族支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 産婦のリスクアセスメントの方法が説明でき、分娩各期に起こる異常の早期発見・診断方法、対処法について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 誘発分娩における助産師の管理と、ハイリスク・異常分娩時の対応について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 小テスト (20%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (40%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: 分娩の3要素 (原田) 第2回: 分娩進行と分娩予測 (原田) 第3回: 分娩期のフィジカルアセスメント (原田) 第4回: 分娩第1期の助産診断とケア (原田) 第5回: 分娩第2期の助産診断とケア (原田) 第6回: 分娩第3-4期の助産診断とケア (原田) 第7回: 助産診断・計画立案 (正常編) (原田) 第8回: 助産診断・計画立案 (異常編) (原田) 【授業および学習の方法】 授業第1～3回は、教員による授業を中心にすすめる。第4回以降は、学習者が授業内容に関連するテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や事前学習に基づきグループディスカッションを行う。授業の後半は教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。また授業開始時には前回の授業内容に関する小テストを行って知識の定着をはかる。授業は一部オンラインで実施する場合がある。 【自学自習へのアドバイス】 基礎助産学Ⅰ～Ⅲ, 周産期ハイリスクケアの分娩期に該当する箇所を復習して授業の準備をしておくこと (1時			

2026 医学系研究科

間×8回)。プレゼンテーションの担当に当たってなくても、毎回の授業前には授業内容にそった予習をしておくこと(1時間×8回)。授業後は資料、教科書、参考書をもとに復習し、次回授業前の小テストに備える(2時間×7回)

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版, 医学書院, 2023年 4,180円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版, 医学書院, 2026年 5390円

佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2026年版 第5巻 分娩期の診断とケア, 日本看護協会出版会 3,960円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2026年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 5,060円

中井章人著：図説CTGテキスト, メジカルビュー社, 2016年 3,850円

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版, 医学書院, 2020年 2,970円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024, 日本助産師会出版, 2025年 2,200円

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023, 日本産科婦人科学会, 2023年 8,000円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版, 医学書院, 2018年 3,960円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス, インターメディカ, 2025年 3,700円

【参考書】

進純郎他著：分娩介助学, 医学書院, 2014 5,280円

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版, 南江堂, 2019年度版, 9,680円

オフィスアワー

水曜日12:00~13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室(原田)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産診断技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。また助産師国家試験受験資格に必要な科目ですので、主体的に取り組み、確実に知識を定着しましょう。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児ケアの実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M664203-1) 助産診断技術学Ⅲ (産褥期, 新生児・乳幼児) Midwifery Diagnostic Techniques Ⅲ: Postpartum and Newborn	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産診断学演習Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
	履修推奨科目 基礎助産学Ⅰ～Ⅲ, 周産期ハイリスクケア		
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では, 産褥期では母子の健康診査に必要な知識と技術を教授する. また褥婦の身体的, 心理社会的な健康課題を科学的根拠に基づいてアセスメントし, ケアを実践する能力を教授する. 新生児および乳児の健康診査に必要な知識と技術を教授する. 助産過程の展開に必要な新生児および乳児の身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし, 科学的根拠に基づいたケアを実践する援助方法を教授する.			
授業の目的 産褥期女性の進行性変化と退行性変化を学び, 生理的な変化がより健康的に経過するための助産ケアについて理解する. また, 新生児の胎外生活への適応を促すための支援と技術を習得する. 新生児期から乳児期における身体的・心理社会的な健康状態をアセスメントし, 科学的根拠に基づいたケアを実践する援助方法を学ぶ.			
到達目標 1. 褥婦の身体的心理・社会的変化を説明できる. (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 新生児の診断と管理を説明できる. ケアの技術を習得する. (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 新生児のケアの技術を説明できる. (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 乳幼児の成長と管理を学ぶ. (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 1. 小テスト (20%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 2. 課題に応じた資料作成とプレゼンテーション内容 (40%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応) 3. 課題に対する討議内容と参加度 (40%) (到達目標1. 2. 3. 4. に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする. 各評価基準は次のとおりとする. 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している. 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している. 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している. 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している. 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない. ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる. その場合の評価基準は次のとおりとする. 合格又は了 到達目標を達成している. 不合格 到達目標を達成していない.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 退行性変化のフィジカルアセスメントとケア 第2回 褥婦の心理社会的変化のアセスメントとケア 第3回 家族計画と受胎調節法 第4回 新生児のフィジカルイグザミネーション (新生児の管理・タンデムマススクリーニング・聴力検査) 第5回 生後24時間以内の早期新生児のケア 第6回 生後24時間以降の早期新生児のケア 第7回 新生児の安全管理・家庭生活への移行とフォローアップ 第8回 乳幼児の発育発達・健康診査・予防接種 【授業および学修の方法】 授業は講義を中心にすすめる. 内容によっては, PBLによる討議・発表で理解を深める. 授業は一部オンラインで実施する場合がある. 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			

2026 医学系研究科

看護基礎教育で学んだ既習内容に沿って、褥婦と新生児，早期新生児，乳幼児のケアについて，また新生児と乳幼児の病態生理と検査について事前にまとめておく（2時間×8回）．授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習する（2時間×8回）

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2023年 4,180円
我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版，医学書院，2026年 5,390円
石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円
江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2025年 4,070円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2025年 5,280円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円
木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2025年，3,700円
日本小児医療保健協議会（四者協）栄養委員会：母乳育児ハンドブック、東京医学社、2022年 4,180円

【参考書】

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円
NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年 4,840円
仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー

水曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産師国家試験受験資格に関連する科目であることから，主体的な学びを期待する．

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M664204-1) 周産期ハイリスクケア Perinatal High-Risk Care	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり・西条 順子・田中 宏和・森本 絢	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産診断技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、合併症妊婦およびハイリスク妊産褥婦とハイリスク新生児のアセスメントに必要な知識と援助技術を教授する。また、母体および新生児の救急蘇生や超音波診断について、科学的根拠に基づく高度な実践的知識を教授する。ハイリスク状況にある妊産褥婦と新生児への援助については、医師および看護職を含めた多職種協働により、早期発見・対応等に貢献できる知識と技術を教授する。			
授業の目的 主に分娩時における母子の急変時の対処とケアをの知識を学ぶ。また周産期での超音波診断等、より高度な助産技術の習得を図る。NICU新生児を含むハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ。			
到達目標			
1. 母体急変時のアセスメントと対処方法を説明できる (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 2. 周産期における超音波検査法の基礎を学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 3. NICU/ハイリスク新生児の管理とケアを学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 4. ハイリスク・母体急変時のケアを学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応) 5. 新生児蘇生法 (NCP) Aコースの知識、技術を学ぶ (DP「専門知識・理解」「研究能・応用力」に対応)			
成績評価の方法			
1. 課題に対する討議内容と参加度 (80%) 2. 課題に関するレポート (20%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 周産期の検査：胎児心拍数モニタリングの判読、胎児well-beingの評価 第2回 麻酔分娩 第3回 母体急変時のアセスメントとケア 第4回 NICU/ハイリスク新生児 出生直後の管理 第5回 NICU/ハイリスク新生児と親へのケア 第6回 新生児の感染・分娩時損傷・黄疸 第7回 新生児蘇生法 (NCP) Aコース受講 (講義) 第8回 新生児蘇生法 (NCP) Aコース受講 (演習)			
【授業および学修の方法】 授業は講義を中心にすすめる。第7、8回はNCP (Aコース) を受講する。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第1-6回 事前には母性看護学での既習内容を復習し、教科書の該当箇所を通読する。事後には母体急変時の対応について要点をまとめる (各回事前・事後2-4時間) 第7、8回 事前に教科書の該当箇所を通読する。事後には、母体胎児急変時の実際について要点をまとめる (各回事前・事後2-4時間)			
教科書・参考書等			
【教科書】 我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2025年 4,840円 我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2025年 5,500円 我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版, 医学書院, 2026年 5,390円 石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2025年 3,960円			

2026 医学系研究科

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2024年 5,280円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟415号室（原田）

または各回の授業後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は医師または助産師の資格を有し，病院，診療所等，多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児診療の実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE 授業科目名 (講義コード: M674001-1) 助産診断技術学演習 I (妊娠期) Midwifery Diagnosis and Skills I : Pregnancy	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1 年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学実習 I・II 履修推奨科目 助産診断技術学 I		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、妊娠期における女性のセルフケア能力を高める援助方法を教授し、保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できるよう知識と実践力を養えるよう指導する。			
授業の目的 妊婦のセルフケア能力を高めるための助産ケアと健康教育に関する理論を習得し、集団指導・個別指導の指導案の立案と媒体を作成する。演習では状況設定下での妊娠期の集団指導と個別指導を行う。また妊娠期の助産過程を紙上事例にて展開する。			
到達目標 1. 妊娠期の正常な経過を維持するための助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 妊娠期に起こりやすい異常について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. ハイリスク妊婦のケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 妊娠期に必要な助産診断の考え方が説明でき、紙上事例による助産過程の展開ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 妊娠各期に必要な保健指導について指導案と媒体を作成し、ロールプレイで保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 妊婦健診に必要な助産技術が演習で実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) (到達目標1.2.3.4.に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (30%) (到達目標1.2.3.4.に対応) 3. 演習成果物 (40%) (到達目標 5.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第 1回: 妊娠初期の助産ケア (食生活, 嗜好品, 性生活, 運動, 休息, 排泄行動) (原田) 第 2回: 妊娠中期の助産ケア (体重管理, 日常生活動作, 母乳育児準備) (原田) 第 3回: 妊娠末期の助産ケア (マイナートラブル, 出産・育児準備) (原田) 第 4回: 就労女性への支援, 社会資源の活用 (原田) 第 5回: ハイリスク妊婦・異常妊娠の妊婦のアセスメントとケア (原田) 第 6回: 妊娠期のフィジカルイグザミネーション (原田) 第 7回: 妊娠期の助産過程① 情報収集, アセスメント, 診断 (事例演習) (原田) 第 8回: 妊娠期の助産過程② 計画立案, 実施・評価 (事例演習) (原田) 第 9回: 妊娠期の助産過程③ 事例検討① (原田) 第10回: 妊娠期の助産過程④ 事例検討② (原田) 第11回: 妊婦期の保健指導 個別指導① (原田)			

2026 医学系研究科

第12回：妊婦期の保健指導 個別指導② (原田)

第13回：妊娠健診シミュレーション① (正常編) (原田)

第14回：妊婦健診シミュレーション② (異常編) (原田)

第15回：妊娠期の胎児超音波 (助産師外来における支援) (佐々塚・原田)

【授業及び学修の方法】

授業第1～6回は、教員による授業を中心にすすめながら、グループディスカッションを行い、各授業内容に関する理解を促す。また授業開始時には前回の授業内容に関する小テストを行い、知識の定着をはかる。第7～12回は、教員より提示された妊娠期の紙上事例について助産過程を展開し、課題についてプレゼンを行う。グループで共有して理解を促す。第13回～15回は、事前に妊娠期に必要なフィジカルイグザミネーションおよび助産ケア技術について予習を行い、授業時に実技演習、シミュレーションを行う。授業は、一部オンラインにて実施する場合がある。

【自学自習へのアドバイス】

基礎助産学Ⅰ～Ⅲ、周産期ハイリスクケアの妊娠期に該当する箇所および助産診断技術学Ⅰを復習して授業の準備をしておくこと (1時間×15回)。プレゼンテーションの担当に当たっていても、毎回の授業前には授業内容にそった予習をしておくこと (1時間×15回)。授業後は資料、教科書、参考書をもとに復習し知識の定着を図ること (1時間×15回)、事前に指導案を立案し、授業でロールプレイを行った後はリフレクションのためのレポートを作成する (8時間)、授業で各自紙上事例の助産過程の展開を行い、グループで共有した後、自身に足りなかったことを復習しアセスメントと計画立案を修正する (7時間)

教科書・参考書等

【教科書】

堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第7版, 医学書院, 2026年 4,400円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2025年 5,500円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 第7版, 医学書院, 2026年 5,390円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2025年 3,850円

森恵美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第4巻 妊娠期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2025年 4,070円

佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第5巻 分娩期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2025年 4,400円

江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会, 2025年 4,070円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 2025年 5,280円

木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版, 医学書院, 2017年 3,300円

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版, 医学書院, 2020年 2,970円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版, 医学書院, 2018年 3,960円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス, インターメディカ, 2025年 3,700円

日本小児医療保健協議会 (四者協) 栄養委員会：母乳育児ハンドブック、東京医学社、2022年、4,180円

【参考書】

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版, 南山堂, 2019年, 9,680円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室 (原田)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。主体的に取り組み、確実に知識を定着しましょう。

指導案の立案や各種課題については、第1回目の授業で説明するため、留意事項にしたがって作成してください。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE 授業科目名 (講義コード: M674002-1) 助産診断技術学演習Ⅱ (分娩期) Midwifery Diagnostic Techniques Exercise II: Delivery	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 助産診断技術学Ⅱ		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 本授業は、女性の産む力をひきだす能力や、自然で安全・快適な根拠に基づいたケア、分娩介助技術、分娩の促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のためのケアができる能力を養う。 分娩期の事例を用いて、適切な助産診断に基づく助産計画立案および実施までの一連のプロセスを学び、個別性を尊重したケア技術を探求する。正常からの逸脱の判断や異常予測のための臨床判断能力、緊急時に対応できる実践力を養う。			
授業の目的 分娩期の助産過程を展開するために必要な理論や知識を統合し、助産過程を展開して具体的な助産ケアの実践に必要な技術を習得する。			
到達目標 1. 分娩経過の診断・胎児の健康状態の診断について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 分娩経過と正常からの逸脱はないかアセスメントし正常経過を維持するための予防的ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 正常経過の産婦および家族への助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 正常経過の産婦に必要なケアをシミュレーションで安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 正常経過の産婦の分娩介助を模型を使って安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 正常から逸脱した産婦への助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 成績評価の方法 成績評価の方法 1. 筆記試験 (30%) (目標1.2.3.4.5.6に対応) 2. 演習成果物 (30%) (目標1.2.3.4.5.6に対応) 3. 分娩介助技術試験 (40%) (目標 5に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: ガイダンス、分娩介助の意義と原理、分娩期助産診断 (原田) 第2回: 分娩介助技術: 分娩第1期の助産診断とケア (原田) 第3回: 分娩介助技術: 分娩第2期~4期の助産診断とケア (原田) 第4回: 分娩介助技術: ガウンテクニック、グローブ (原田) 第5回: 分娩介助技術: 分娩室・必要物品の準備、清潔野作成、導尿 基本 (原田) 第6回: 分娩介助技術: 分娩室・必要物品の準備、清潔野作成、導尿 練習 (原田) 第7回: 分娩介助技術: 小テスト (清潔野作成、導尿、ガウングローブ装着テクニック (原田) 第8回: 分娩介助技術: 分娩介助技術①児娩出まで (原田) 第9回: 分娩介助技術: 分娩介助技術②児娩出~胎盤娩出 (原田) 第10回: 分娩介助技術: 分娩期の助産ケア (産痛緩和、促進、体位) (原田) 第11回: 分娩介助技術: 分娩介助技術 個別練習 (原田)			

2026 医学系研究科

- 第12回：分娩介助技術：分娩介助技術 個別練習（原田）
第13回：分娩介助技術：分娩介助技術 分娩期シミュレーション①（原田）
第14回：分娩介助技術：小テスト（臍帯切断），分娩期シミュレーション（原田）
第15回：分娩介助技術：分娩期シミュレーション（原田）

【授業及び学修の方法】

教員の提示する資料をもとにディスカッションを行い，各授業内容に関する理解を促す．すべての授業回前には，事前に分娩期に必要な助産ケアと分娩介助技術について予習を行い，技術演習にのぞむこと．講義資料，教員の作成した動画やデモンストレーションを参考に，自己研鑽にも励むこと．重要な助産技術については技術テストを行い，確実に安全な技術の習得を目指す．

【自学自習へのアドバイス】

助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ，助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅲ，周産期ハイリスクケアの分娩期・産褥期に該当する箇所を復習して授業の準備をしておくこと（2時間×15回）．授業後は資料，教科書，参考書をもとに復習し知識の定着を図ること（1時間×8回）．分娩介助実技演習は分娩介助手順暗記してのぞむこと（2時間×10回）．分娩期のシミュレーションは分娩期の助産過程の展開に必要なアセスメントの視点や助産ケアについて予習してくること（1時間×2回）．

教科書・参考書等

【教科書】

- 我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2023年 4,180円
我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版，医学書院，2023年 3,960円
佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会 3,960円
小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，5,060円
中井章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円
日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円
日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024，日本助産師会出版，2025年 2,200円
日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会，2023年 8,000円
我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円
平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2025年 3,700円

【参考書】

- 進純郎他著：分娩介助学，医学書院，2014 5,280円
北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南江堂，2019年度版，9,680円

オフィスアワー

水曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階415（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です．主体的に取り組み，確実に知識と技術を定着しましょう．

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し，病院，診療所，地域等，多様な場所での臨床経験を持ちます．妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに講義を行います．

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-bcaM-40-LE 授業科目名 (講義コード: M664207-1) 助産診断技術学演習Ⅲ (産褥期・新生児・乳幼児) Midwifery Diagnostic Techniques Exercise Ⅲ: Postpartum period, Postpartum and Newborn	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 bca・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 助産診断技術学Ⅲ		
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、産褥期における母子のセルフケア能力を高める診断と基本的援助技術を教授する。科学的・効果的な母乳育児支援技術の習得を目指し、母乳育児についての基本的な知識や妊娠中からの母乳育児支援などを教授する。また、新生児のケアに必要な助産の知識と技術を教授し、臨床助産実践力の基礎的能力を養う。産後の褥婦が新生児のケアをできるように支援し、褥婦に伝えるための保健指導に必要な知識と基本技術を教授する。さらに、出生直後の新生児の救急蘇生法の基礎を教授し、助産実践能力を高める。			
授業の目的 母子の経日的変化について学ぶ。産褥期の経過診断とケア、育児技術支援、母乳育児支援に必要な知識、方法を学ぶ。出生直後の新生児が子宮外生活に適応するための知識と援助方法、技術を学ぶ。母親の新生児ケア能力向上のための援助方法、保健指導実践のために必要な知識と基本技術を習得する。			
到達目標 1. 子宮外生活への適応支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. モデル人形を使って新生児期に必要な基本的育児技術を実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 新生児・乳児を育てる母親と家族に必要な育児技術について、ロールプレイで保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 模型を使って基礎的な新生児蘇生法が実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 産褥経過が正常から逸脱していないかをアセスメントし、正常経過を維持するための予防的ケアを説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 母子相互作用や家族の関係性についてアセスメントし、家族形成過程を促す支援について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 母乳育児についてアセスメントし、母乳育児の確立を促す支援を説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 8. 産褥期に必要なフィジカルアセスメントとケアについて、模型を使って安全に実施できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 9. 産褥期に必要な保健指導について指導案と媒体を作成し、ロールプレイで保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題に応じた資料作成と発表内容 (30%) (目標1.2.3.5.6.7.8.9に対応) 2. 課題に対する討議内容と参加度 (30%) (目標1.2.3.5.6.7.8.9に対応) 3. 演習成果物 (40%) (目標9に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: 出生直後の新生児のフィジカルアセスメントとケア (原田) 第2回: 新生児のフィジカルアセスメントとケア (原田) 第3回: 産褥期のフィジカルアセスメントとケア① (原田) 第4回: 産褥期のフィジカルアセスメントとケア② (原田) 第5回: 産褥期の保健指導 ① (同室指導) (原田) 第6回: 産褥期の保健指導 ② (退院指導, 育児指導) (原田)			

2026 医学系研究科

第7回：産褥期の保健指導 ③（沐浴）（原田）

第8回：産褥期の保健指導 ④（母乳育児支援）（原田）

【授業及び学修の方法】

第1～4回は教員の講義、演習を中心にすすめる。

第5～8回は事前に指導案と媒体を作成し、保健指導のロールプレイを行う。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ、助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅱ周産期ハイリスクケアの新生児期に該当する箇所および助産診断学Ⅲを復習して授業の準備をしておくこと（2時間×7.5回）。授業後は資料、教科書、参考書をもとに復習し知識の定着を図ること（1時間×8回）、第5～8回は事前に指導案を立案し、授業でロールプレイを行った後はリフレクションのためのレポートを作成する（8時間）。

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2023年 4,180円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版，医学書院，2026年 5,930円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2023年 3,850円

江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2025年 4,070円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2025年 5,280円

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円

細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円

木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2025年，3,700円

日本小児医療保健協議会（四者協）栄養委員会：母乳育児ハンドブック、東京医学社、2022年 4,180円

【参考書】

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児支援スタンダード 第2版，医学書院，2015年 4,840円

仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー

水曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

助産学実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる科目です。主体的に取り組み、確実に知識と技術を定着しましょう。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE 授業科目名 (講義コード: M664503-2) 実践助産学演習 Practical Midwifery Exercise	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり・真砂 友理	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ, 助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅲ		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、助産学特論Ⅰ・Ⅱ、基礎助産学Ⅰ～Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ、助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅲ、周産期ハイリスクケア、助産学実習Ⅰ・Ⅱでの学修をもとに、女性の健康の保持・増進のために、リプロダクティブヘルス・ライツの視点をふまえ、対象の特性や主体性・個別性を尊重した個人または集団への健康教育に関する諸技法への理解を深め、実践してもらう。またOSCEを通して、助産診断の統合や助産技術の習得状況を評価し、自己の課題を明確にして、周産期における正常経過と正常からの逸脱、異常の予測、状況に応じて臨機応変に対応できる助産実践能力を強化する。			
授業の目的 対象のライフサイクルに合わせた保健指導と助産診断・技術の計画、実践、評価を実際に行い、保健指導力を身につけます。OSCE実施により、妊産褥婦新生児のアセスメント、助産診断と展開、フィジカルアセスメントや臨床推論、助産技術などの臨床実践能力について、卒業前の自己の能力と課題を明確にします。地域における保健指導や臨床での実践能力など、助産師として包括的な実践力を身につけます。			
到達目標 1. 保健指導を行う対象のライフサイクルの特徴、発達、ニーズについて説明できる。 (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 保健指導を行う対象のニーズを把握し、ライフサイクル、背景に合わせた指導案を立案、指導の実践を行うことができる。 (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 個別指導、集団指導、健康相談における、アセスメントの視点と保健指導の技術について、教員、臨地指導者、関係者と検討し、計画を進めることができる。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 妊産褥婦新生児のフィジカルアセスメント、助産計画、技術がOSCEにて実施できる。 (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 保健指導の実践 50% (レポート10%, 計画20%, 実践20%) 2. OSCE 50%			
成績評価の基準 【成績評価の基準】 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回: 保健指導の方法、展開について、OSCEについて (オリエンテーション) 第2回: 保健指導内容の検討① (内容の精査、指導案作成) 第3回: 保健指導内容の検討② (計画立案) 第4回: 保健指導の実践① 第5回: 保健指導の実践② 第6回: OSCE 知識・技術確認 第7回: OSCE① 第8回: OSCE② 【授業および学修の方法】 第1回は授業の進め方について教員より説明を行う。第2, 3回は保健指導の実践に向けて関係機関とも相談しながら検討、準備を行う。第4, 5回で保健指導の実践を学内または学外にて行う。第6～8回では、助産診断・技術学に関連するOSCEを行う。試験の後には振り返り、ディスカッションを行い、各自の能力、課題を明確にす			

2026 医学系研究科

る。授業は一部オンラインで実施する場合がある。

【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】

準備学習（各回2時間×8回）：教科書や文献、これまでの講義資料等を用いて必要箇所を調べ、検討する。媒体作成、発表練習、技術練習を行う。

事後学習（各回2時間×8回）：講義資料、教科書、参考書、自身で調べた文献をもとに自己の課題についてまとめておく。

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子・毛利多恵子：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2024年，3,520円

【参考書】

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2025年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2025年 3,520円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2025年版 II 実践編，日本看護協会出版会，2025年 4,290

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2025年版 III アドバンス編，日本看護協会出版会，2025年 3,850円

他、講義時に適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00または各講義終了後

看護学科教育研究棟 4階415研究室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学んできた知識、技術を統合する科目になります。卒業前に自らの到達目標を振り返り、将来につなげていきましょう。

教員の実務経験との関連

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児診療および相談、ケアの実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-LE 授業科目名 (講義コード:M674003-1) 地域母子保健学特論 Maternal and Child Health in Community	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 川本 美香・芳我 ちより・原田 さゆり	関連授業科目 地域母子保健学実習		
	履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 本科目では、母子や家族を取り巻く環境における健康問題や課題への取り組み状況と、地域における助産師の果たす役割と実際について教授する。また地域母子保健行政および国際母子保健活動の実際を教授する。			
授業の目的 母子保健政策、社会資源、関係機関およびその連携を理解する。地域社会における助産師の役割と実践について学ぶ。			
到達目標			
1. 母子保健活動の意義と実際について理解する (DPの「専門知識・理解」に対応) 2. わが国における母子保健行政の仕組みや制度を説明できる。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 国際母子保健の現状と課題について理解する。 (DPの「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法			
1. 講義への参加度、演習の取り組み (40%) 2. プレゼンテーション (40%) 2. 講義レポート (20%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 母子保健の現状と動向 (芳我 ちより・川本 美香)			
第2回 母子保健行政・地域母子保健活動の意義 (芳我 ちより・川本 美香)			
第3回 母子保健制度と関係法規 (芳我 ちより・川本 美香)			
第4回 地域母子保健活動の展開① 乳幼児健診における児童虐待対応事例 (芳我 ちより・川本 美香)			
第5回 地域母子保健活動の展開② 演習 (芳我 ちより・川本 美香)			
第6回 学童期からのプレコンセプション・ケアにつながる性教育の可能性 (芳我 ちより・川本 美香)			
第7回 高松市における保健医療福祉行政の現状と取り組み (高松保健センター 保健師)			
第8回 遠隔モバイルCTGを用いた妊婦管理 (原 量宏)			
第9回 諸外国の母子保健、在日外国人の母子保健 (野原 留美)			
第10回 育児をとりまく環境と助産師の役割 (野原 留美)			
第11回 地域における助産師活動 (野原 留美)			
第12回 助産所の開業 グループワーク (野原 留美)			
第13回 助産所の運営 グループワーク (野原 留美)			
第14回 グループワーク発表① (野原 留美・原田 さゆり)			
第15回 グループワーク発表② (野原 留美・原田 さゆり)			
【授業および学修の方法】			
講義を中心に進める。第5回・15回はそれまでの授業内容をふまえて演習を行う。 第12～15回はグループワークとその発表を行い、理解を促す。授業は一部オンラインで実施する場合がある。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
準備学習：各授業内容の教科書の該当箇所を通読する (各回2時間)			
事後学習：講義資料、教科書、参考書、自身で調べた文献をもとに、各回の授業内容について要点をまとめる (各回2時間)			

2026 医学系研究科

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版，医学書院，2025年，3,850円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024，日本助産師会出版，2025年，2,200円

【参考書】

(公社)日本助産師会：助産所開業マニュアル2021ー開設・管理・運営ー，2021年，3,300円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2025年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2025，3,520円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟4階415号室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は助産師または保健師の資格を有し，病院，診療所，地域等，多様な場所での臨床経験を持ちます．妊産褥婦および新生児ケアの実務経験をもとに講義を行います．

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード：M664401-1) 助産管理学特論 Midwifery Management	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 原田 さゆり・佐々塚 恵美	関連授業科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 看護管理学		
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
授業の概要 本科目では、病院や助産所における助産業務範囲と助産管理について教授し、助産業務を管理する基本的な能力と助産所の運営のあり方、周産期医療システムと関連する法律や政策についての理解を促す。また、病院や助産所における医療事故への対応や平時からの災害への備えと被災時の対応をするための基礎的なリスクマネジメントについて教授する。			
授業の目的 助産業務管理の基礎的知識と原理・方法について学び、母子の安全と快適な助産ケアを提供するための助産業務管理における課題と課題解決方法について理解する。			
到達目標			
1. 助産業務管理の基礎的知識と原理および方法について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 助産師の法的責任と関係法規を学び、専門職としての役割を理解する。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 産科病棟と外来、および院内助産における管理の実際について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 災害時の助産管理について学ぶ。 (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法			
1. グループ討議・態度 (80%) 2. レポート (20%)			
成績評価の基準			
成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 助産業務の概念と助産管理の概念 (原田)			
第2回 周産期におけるリスクマネジメント (香川大学医学部附属病院 看護副師長 大内亜弓)			
第3回 外来・助産師外来における助産管理 (香川大学医学部附属病院 看護師長 榎野久美子)			
第4回 MFICU管理と地域連携 (香川大学医学部附属病院 看護副師長 佐々塚 恵美)			
第5回 ペリネイタルロスとケア (香川大学医学部附属病院 助産師 神内 深雪)			
第6回 助産所開業について (ぼっこ助産院 理事長 松尾 真理)			
第7回 助産所における妊産婦管理の実際 (松尾)			
第8回 助産所と周産期医療システム・地域での役割 (松尾)			
第9回 助産業務の質と安全の保障 (原田)			
第10回 周産期における災害対策 (原田)			
第11回 助産師および助産業務に関わる法と責任 (原田)			
第12回 政策立案に関する原理 (原田)			
第13回 政策立案の実際：医療政策の探索・検討 (原田)			
第14回 政策立案の実際：医療政策立案 (原田)			
第15回 助産政策の立案 ディスカッション (原田)			
【授業および学修の方法】			
授業は講義とグループワークを中心にすすめる。授業は一部オンラインで行う場合がある。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】			
準備学習：各回の授業内容に関する教科書の該当箇所を通読する (各回2時間)			

2026 医学系研究科

事後学習：講義資料，教科書，文献から，各回の講義内容について要点をまとめる（各回2時間）

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2025年 3,520円

成田伸編：助産師基礎教育テキスト第3巻2026年版 助産サービス管理，日本看護協会出版会，2025年 4,070円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024，日本助産師会出版，2025年 2,200円

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会，2023年，8,000円

【参考書】

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 I 基礎編，日本看護協会出版会，2026年 3,200円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 II 実践編，日本看護協会出版会，2026年 3,900円

福井トシ子編：新訂助産師業務要覧 第4版 2026年版 III アドバンス編，日本看護協会出版会，2026年 3,900円

オフィスアワー

月曜日12:00～13:00 看護学科教育研究棟4階415号室（原田）

または各回の授業終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員の実務経験との関連

教員は助産師または医師の資格を有し，病院，診療所，地域等，多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児の診療やケアの実務経験をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px 授業科目名 (講義コード:M664501-1) 助産学実習 I Midwifery Clinical Practicum I	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 8	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学実習 II		
	履修推奨科目 基礎助産学 I～III, 周産期ハイリスクケア 助産診断技術学 I～III, 助産診断技術学演習 I～III		
学習時間 実習45時間×1週+自学自習(準備学習7.5時間+事後学習7.5時間)			
授業の概要 本科目では、周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく知識を応用し、助産過程の展開を通して助産ケアの実践を教授する。分娩介助10例程度の実践や、褥婦と新生児のケアの展開、産前産後、乳児期の健康診査、助産師外来の見学を通して、正常からの逸脱の診断、逸脱予防のケアの実践について理解を深める。総合周産期母子医療センターにおいて、MFICU, NICU, GCUでのハイリスク対象者のアセスメントとケアの実践、周産期カンファレンスの見学、ハイリスク妊婦の妊娠期から育児期にかけての継続受持ちを通して、ハイリスク妊産褥婦と新生児およびその家族へのケアと多職種連携について教授する。また病院における安全管理や助産管理の実践を教授する。			
授業の目的 既習の知識および技術を実践場面で統合し、マタニティケア能力の育成を目指します。安全で安楽な分娩介助が実践できるよう、基礎的能力を身につけます。産婦・褥婦および新生児への助産ケアでは、個別性と優先順位を考慮した助産過程を展開します。妊娠期から産褥期、産後2週間および1か月、乳児期の健康診査と保健指導を実施するための基礎的能力を身につけます。 病院における安全管理や助産管理の実践を理解し、助産師の役割と責務について考察します。さらに総合周産期母子医療センターにおける多職種連携についても学びます。 また、主体			
到達目標 1. 妊婦健診に必要な助産技術が実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 妊娠期の助産診断にもとづき、正常からの逸脱の判断と、正常性の維持に必要な助産ケアについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 産科外来と助産師外来での助産師の役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 妊娠期に必要な個別指導と集団保健指導の運営について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 5. 分娩経過に応じた助産診断と助産計画を立案し、適切な方法で助産ケアを実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 6. 安全で、産婦とその家族にとって肯定的な出産体験となるような分娩介助ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 新生児係の実施において、出生直後の新生児の胎外生活適応を促すケアが実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 8. 帝王切開見学を通して、産婦への助産ケアと新生児係としての助産師の役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 9. 産褥期の助産診断にもとづき、褥婦に必要な助産ケアと保健指導を実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 10. 母乳育児支援における基礎的な助産ケアが実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 11. 新生児期の助産診断にもとづき、新生児に必要な観察とケアを実施できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 12. 産後2週間健診および1か月健診、乳児健診での助産診断と助産ケアおよび必要な保健指導について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 13. ハイリスク妊産褥婦や胎児・新生児の身体的・心理社会的状況に応じた必要な助産ケアを説明することができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 14. 母子分離状態にある児と家族を中心としたケア (Family-Centered Care) について学び、家族のエンパワメントも含めた包括的かつ継続的なケアプロセスについて説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 15. ハイリスク妊産褥婦や胎児・新生児の管理の実践を理解し、助産師の役割や責務について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 16. 病院における助産業務や助産管理の実践を学び、医療や母子保健サービスの中での助産師の責務や役割について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 17. 周産期における安全管理について説明できる			

- (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)
18. 周産期における地域連携について説明できる
(DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)
19. 周産期における多職種連携について説明できる
(DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)
20. 妊産褥婦やその家族との間に医療者として適切な関係性を築くことができる
(DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)
21. チームの一員として責任ある行動がとれる
(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)
22. リフレクションを通して、実習における自己の課題を明確にし、課題の達成に取り組むことができる
(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)
23. 自己の助産観を構築でき、助産観に基づいたケアの実施ができる
(DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)

成績評価の方法

成績評価の方法

1. 実習への取組み（自己評価，他者評価含む）（80%）
（到達目標1～23に対応）
2. 実習記録（20%）
（到達目標1～23に対応）

成績評価の基準

成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。

秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。

優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。

良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。

可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。

不可（60点未満）到達目標を達成していない。

ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。

合格又は了 到達目標を達成している。

不合格 到達目標を達成していない。

授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス

【授業計画】

1. オリエンテーション 実習方法，学習計画，注意事項等
2. 具体的実習内容
 - 1) 分娩見学
指導助産師とともに分娩第1期から分娩第4期までの助産ケアを行い，分娩介助のみ見学する。
 - 2) 妊婦健康診査
妊婦1例を受け持ち，受付から外来終了までの診察の流れとケアを見学する。
ローリスク・ハイリスク妊婦の健康診査を指導者とともに実施する。
 - 3) 助産師外来
助産師外来における妊婦健康診査を実習指導者と共に実施する。助産師の個別指導を見学する。
 - 4) 保健指導
両親学級の運営を見学する。
妊娠期の個別指導および産後の集団指導（育児指導・産褥指導）を見学する。
 - 5) 分娩介助
産婦の分娩介助を行う。実習指導者の指導のもと，直接介助と新生児係に分かれて実施する。
分娩の直接介助は10例程度とする。
 - 6) 帝王切開
実習指導者と共に術当日のケアを実施する。
児受け係の実習指導者に付き添い，新生児ケアを見学する。
 - 7) 産後および乳児健康診査
産後2週間・1か月および乳産健診を見学する。
 - 8) MFICU，NICU・GCUでの見学および妊婦・児の受持ち，ハイリスク妊産褥婦および胎児・新生児に必要な治療やケアについて学ぶ。
総合周産期母子医療センターにおける地域連携・多職種連携について学ぶ。総合周産期母子医療センターの役割について学ぶ。
周産期カンファレンスに参加し，周産期における地域連携と多職種連携について自主的に学ぶ。
 - 9) ハイリスク継続事例
1例のハイリスク妊婦を妊婦後期から産後1か月まで受持ち，指導助産師とともに個別性をふまえた助産過程を展開する。
 - 10) 乳幼児健診（フォローアップ外来）見学実習
NICU/GCUを退院された児と母親・父親の長期にわたるフォローを行う医師の診察を見学し，継続的，個別的な支援を学ぶ。

2026 医学系研究科

11) 病院の安全管理・助産管理
産科病棟の管理, 医療事故とリスクマネジメントについて自主的に学ぶ.

12) 地域連携
周産期医療における地域連携について自主的に学ぶ.

3. カンファレンス

グループカンファレンスを実施して学びを共有し, 自己の目標到達度と課題を明確にする.

【授業および学修の方法】

隣接する医学部附属病院の周産期科女性診療科病棟・外来, および助産師外来, 総合周産期母子医療センター (MFICU, NICU・GCU) 等で実習する.

分娩介助実習は夜間帯も行う.

【自学自習へのアドバイス】

実習前には, 分娩期・妊娠期・産褥期・新生児期の助産過程を展開するにあたり必要な知識をまとめておくこと (4時間). 妊娠期に必要な保健指導について復習しておくこと (4時間). 産後に必要な保健指導について復習しておくこと (4時間). 妊娠期・産褥期に必要な助産技術について練習しておくこと (6時間). 分娩介助技術については手順書は暗記し繰り返し練習しておくこと (7時間), 新生児係の手順書は暗記し繰り返し練習しておくこと (5時間).

実習後は, 毎日規定の実習記録用紙を記載し, 不足していた知識と技術があるときは主体的に必要な学修と技術練習を行う (25時間). 分娩介助1例実施ごとに分娩介助評価表を用いて指導者と教員とで振り返りを行う. 自己の課題を明確にし, 次回の分娩介助に向けての学修と分娩介助技術の練習を行うこと (5時間)

教科書・参考書等

【教科書】

*すべて基礎助産学Ⅰ～Ⅲ, 周産期ハイリスクケア, 助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産診断技術学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用した教科書です.

日本助産診断実践学会編: マタニティ診断ガイドブック 第6版, 医学書院, 2020年 2,970円

我部山キヨ子他編: 助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版, 医学書院, 2023年 4,840円

我部山キヨ子他編: 助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版, 医学書院, 2023年 4,180円

堀内成子他編: 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版, 医学書院, 2023年 5,500円

我部山キヨ子他編: 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版, 医学書院, 2023年 5,280円

我部山キヨ子他編: 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第6版, 医学書院, 2023年 3,960円

石井邦子他編: 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版, 医学書院, 2023年 3,850円

森恵美編: 助産師基礎教育テキスト2025年版 第4巻 妊娠期の診断とケア, 日本看護協会出版会, 2025年 4,070円

江藤宏美編: 助産師基礎教育テキスト2025年版 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会, 2025年 4,070円

小林康江編: 助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア, 日本看護協会出版会, 2025年 5,280円

木村好秀他著: 家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版, 医学書院, 2017年 3,300円

日本助産師会編: 助産業務ガイドライン2024, 日本助産師会出版, 2025年 2,200円

日本産科婦人科学会編: 産婦人科診療ガイドライン産科編2023, 日本産科婦人科学会, 2023年 8,000円

我部山キヨ子他編: 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版, 医学書院, 2018年 3,960円

平澤美恵子他監修: 新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス, インターメディカ, 2025年 3,700円

日本小児医療保健協議会 (四者協) 栄養委員会: 母乳育児ハンドブック, 東京医学社, 2022年 4,180円

【参考書】

NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編: 母乳育児支援スタンダード 第2版, 医学書院, 2015年 4,840円

仁志田博司編: 新生児学入門 第5版, 医学書院, 2018年 6,380円

北川真理子他編: 今日の助産 改訂第4版, 南山堂, 2019年 9,680円

オフィスアワー

水曜日12:00~13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室 (原田)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については, 実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること.

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し, 病院, 診療所, 地域等, 多様な場所での臨床経験を持ちます. 妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに授業を展開します.

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px 授業科目名 (講義コード:M664502-1) 助産学実習Ⅱ Midwifery Clinical Practicum Ⅱ	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 助産学実習Ⅰ		
	履修推奨科目 基礎助産学Ⅰ～Ⅲ, 周産期ハイリスクケア 助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ, 助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅲ, 助産学実習Ⅰ		
学習時間 実習45時間×2週+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本科目は、妊娠期から生後4か月までの母子の継続受持ちを通して、母子とその家族の健康の保持増進と成長発達および家族の発達を促すための継続的ケアの実践力を養う。助産実践に必要な基本的な理論・知識と技術、助産師としての態度を修得できるよう教授する。助産所における助産管理や助産所運営の実際を学び、助産所における自律した助産師のケアと、嘱託医療機関をはじめ他機関多職種との連携のあり方を考察してもらう。			
授業の目的 助産学実習Ⅰでの学びをふまえ、既習の理論・知識および技術を実践場面で統合し、さらなるマタニティケア能力の育成を目指します。具体的には、妊娠中期から産後4か月までの1組の母子を継続して受持ち、学生主体で助産ケアを行うことで、妊娠期から育児期にかけての助産実践力を身につけます。また、有床助産所における安全管理や助産管理の実際を理解し、助産師の役割と責務について考察します。助産所における自律した助産師のケアを学び、助産師としてのアイデンティティを構築していきます。			
到達目標 1. 母子とその家族のおかれた状況を適切に診断し、科学的根拠に基づいた助産ケアを選択できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 2. 母子とその家族に必要な助産ケアを適切に実施しながら、助産過程の展開ができる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 助産師による継続ケアの意義と重要性を説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 母子とその家族にとって、安全で安楽なケアを提供するための他機関・他職種との連携について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 地域における助産師活動について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 有床助産師の管理と運営について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 母子とその家族との間に医療者として適切な関係性を築くことができる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 8. 自己の助産観を構築でき、助産観に基づいたケアの実施ができる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 実習への取組み(自己評価、他者評価含む)(80%) (目標1.～8.に対応) 2. 実習記録・レポート(20%) (目標1.～8.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等 2. 実習内容 1) 継続受持ち 妊婦中期より妊婦を受け持ち、妊婦健康診査と保健指導を実習指導者の見守りのもと実施する。 分娩時は直接介助を行い、退院まで受け持ち、個別性にあわせた助産過程の展開を行う。			

2026 医学系研究科

退院後は、家庭訪問、2週間健診、1か月健診の実施、家庭生活への移行のアセスメントと個別指導を行う。嘱託医療機関での妊婦健診や、受持ち妊婦が嘱託医療機関に搬送になった場合も引き続き受持ち実習を行う。

2) 保健指導

助産診断をもとに指導案を立案し、実施する。

3) 助産所における安全管理

有床助産所における安全管理、助産所の運営、管理、経営、助産所に関する法律について自主的に学ぶ。

4) 地域での助産師活動

助産所や地域での様々な助産活動に参画し、地域での助産師の役割を理解する。

おやこひろばに参加し、乳幼児（4カ月程度）の親と助産師との関係性の構築、地域母子保健活動を学ぶ

4) カンファレンス

【授業および学修の方法】

ぼっこ助産院、香川大学医学部附属病院で実習を行う。

分娩介助実習は夜間帯も行う。

【自学自習へのアドバイス】

実習前には、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の助産過程を展開するにあたり、助産学実習Ⅰで学んだ知識と技術をまとめておくこと（3時間）。毎回の継続事例の妊婦健診前には必要な保健指導を考え指導案と媒体を作成し実習指導者の助言をうけて実習にのぞむこと（12時間）。

実習後は、毎日規定の実習記録用紙を記載し、不足していた知識と技術があるときは主体的に必要な学修と技術練習を行う（10時間）。実習後は毎回指導者との振り返りを行って自己の課題を明確にし、次回の実習に向けての学修を行うこと（5時間）。

教科書・参考書等

【教科書】

*基礎助産学Ⅰ～Ⅲ，周産期ハイリスクケア，助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ，助産診断技術学演習Ⅰ～Ⅲ，助産学実習Ⅰで使用した教科書と同じです。

日本助産診断実践学会編：マタニティ診断ガイドブック 第6版，医学書院，2020年 2,970円

我部山キヨ子他編：助産学講座2 基礎助産学[2] 母子の基礎科学 第6版，医学書院，2025年 4,840円

我部山キヨ子他編：助産学講座3 基礎助産学[3] 母子の健康科学 第5版，医学書院，2025年 4,180円

堀内成子他編：助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 第7版，医学書院，2026年 4,400円

我部山キヨ子他編：助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版，医学書院，2025年 5,500円

我部山キヨ子他編：助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版，医学書院，2026年 5,390円

石井邦子他編：助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版，医学書院，2025年 3,960円

森恵美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第4巻 妊娠期の診断とケア，日本看護協会出版会，2025年 4,070円

佐々木くみ子編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第5巻 分娩期の診断とケア，日本看護協会出版会 4,400円

江藤宏美編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア，日本看護協会出版会，2025年 4,070円

小林康江編：助産師基礎教育テキスト2025年版 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア，日本看護協会出版会，2025年 5,280円

中井章人著：図説CTGテキスト，メジカルビュー社，2016年 3,850円

細野茂春監修：日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づくNCPR新生児蘇生法テキスト 第4版，メジカルビュー社，2021年 4,400円

木村好秀他著：家族計画指導の実際—少子社会における家族形成への支援— 第2版増補版，医学書院，2017年 3,300円

日本助産師会編：助産業務ガイドライン2024，日本助産師会出版，2025年 2,200円

日本産科婦人科学会編：産婦人科診療ガイドライン産科編2023，日本産科婦人科学会，2023年 8,000円

我部山キヨ子他編：助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版，医学書院，2018年 3,960円

日本小児医療保健協議会（四者協）栄養委員会：母乳育児ハンドブック、東京医学社、2022年、4,180円

【参考書】

北川真理子他編：今日の助産 改訂第4版，南山堂，2019年 9,680円

平澤美恵子他監修：新訂版 写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2025年 3,520円

仁志田博司編：新生児学入門 第5版，医学書院，2018年 6,380円

オフィスアワー

水曜日12:00～13:00

看護学科教育研究棟 4階415研究室（原田）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については、実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

指導者や教員が危険と判断した行為があれば分娩介助を中止する。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに授業を展開します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M3NRS-ABCM-40-Px 授業科目名 (講義コード:M664504-1) 地域母子保健学実習 Maternal and Child Health Practicum	科目区分 専門科目 (助産)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M3・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 1	
担当教員名 原田 さゆり	関連授業科目 地域母子保健学特論 助産管理学特論 履修推奨科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ		
学習時間 実習45時間×1週+自学自習(準備学習7.5時間+事後学習7.5時間)			
授業の概要 本科目は、地域における母子保健行政と母子と家族を取り巻く健康問題への取り組みの実際について、母子の地域包括ケアの視点から総合的にとらえ、地域における助産師の役割と多職種連携について教授します。			
授業の目的 高松市内の保健センターで行われている母子保健事業に参加し、各事業の目的や法的根拠について学びます。また、個人や集団に対する健康相談・保健指導などに参加・見学し、指導技術を学びます。保健師業務の実際や保健センターの機能と役割について理解し、助産師が行う地域連携について考察します。			
到達目標 1. 母子保健制度や母子保健施策について理解し、母子保健の現状と課題、今後の展望について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 多様なニーズに対応した母子保健活動の実際から、子育て世代への包括的支援と保健・医療・福祉の連携・協働について説明できる (DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 乳幼児の発達特性に応じた健康診査の意義と内容を説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 個別指導、集団指導、健康相談における、アセスメントの視点と保健指導の技術について説明できる (DPの「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 1. 実習への取組み(自己評価、他者評価含む)(50%) (到達目標1.~4.に対応) 2. 実習記録・レポート(50%) (到達目標1.~4.に対応)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等 2. 具体的実習内容 1) 各種実施されている母子保健事業について、積極的に参加する。 妊娠期：妊娠届・母子健康手帳交付、妊婦訪問指導、パパママ教室、多胎児教室 出産後：こんにちは赤ちゃん事業、未熟児訪問指導、産後ケア事業 0-1歳児：4か月児相談・乳児相談・離乳食教室・多胎児教室 1歳以後：1歳6か月児健康診査・乳児歯科健康診査、3歳児健康診査 幼児の専門的な相談：ことばの遅れ・精神面の発達・保護者の不安 親子の健康相談 2) 母子保健事業以外の事業に積極的に参加する。 乳幼児の予防接種事業・乳がんの集団検診事業、等 3) 保健師の業務と保健センターの役割と機能、および地域連携と地域包括ケアシステムについて学ぶ 3. カンファレンス 実習終了前にグループカンファレンスを実施して学びを共有し、到達度の確認、自己の課題を明確にする。 【授業および学修の方法】 高松市保健センターにおいて実習し、母子保健事業および集団指導・個別指導への主体的な参加ですすめる。 【自学自習へのアドバイス】			

2026 医学系研究科

実習開始前に、高松市の妊娠・出産・子育てに関する事業について調べ、冊子にしてまとめる（7.5時間）
日々の実習後は、実習記録を記載し、不足する知識がある場合は学修する（3時間）。実習終了時には「実習の手引き」に記載されたテーマでレポートをまとめる（4.5時間）。

教科書・参考書等

【教科書】

我部山キヨ子他編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版，医学書院，2025年 3,850円

我部山キヨ子他編：助産学講座10 助産管理 第6版，医学書院，2025年 3,520円

オフィスアワー

金曜日16：00～17：00

実習中は、日々のカンファレンスにて相談を受け付ける

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の詳細については、実習オリエンテーション時に配布される実習要項と実習の手引きを参照すること。

教員の実務経験との関連

教員は助産師の資格を有し、病院、診療所、地域等、多様な場所での臨床経験を持ちます。妊産褥婦および新生児の実務経験をもとに授業を展開します。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-30-Lg 授業科目名 (講義コード:M675001-1) 公衆衛生看護学特論Ⅰ (概論) Advanced to Public Health Nursing I	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 公衆衛生看護学特論Ⅱ・Ⅲ 履修推奨科目 地域看護学特論		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 地域において健康に生きる, すなわち健康的な生活を送ることを支援するための概念を学ぶため, ライフステージ別に生じる健康課題の特徴および現在の公衆衛生的健康課題とそれに対する施策について, 課題学習・グループワーク等により主体的に理解する。			
授業の目的 公衆衛生看護学が対象とする健康課題をライフステージごとに理解し, 現在, 実施されている施策と活動の実際を理解し, 今後求められる地域活動を考察する。			
到達目標 1. 公衆衛生看護学の理念と原則 (人々の健康とwell-beingに向けた社会的公正, 社会的防衛など), 倫理, 歴史を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 各ライフステージにおける健康課題とそれに対する施策の内容を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 各健康課題に対する事例検討を通して保健師の役割を説明することができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 4. 今後必要となる活動について考察し, また自己の学習課題について明確にすることができる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 公衆衛生看護とは (定義, 「健康」の考え方, 公衆衛生看護の基本理念) (芳我) 第2回 公衆衛生看護の歴史 (芳我) 第3回 公衆衛生看護の対象と場 (芳我) 第4回 予防の概念と方法 (芳我) 第5回 人口構造・社会構造・疾病構造の変化と健康課題 (芳我) 第6回 健康格差と健康の社会的決定要因1 (講義) (芳我) 第7回 健康格差と健康の社会的決定要因2 (プレゼン) (芳我・川本) 第8回 環境の変化と健康課題 (川本) 第9回 公衆衛生看護活動の展開1 (川本) 第10回 公衆衛生看護活動の展開2 (川本) 第11回 公衆衛生看護活動に活用できる理論・モデル (川本) 第12回 地域包括ケアシステムと公衆衛生看護活動1 (介護予防) (川本) 第13回 地域包括ケアシステムと公衆衛生看護活動2 (感染症対応) (川本) 第14回 国際保健 (プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション活動の実践例) (川本)			

2026 医学系研究科

第15回 まとめ（芳我・川本）

第16回 最終試験（芳我・川本）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義を中心としながら、適宜、まとめの課題を提示し、発表と討議にて理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～4回 身の回りにある公衆衛生上の気になるニュース，時事情報などについて取り上げ，その背景にある社会的状況，研究により産出された知見などを調べまとめる。（5時間×4回）

第5～7回 喫緊の健康課題を1つ取り上げ，その社会的関連因子を調べ関連図を作成し，プレゼンの準備をする。（9時間×3回+プレゼン確認・修正1時間）

第8～15回 授業中の課題についてまとめ，筆記試験の準備をする。（4時間×7回+まとめ発表準備2時間）

教科書・参考書等

村嶋幸代・岸恵美子 編 保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メヂカルフレンド社，最新版，3410円

オフィスアワー

講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については，院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

教員は保健師の資格を有し，自治体保健師としての実務経験を持ちます。また，実際の実務経験だけでなく，研修会や学術集会などで見聞した最新の情報をもとに講義を行います。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M675002-1) 公衆衛生看護学特論Ⅱ (技術論) Advanced to Public Health NursingⅡ	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川本 美香・芳我 ちより	関連授業科目 公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅲ		
	履修推奨科目 公衆衛生看護管理理論, 地域看護学特論		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 公衆衛生看護の対象は、地域社会における最小単位としての個人、家族と小地域、地域組織など様々なレベルである。個人や家族、集団への対人支援を行うにあたり保健師の技術である家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援など看護展開の基本的な実践技術を学び、対象や対象集団に応じた支援の方法を選択できるようになることを目指す。			
授業の目的 家庭や地域社会の生活の場において提供する看護技術の方法を理解し、提供の場に応じた支援技術の選択ができるようになる。			
到達目標 1. 人々の健康行動の特性及び効果的な介入方法と技術、集団における教育方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 支援技術の実践に必要な解剖・生理・病態学、乳幼児の発育・発達、フィジカルアセスメントの知識をもとに、支援の場に応じた理論やモデルを用いた支援内容を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 乳幼児健診や健康相談事例、家庭訪問事例を通し、支援を求めない人々、制度の網目から抜け落ちる人々、複雑困難な健康課題を有する人々への支援方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション、公衆衛生看護支援技術の特性 (芳我) 第2回 保健指導の目的と技術の特色、保健指導における役割と対象の選定 (川本) 第3回 保健師が行う家庭訪問とは何か、関心を向けるべき対象とニーズ把握の方法 (川本) 第4回 家庭訪問の目的と対象選択、家庭訪問の技術と家庭訪問の進め方 (川本) 第5回 事例を用いた家庭訪問計画の作成と評価 (芳我) 第6回 家庭訪問計画の発表 (芳我・川本) 第7回 健康相談の概念と健康相談の進め方 (川本) 第8回 成人保健における健康相談の方法、難病保健・感染症における健康相談、電話相談の活用方法 (川本) 第9回 事例を用いた健康相談 (事例検討) (川本) 第10回 事例検討の発表 (芳我・川本) 第11回 健康教育の目的と保健師の役割 (川本) 第12回 健康教育で用いる理論やモデル1 (川本) 第13回 健康教育で用いる理論やモデル2 (川本) 第14回 グループ支援の特徴と理論 (川本)			

2026 医学系研究科

第15回 グループ支援の技術と活用可能な理論 (川本)

第16回 最終試験, まとめ (芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義により理論を説明し、演習により技術を確認する対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～6回 自分の興味のある健康課題に対し、最近の動向、個別支援の方法を考え、保健師による保健指導に活用可能な理論・モデルについて調べまとめる。第4回では支援計画を立案し、第5回に発表する。(6時間×4回)

第7～10回 生活習慣病の事例をもとに、対象者の保健指導計画を立案し、グループにて検討したものを計画案として発表する(4時間×4回)

第10～15回 授業中の課題についてまとめ、筆記試験の準備をする。(2時間×5回)

教科書・参考書等

村嶋幸代・岸恵美子編 保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社 3,850円 2022年

オフィスアワー

講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675003-1) 公衆衛生看護学特論Ⅲ (活動論) Advanced to Public Health NursingⅢ	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川本 美香・芳我 ちより・渡邊 久美	関連授業科目 公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱ 履修推奨科目 地域看護学特論		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 地域で生活する個人・家族, 集団, 地域を対象としたライフステージ別, 健康課題別の保健活動とその特性や社会的背景, 法, 制度の歴史の変遷をふまえ, 対象の特性を理解した公衆衛生看護を実践する能力が必要である。また, 学校保健や産業保健の法的基盤および組織の特性を理解し, 児童生徒, 労働者とその家族の健康保持増進のための保健活動を地域で生活する人々の視点に立ち, その連続性をふまえて考えることができるようになることを目指す。別表1 公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 地域で生活する人々の社会経済的背景をふまえたニーズや健康問題を理解し, その特性に応じた公衆衛生看護を実践する能力を習得する。			
到達目標 1. 地域で生活する個人・家族, 集団, 地域を対象としたライフステージ別, 健康課題別の保健活動の特性と社会的背景, 法, 制度の歴史の変遷を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 地域で生活する人々の健康への支援について, 対象のライフサイクルや疾病・障害の特性した支援方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 個から集団, 地域, 集団, 地域から個の支援のつながり, 各保健事業のつながり, 多機関のつながりなど, 包括的な視野で保健活動を実践することを理解できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 学校保健・産業保健における特性に応じた保健活動の実際を学ぶとともに児童生徒, 労働者の社会経済背景をふまえたニーズや健康問題について理解することができる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 5. 学校保健・産業保健と行政の母子, 成人, 障害者保健活動等とのつながりについて地域ケアシステムをふまえた支援方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション, 母子保健活動の歴史の変遷と保健対策の現状 (芳我) 第2回 高齢者保健活動における保健師の役割と介護を要する高齢者の地域ケアシステム (川本) 第3回 成人保健の動向と歴史の変遷, 生活習慣病予防対策 (芳我) 第4回 事例を用いた特定保健指導 (川本) 第5回 事例検討の発表 (芳我・川本) 第6回 障害者保健福祉の歴史の変遷と総合的な保健対策の現状, 精神保健活動における保健師の役割 (渡邊)			

2026 医学系研究科

- 第 7回 難病対策の動向と地域サポートシステム(川本)
- 第 8回 事例を用いたサポートシステムの検討(川本)
- 第 9回 事例検討の発表(芳我・川本)
- 第10回 感染症保健活動の歴史的変遷, 感染症予防施策と保健師の役割(芳我)
- 第11回 産業保健・看護の理念と目的, 歴史的変遷, 産業保健・看護制度とシステム(川本)
- 第12回 産業保健における主な健康課題と特徴(川本)
- 第13回 学校保健の理念と目的, 歴史的変遷, 学校保健における健康課題(川本)
- 第14回 学校保健における地域連携事例を用いた地域ケアシステムの検討(川本)
- 第15回 検討内容の発表(芳我・川本)
- 第16回 最終試験, まとめ(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義においてヘルスケアシステムの概要を説明し、事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～9回 各トピックスについての保健医療福祉施策や法・規則などについて厚生労働省のHPなどから調べ情報をまとめる。(4時間×8回)

第10～15回 授業中の課題についてまとめ、発表の準備をする(5時間×4回+発表準備4時間×2回)

教科書・参考書等

岸恵美子・村島幸代編, 保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論, メヂカルフレンド社, 2022, 3960円

オフィスアワー

講義のあと1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード M2NRS-BADM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675004-1) 生活習慣病予防看護技術特論 Advanced Methodology for Public Health Nursing Practice	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BAD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・市原 多香子・川本 美香・ 西村 亜希子・宮武 伸行	関連授業科目 公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	履修推奨科目 地域看護学特論		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 成人期の生活習慣病予防として糖尿病重症化予防を題材に、現在の生活習慣病予防のための政策 (健康増進計画、データヘルス計画など) について理解し社会的背景を抑えた上で、個人の行動変容を促す保健指導・健康教育の基盤となる概念および理論の理解を深め、具体的な保健指導計画を立案し、特定健康診査の場で実地 (実習フィールド) に健康教育を実践するために準備 (演習) する。 また、本授業で準備した健康教育は、地域健康生活支援実習において実施する。 別表1個人・家族・集団・組織の支援、公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 生活習慣病の成因は多因子であり、成人期のみ焦点を当ててそれを予防することは難しいが、特定健康診査・保健指導においては、個別の健康行動改善に向けた保健指導能力が求められる。当授業は、保健師として糖尿病予備軍となる対象者の行動変容を促すコンサルテーション能力を高めることを目的とする。なお、当授業は地域健康生活支援実習と連動しており、実習地において、実際に特定健診の場で出会う対象者との面談や特定保健指導への同席を通し、保健指導・健康教育技術を修得する。			
到達目標 1. 日本および世界における糖尿病の現状と推移について述べる。 (DP「専門知識・理解」「グローバルマインド」に対応) 2. 日本における生活習慣病予防のための施策について説明する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 糖尿病の機序、予防方法、治療方法、その予後について述べる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 重症化予防のための最新の取り組みとその課題について検討できる。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 行動変容を促す理論・モデルについて説明する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 6. 保健指導対象者の健康課題について分析する。 (DP「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5、6に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 授業オリエンテーション (芳我) 健康課題としての糖尿病の世界における位置づけ 日本における対策・施策の概説 第2回 糖尿病の病態と治療指針 (宮武) 第3回 糖尿病が社会に与えるインパクト (宮武)			

2026 医学系研究科

- 第4回 糖尿病重症化予防のための看護ケア (市原)
- 第5回 糖尿病重症化予防のための基礎知識 (西村)
- 第6回 糖尿病重症化予防に向けた技術論 (西村)
- 第7回 糖尿病療養指導の実際 (西村)
- 第8回 グループワーク：事例検討① (芳我・川本)
- 第9回 グループワーク：事例検討② (芳我・川本)
- 第10回 発表・まとめ (芳我・宮武・川本)
- 第11回 保健指導の立案 (講義:芳我)
- 第12回 グループワーク：保健指導の立案① (川本)
- 第13回 グループワーク：保健指導の立案② (川本)
- 第14回 グループワーク：保健指導の立案③ (川本)
- 第15回 健康教育計画 発表・まとめ (芳我・宮武・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第1～4回 日本で課題とされる生活習慣病について、健康日本21、健康増進法などについて厚生労働省のHPおよび関連する参考図書、文献を探り授業に臨むを見て情報を調べまとめる。(4時間×4回)

第5～10回 糖尿病療養食について自身の性別・年齢にあった食事を調理・試食してみる。また運動療法として、日常生活に適用可能な動作を考えて実践してみる。(5時間×5回+発表準備4時間×3回)

第11～15回 授業で示した事例について、保健指導計画を立案し、実際に教員を対象者に見立て実施する準備をする。(1時間×5回+発表のためのグループ討議2時間)

教科書・参考書等

- ・糖尿病療養指導ガイドブック 日本糖尿病療養指導士認定機構 最新版, 3,250円 を用意しておくこと。
- ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版, 3,740円 を用意しておくこと。
- ・他の教科書・参考書等については、追って連絡する。

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

担当教員は、医師・看護師の立場から糖尿病治療および療養指導に携わった経験を有していたり、生活習慣予防対策に保健師として携わった経験を有していたりと、専門的知識・経験を有している。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BADM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675005-1) 健康生成活動特論 Salutogenesis for Public Health Practice	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BAD・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 日下 隆, 三木 崇範, 南野 哲男, 宮武 伸行	関連授業科目 公衆衛生看護学特論 I (概論), 生活習慣病予防看護 技術特講		
	履修推奨科目 地域看護学特論		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 日本のみならず, 世界の健康課題となって久しい循環器疾患等, 生活習慣病予防に取り組むため, ライフコースア プローチの概念を取り入れた胎生期から始まるヘルスプロモーション方策を検討する。そのための基盤となる知識 としての理論や, 最新の研究成果を理解し, 地域における看護職の活躍の可能性について検討する。 別表1 個人・家族・集団・組織の支援, 公衆衛生看護活動展開論			
授業の目的 生活習慣病の成因は多因子であり, 胎児期や生後早期の環境因子 (Developmental Origins of Health and Diseases; DOHaD) や社会的決定要因 (Social Determinant of Health; SDH) の影響を考慮する必要がある。一方 で, 健康の成因に着目し, 健康の保持・増進を目指す健康生成の考え方がある。当授業は疾病の原因ではなく健康を 生成する因子に着目するための理論やモデルを理解し, 最新の知見を探索することを通して一次予防の視点から生 活習慣病を予防する方			
到達目標 1. 世界における生活習慣病の位置づけ, 日本における取組の課題について説明し, 日本が寄与できる役割について 討議する。 (DP「専門知識・理解」「グローバルマインド」に対応) 2. 健康状態を表す指標とその定義について説明し, 日本における健康増進施策の現状と実際の健康データの推移に ついて検証し, 今後の活動の必要性について討議する。 (DP「専門知識・理解」「研究能力・応用力」に対応) 3. 生活習慣病の要因を理解するための理論・モデルについて説明し, その適用について討議する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 臨地における小児期からのヘルスプロモーション活動の実際について触れ, その意義, 今後の活動の展望につ いて述べる。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 現在, 実習地において実施されている保健事業において, どのような活動が可能か検討し, 適用のための活動計 画へとつなげる。 (DP「研究能力・応用力」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4、5に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は, 次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおり とする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 授業オリエンテーション 国民健康づくり運動の経緯, 健康日本21 (第二次) における施策について (芳我) 第2回 胎生期がその後の健康に与える影響について (三木) 第3回 新生児がその後の健康に与える影響について (三木)			

2026 医学系研究科

- 第4回 DOHaD学説について（三木）
- 第5回 ヒトの健康における周産期の重要性（日下）
- 第6回 ヒトの健康における新生児期の重要性（日下）
- 第7回 小児の生活習慣病（日下）
- 第8回 香川大学での取り組みを学ぶ1 小児生活習慣病予防健診を活用した医療・保健（南野）
- 第9回 香川大学での取り組みを学ぶ2 ※第4水曜日（午後2時から）の研究会議に参加
- 第10回 香川大学での取り組みを学ぶ3 ※第4水曜日（午後2時から）の研究会議に参加
- 第11回 香川大学での取り組みを学ぶ4 健やかあすなろプロジェクト（宮武・鈴木）
- 第12回 香川大学での取り組みを学ぶ5 生活習慣病予防（宮武）
- 第13回 香川大学での取り組みを学ぶ6 生活習慣病対策（宮武）
- 第14回 小児期からのヘルスプロモーション事例（演習）（芳我）
- 第15回 まとめ これからの健康課題：環境要因が与える健康への影響（芳我）

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～7回 講義のトピックに関連する参考図書，文献を探り授業に臨むを見て情報を調べまとめる。（4時間×6回）

第8～10回 外来での対象者家族との面談を通して、診断を受ける家族のニーズについて検討、まとめる。（4時間×3回）また、研究会議において発表する準備を行う1時間×3回）

第11～15回 授業で示した活動事例について、その関連する法律や制度について整理しまとめる。（5時間×4回＋発表のためのグループ討議4時間）

教科書・参考書等

- ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 最新版 を用意しておくこと。
- ・ストレス対処力SOC：健康を生成し健康に生きる力とその応用，有信堂高文社
- ・他の教科書・参考書等については，追って連絡する。

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・生活習慣病は先進国のみならず，世界的な健康課題となって久しい。個人の生活様式および健康行動の改善には，個別の保健指導や健康教育では限界がある。これまでの戦略を改革するようなイノベーションが期待されている。香川大学医学部教員の現在進行形の取り組みから，今後の保健政策・活動の在り方について考える。

教員の実務経験との関連

担当教員は、それぞれのトピックに関し、専門職としての実践経験を有する。

ナンバリングコード M2NRS-CABM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675006-1) 公衆衛生看護管理特論 Management for Practice in Public Health	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 CAB・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 公衆衛生看護管理演習 履修推奨科目 看護管理学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地域の特性や、そこで生活する人々(住民)の健康・生活のニーズをとらえ、その人らしい暮らしを実現するため、住民主体としたあらゆる関係者と協働できるつながりやシステムをつくる保健師のマネジメント活動の基本となる知識・技術を学ぶ。公衆衛生看護管理特論では知識を、公衆衛生看護管理演習では実際の事例を通し、個別の支援から地域のシステムづくり、政策提言に向けた演習を行う。 別表1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 地域で生活する人々や関係者がそれぞれのもつ力を発揮し、誰もが暮らしやすい地域の実現に向け、保健活動をマネジメントできるよう、公衆衛生看護管理の目的、構造、機能、専門的自律と人材育成について基本的な知識を修得する。			
到達目標 1. 公衆衛生看護管理の目的について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 地区を担当する保健師として初任期から担う実務的管理機能および職位に付属する管理機能をキャリアラダーとともに具体的に説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 公衆衛生看護管理を構成する6つの管理について列挙し、それぞれについて説明できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 専門職として生涯にわたり自己啓発可能な専門的自律と人材育成の重要性について言及し、自らのキャリアディベロップメントについて計画できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 筆記試験60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、4に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 保健師のもつ責務とは、公衆衛生看護管理を学ぶ目的について(芳我) 第2回 自身のキャリアディベロップメントについて考える(芳我) 第3回 保健師として成長すること(キャリアラダー)(芳我) 第4回 6つの管理について:事例管理(芳我) 第5回 6つの管理について:業務管理(芳我) 第6回 6つの管理について:予算管理の基本(芳我) 第7回 6つの管理について:情報管理の基本(芳我) 第8回 6つの管理について:人事管理(芳我) 第9回 6つの管理について:組織運営・管理の基本(芳我)			

2026 医学系研究科

- 第10回 ON-JTとOFF-JT(芳我)
- 第11回 研究活動と学会, 看護協会の役目(芳我)
- 第12回 キャリアディベロップメント演習①(芳我・川本)
- 第13回 キャリアディベロップメント演習②(芳我・川本)
- 第14回 学びの発表(芳我・川本)
- 第15回 まとめ(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～3回 自身のキャリアディベロップメントについて想像してみる。また就業後の将来像を考えてレポートにまとめる。(3時間×3回)
- 第4～9回 部活動や委員会活動など身近な組織運営について経験したこと, 調べたことをまとめる。(4時間×6回)
- 第10～11回 自身が参加してみたい学会活動を調べ、その概要をまとめるとともに、各自のキャリアディベロップメントにどのように役立つか考察する。(4時間×2回)
- 第12～15回 管理職の実践内容について、授業中の課題についてまとめ、発表の準備をする。(5時間×4回+発表のためのグループ討議2時間)

教科書・参考書等

教科書 レジューメを基本とし、適宜、紹介します。

参考書 保健師業務要覧第4版2025年版, 2025, 5060円

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・課題学習およびグループワークでの参加状況による評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

教員の実務経験との関連

担当教員は自治体保健師として実務経験を有し、また、研修会や学術集会などでの見聞をとおして最新の知識・技術について取得している。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BACM-40-Lf 授業科目名 (講義コード: M675007-1) 公衆衛生看護管理演習 Public Health Seminar for the Practice in Community	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 公衆衛生看護管理特論		
	履修推奨科目 看護管理学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地域の特性や、そこで生活する人々(住民)の健康・生活のニーズをとらえ、その人らしい暮らしを実現するため、住民主体としたあらゆる関係者と協働できるつながりやシステムをつくる保健師のマネジメント活動の基本となる知識・技術を学ぶ。公衆衛生看護管理特論では知識を、公衆衛生看護管理演習では実際の事例を通し、個別の支援から地域のシステムづくり、政策提言に向けた演習を行う。 別表1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 地域で生活する人々や関係者がそれぞれのもつ力を発揮し、誰もが暮らしやすい地域の実現に向け、保健活動をマネジメントできるように、公衆衛生看護管理の目的に沿って、基本的な思考過程やスキルを修得する。			
到達目標 1. 実習地域に在住する保健師の個別支援事例から、地域の支援課題に関するデータをまとめ、保健師として取り組むべき健康課題を抽出できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 当該健康課題に対する現在の政策・施策について確認し、課題解決に役立つ資源を調べ、実際の活動状況について実地に視察し、クリティックする。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 学生が見出した健康課題と現状での取り組みを整理した上で、今後必要な地域の資源・制度について説明・発表し、関係者とディスカッションしながら、地域のニーズを満たす政策を提言できる。 (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 個別支援事例の説明(芳我) 第2回 健康課題の整理(川本) 第3回 地域の情報のまとめ(川本) 第4回 地域の情報まとめ発表(芳我・川本) 第5回 地域の情報について講評・まとめ(芳我・川本) 第6回 情報収集スケジュール立案作成(川本) 第7回 フィールドワーク①(準備)(川本) 第8回 フィールドワーク②(川本) 第9回 フィールドワーク③(川本) 第10回 地区踏査の成果報告会(芳我・川本) 第11回 まとめ(関係者との話し合い)(芳我・川本) 第12回 地域資源の活用方法(川本) 第13回 政策提言のための準備(川本)			

2026 医学系研究科

第14回 政策提言について発表(芳我・川本)

第15回 講評・まとめ(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

第2～5回 講義で示した課題について取り組む。(4時間×4回)

第6～9回 フィールドワークにおいて収集した情報をグループにて検討し、地域診断に必要なデータとして整理し、まとめる。(4時間×4回)

第10～15回 発表した内容に対する教員のコメントをもとに、グループにて検討し地域診断を進める。また、診断した結果を発表する準備をする(6時間×4回+発表のためのグループ討議4時間)

教科書・参考書等

教科書 レジュメを基本とし、適宜、紹介します。

参考書 保健師業務要覧 最新版, 参考価格5,060円

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・グループワークでの参加状況・プレゼン内容に対し評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生看護実践の実務経験を有している。

ナンバリングコード M2NRS-DCAM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675008-1) 公衆衛生看護倫理特論	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 DCA・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 公衆衛生看護学特論Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ 履修推奨科目 看護倫理学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習30時間, 事後学習30時間)			
授業の概要 地球規模の環境変化とともに自然災害, 新興感染症等の健康危機に遭遇する機会が増え, 今後ますます健康課題は多様化・困難化すると推察される。なかでも未曾有の感染症との闘いは, 感染拡大防止に隔離という対応を必要とするため大きな人権侵害を招く可能性をはらんでおり, 日本のみならず世界の医療従事者は, その歴史から学び, より高い倫理観をもつ必要がある。 本授業は, 医療分野において長期にわたり人権を侵害した歴史であるハンセン病の隔離政策をテーマとし, 療養施設における生活を余儀なくされた回復者を通して, 当事者の視点から, そこでの生活を具体的に理解する。国外の対策と比較しながら, 医療従事者は何をしてきたのか, その事実を学ぶと同時に, 看護職が取り組むべき課題は何だったのか, これから担うべき役割について考察する。 別表1 個人・家族・集団・組織の支援, 公衆衛生看護活動展開論, 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 感染症対策に潜在する差別や偏見の歴史と向き合い, 誰の中にもある差別や偏見の種となる思考方法に気付くことで, 公衆衛生従事者としての倫理観の涵養を目的とする。			
到達目標 1. ハンセン病対策の歴史, 現存する社会的問題について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. ハンセン病療養所への隔離政策の犠牲となった一組の夫婦を通して, ハンセン病に罹患することが, その人の生活および人生にどのような悲劇を生じさせたのか, 具体的に説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 療養所のできごとの中から, 看護職が取り組むべき課題は何だったのか, そこで担うべき役割は何かを考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」) 4. 今後の感染症対策において, 起こりうる問題とは何かを予測し, それらについて看護職が担うべき役割について考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1, 3, 4に対応), 発表及び討議40% (主に到達目標2に対応)。 成績の評価は, 次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は, 100点をもって満点とし, 秀, 優, 良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし, 必要と認める場合は, 合格, 了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス, (芳我) なぜ今, ハンセン病なのか: 映画を見て考える (芳我) 第2回 なぜ今, ハンセン病なのか: 映画を見てディスカッション (芳我) 第3回 ハンセン病への医学的アプローチの理解① (芳我) 第4回 ハンセン病への医学的アプローチの理解② (芳我) 第5回 日本におけるハンセン病の歴史 (芳我)			

2026 医学系研究科

- 第6回 日本におけるハンセン病の現在の療養所の生活(芳我)
第7回 ハンセン病と人権：本人の苦悩に焦点を当てて(川本)
第8回 ハンセン病と人権：家族の苦悩に焦点を当てて(川本)
第9回 社会的に排除されてきた人への健康支援①(川本)
第10回 社会的に排除されてきた人への健康支援②(川本)
第11回 社会の中の感染症—ハンセン病からCOVID-19における差別(川本)
第12回 国内外におけるハンセン病の歴史ハンセン病から考える看護職の役割(ディスカッション)①
(芳我・川本)
第13回 国内外におけるハンセン病の歴史ハンセン病から考える看護職の役割(ディスカッション)②
(芳我・川本)
第14回 発表(芳我・川本)
第15回 まとめ(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に講義において学んだ概要を事例演習により理解を深める対面授業とします。各回のあとは授業で学んだ内容をもとに、自ら学習した内容の整理をするようにしてください。なお状況によっては授業形態の一部を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のためのアドバイス】

- 第1～2回 授業で視聴した映画をもとに、課題についてまとめ、発表の準備をする(1時間×2回)
第3～6回 講義のトピックに関連する参考図書、文献を探り授業に臨んで情報調べをまとめる。(4時間×4回)
第7～10回 講義で紹介された事例について、療養所で暮らす人の視点、家族の視点、医療従事者の視点で状況を検討し、自身の意見をまとめる。(4時間×4回)
第11～15回 授業で示した課題について取り組み、発表の準備をする。(5時間×5回+発表のためのグループ討議12時間)

教科書・参考書等

教科書 感染看護学(南江堂),最新版,参考価格2860円

参考書 和泉真藏:医者への僕にハンセン病が教えてくれたこと,シービーアール出版,2005年,1650円

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・課題学習およびグループワークでの参加状況による評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。
- ・状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。

教員の実務経験との関連

担当教員は本トピックに関し、調査・研究を実施しており公衆衛生看護実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ACDM-40-Lf 授業科目名 (講義コード:M675009-1) 健康危機管理特論 Health Risk and Crisis Management	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ACD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 磯打 千雅子, 井面 仁志, 川本 美香, 寺尾 徹, 野々村 敦子, 長谷川 修一, 三好 正明	関連授業科目 公衆衛生看護学特論 I, 公衆衛生看護管理論		
	履修推奨科目 看護管理学, 地域看護学特論		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間) + 調査研究時間 (30時間)			
授業の概要 地球規模の環境変化とともに自然災害, 新興感染症等の健康危機に遭遇する機会が増え, 公衆衛生に従事する保健師は防災・減災の基礎的な知識とともに, 被災後の地域住民の健康を守る保健活動を実践する能力が求められる。そこで, 本授業では地域特性を踏まえた専門的・実践的防災スキルを理解し, 多職種と連携しながら, 地区の具体的な防災活動方法を計画・実施・評価し健康危機管理方法 (災害時保健活動を含む) を修得する。 別表1 公衆衛生看護管理論			
授業の目的 防災・減災の視点から地域および住民の暮らしに関する情報 (例: 災害時要援護者等) を収集・整理し, 災害に備えるための保健活動から被災後の健康管理技術を学ぶ。また, 感染症保健活動の実際の事例をもとに, 平時・有事・事後対応における保健師の役割, 責務について学ぶ。			
到達目標 1. 健康危機管理が対象とする事象とリスクとクライシスの違いについて述べる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 防災・減災の視点から地域社会およびそこで暮らす住民の健康情報を収集し, 特に支援すべき要援護者を把握, 自助・共助・互助による地域支援体制を構築するための支援計画を立案できる, (DP「専門知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 感染症に対するスタンダードプリコーション, 環境整備の方法などについて説明する。 (DP「専門知識・理解」) 4. 今後の感染症対策において, 起こりうる問題とは何かを予測し, それらについて看護職が担うべき役割について考察できる。 (DP「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1、4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標2、3に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 オリエンテーション・公衆衛生看護学における健康危機管理の基礎知識 (講義) (芳我・川本) 第2回 地域の防災活動に対する支援のありかた (講義) (藤澤) 防災の観点から, 受け持ち地区における住居および地域の環境をアセスメント (演習) (長谷川) 第3回 保健師活動と災害ボランティア活動 (講義・演習) (長谷川) 第4回 被害想定・ハザードマップを用いた地域のリスクアセスメント (演習) (野々村) 第5回 地域の防災計画策定に生かすためのクロスロード (演習) (野々村) 第6回 住民支援のための対象理解①: 惨事ストレスと心のケア (講義) (藤澤) 第7回 住民支援のための対象理解②: 災害医療と保健活動 (講義) (川本)			

2026 医学系研究科

- 第 8回 住民支援のための対象理解③：全ての住民の生命を守るための避難と避難行動（講義・演習）（井面）
- 第 9回 住民支援のための地域特性理解①：地震・津波のしくみと被害（講義・演習）（長谷川）
- 第10回 住民支援のための地域特性理解②：風水害・土砂災害（講義）（長谷川）
- 第11回 防災行動計画に生かす気象情報の知識（講義・演習）（寺尾）
- 第12回 災害現場からの教訓を生かした保健師活動（講義・演習）（高嶋）
- 第13回 香川県の防災対策と地区防災計画（講義・演習）（長谷川）
- 第14回 事業継続計画と地区防災計画の関連からみた保健師活動の在り方検討（講義・演習）（磯内）
- 第15回 生命・財産を災害から守るために（講義）（長谷川）
- 第16回 地区防災計画立案プレゼンテーション・まとめ（芳我・川本）

【授業及び学習の方法】

この授業の一部は日本防災士機構防災士養成の専門的内容と認められています。

基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

第1～15回 どのように保健師活動に生かせるか授業終了後、考察をしレポートする。(2時間×15回)

また、レポート内容からまとめのプレゼンの準備として地域保健活動も防災についてまとめプレゼンテーションする。(2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書

NEW予防医学・公衆衛生学（南江堂），2018年，6930円

防災士養成講座関係資料

参考書

適宜，紹介します。

オフィスアワー

授業終了後 1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目の単位取得後，日本防災士機構防災士養成コースの必要単位を受講することにより，防災士資格試験の受験資格を得ることができます。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生看護実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABDM-40-Lg 授業科目名 (講義コード: M675010-1) 疫学特論 Advanced Epidemiology	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABD・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 疫学は、集団及び個体レベルの生身の人間を対象とする学問です。根拠に基づく保健医療福祉活動(Evidence Based Practice: EBP)が求められ、疫学は保健師活動において必須の基礎科学です。また、疫学は一見もっともらしいけれど、実は事実とはことなるような情報を見抜き、真に迫るための良識を身に着ける学問でもあります。このように科学の世界だけではなく、保健医療福祉の現場においても、一般社会においても、疫学は重要な役割を担っています。 この授業では、難しいものと考えられがちな疫学を、講義と演習を通して学びます。			
授業の目的 保健師として、集団の健康を指標を用いてとらえるための理論と方法を理解し、活用できることを目的とする。			
到達目標 1. 疫学の概念を説明できる。(DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応) 2. 疫学的アプローチを説明できる。(DPの専門知識・理解、研究能力・応用力、グローバルマインドに対応) 講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します。			
成績評価の方法 期末試験(100%)により到達度(到達目標1及び2)を評価する			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. 疫学とは何か 2. 疫学頻度の指標 1 罹患率、有病率、致命率 3. 疫学頻度の指標 2 粗死亡率と年齢調整死亡率 4. 疫学頻度の指標 3 相対危険と寄与危険 5. 疫学頻度の指標 4 オッズ比 6. 演習 1 7. 疫学調査法 8. スクリーニング 9. 記述疫学 10. 分析疫学 1 症例対象研究 11. 分析疫学 2 コホート研究 12. 介入研究 13. 演習 2 14. 因果関係と交絡因子 15. 演習 3 【授業及び学習の方法】 講義を行い、国家試験の過去出題問題を中心に演習を行います。講義を受けてわかったところ、わからないところを、講義終了時に毎回自問し、わからなかったところは毎回リアクションペーパーに書いてもらいます。わからなかったところは次回講義で説明し、講義を進めていきます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。 【自学自習のためのアドバイス】 疫学は、難しい学問と思われがちであり、実際、講義を一度聴いただけで理解することは困難です。演習問題を解いて、間違えてみて、なぜ間違いなのかを考えることにより、理解が深まります。国会試験問題を解いてみる時は、正解を求めることだけでなく、正解以外の選択肢の持つ意味もしっかり勉強してください。			

2026 医学系研究科

教科書・参考書等

教科書：

はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂 最新版、参考価格2,200円

参考書：

クエスチョン・バンク 保健師 国家試験問題解説 メディックメディア 最新版

保健師国家試験問題 解答と解説 医学書院

オフィスアワー

講義終了後30分間。ただし、会議等に対応できない日は、講義時に改めて連絡します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BADM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675011-1) 実践統計特論 Advanced Practical Statistics	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BAD・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・日高 優	関連授業科目 疫学特論 履修推奨科目 看護研究方法論2		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 集団を対象とした健康問題を検討するに際して、複雑に絡み合った要因を分析し、健康水準を高める方策を探るための方法について学習する。授業では、データを活用して、情報処理技術や統計的手法を用いて分析し、結果を解釈する方法を教授する。			
授業の目的 エビデンスに基づく実践に欠かせない保健医療分野における研究の読解および実施のための基礎的な知識・技術の修得を目的とする。			
到達目標 1. データを収集する方法を説明し、模擬データをまとめ視覚化することができる。 (DP「専門知識・理解」, 「研究能力・応用力」, 「グローバルマインド」に対応) 2. 仮説を立て、それを検証するための検定方法, 推定方法を説明できる。 (DP「専門知識・理解」, 「研究能力・応用力」に対応) 3. 研究結果を吟味, 解釈することができる。 (DP「専門知識・理解」, 「研究能力・応用力」, 「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標2、3に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標1に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 ※本授業は集中講義として実施します。 第1～4回：10月第1～3週 第5～15回：11月 第1回 オリエンテーション・研究デザイン (芳我・日高) 第2回 データの記述統計, 推測統計 (日高) 第3回 検定とp値 (日高) 第4回 論文の読み方 (日高) 第5回 演習 (主要な検定方法: カテゴリカルデータ解析) (日高) 第6回 発表 (主要な検定方法: カテゴリカルデータ解析) (日高) 第7回 演習 (主要な検定方法: 連続データ解析) (日高) 第8回 発表 (主要な検定方法: 連続データ解析) (日高) 第9回 演習 (主要な検定方法: 多変量解析①) (日高) 第10回 発表 (主要な検定方法: 多変量解析①) (日高) 第11回 演習 (主要な検定方法: 多変量解析②) (日高) 第12回 発表 (主要な検定方法: 多変量解析②) (芳我・日高) 第13回 演習 (主要な検定方法: 多変量解析③) (日高) 第14回 発表 (主要な検定方法: 多変量解析③) (芳我・日高)			

2026 医学系研究科

第15回 まとめ(芳我・日高)

【授業及び学習の方法】

できるだけ、実践的に学ぶため、講義と演習を組み合わせで行います。演習課題に主体的に取り組み、教員及び学生に対して発表をすることによって、プレゼンテーション・ディスカッション方法についても学習してください。

【自学自習のためのアドバイス】

統計学は、疫学とならび、公衆衛生の場においてエビデンスをもって実践活動するためには必須の知識ですが、数学的な知識をもとめられることから、苦手意識をもつ学生も多いかと思えます。講義で学び理解することは困難ですので、各回終了後、ミニレポートを課題として出します。主体的に演習課題に取り組むことから、学んでいきましょう。

第1回から15回 授業で示した課題に対するミニレポート作成 (2時間×15回)
復習のための事後学習 (2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書：

医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ メディカルサイエンスインターナショナル

参考書：

はじめて学ぶやさしい疫学 南江堂

基本統計学 有斐閣

よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

宇宙怪人しまりす 医療統計を学ぶ 岩波科学ライブラリー

オフィスアワー

講義終了後30分間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題ならびに授業については、院生の主体的な参加を求めます。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生学・疫学研究を遂行してきた経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-ABCM-40-Lx 授業科目名 (講義コード:M675012-1) 保健医療福祉行政特論 Advanced Course of Health and Medical Welfare Administration Theory	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 ABC・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香・星川 洋一	関連授業科目 保健医療福祉行政演習 履修推奨科目 疫学, 実践統計特論		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 生活は、多くの法律や制度によって保護され、一方で規制されている。保健医療福祉の充実と具体的なサービス提供の基盤をなしている保健医療福祉に関する数多くの法律について教授する。 行政における仕組みや法律・制度・政策について理解を深め、地域保健活動の具体策として、健康増進対策や環境保健衛生・感染症対策などを取り上げながら、施策や保健計画の企画・立案、評価を学び、行政における保健師の役割について理解できるようにする。 別表1 保健医療福祉行政論			
授業の目的 保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその内容、様々なライフサイクルや健康課題を持つ対象者のニーズに応じて支援するために必要な制度と運用、支援のために必要な保健医療福祉サービスの計画・企画実施・評価や社会資源内容について学ぶ。			
到達目標 1. 保健医療福祉行政の発展過程について理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 保健医療福祉活動の基盤となる保健医療福祉制度について理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 保健医療福祉行政の仕組みについて理解する。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 公衆衛生の基本的な方法論および地域保健活動を理解する。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 5. 国や地方自治体の保健医療福祉計画の基本的な考え方や策定過程・推進管理と評価について理解する。 (DP「研究能力・応用力」に対応) 6. 人々が健康な生活を送るために必要な保健対策 (政策・施策) を包括的・体系的に理解する。 (DP「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 試験60% (主に到達目標1～4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標5、6に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 保健医療福祉行政の目ざすもの (芳我) 第2回 公衆衛生の基盤形成 (芳我) 第3回 社会保障制度Ⅰ (理念, しくみ) (川本) 第4回 社会保障制度Ⅱ (年金, 雇用, 公的扶助, 介護保険, 医療保障, 児童・高齢・障害福祉, 成年後見人制度等) (星川) 第5回 健康増進法, 母子保健法等 (川本) 第6回 行政における公衆衛生Ⅰ 医療提供体制, 医療計画等 (星川)			

2026 医学系研究科

- 第 7回 行政における公衆衛生Ⅱ 健康づくり方法論 (星川)
- 第 8回 香川県の看護行政(新教員)
- 第 9回 環境保健衛生Ⅰ 栄養・食品保健衛生対策(横山)
- 第10回 環境保健衛生Ⅱ 環境保健衛生対策(星川)
- 第11回 保健医療福祉行政の仕組みⅠ 保健医療福祉行政と財政 (横山)
- 第12回 保健医療福祉行政の仕組みⅡ 計画と評価 (横山)
- 第13回 保健医療福祉行政の仕組みⅢ 計画と評価の演習 (横山)
- 第14回 保健事業計画の実際(川本)
- 第15回 行政における保健師の役割 (施策化, 体制・しくみづくり) (川本)
- 第16回 試験(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

第2～7回 居住地や出身地の行政ホームページを検索し、どのような政策, 施策, 財政状況なのかを調べておく。(2時間×6回)

第8～15回 保健計画と評価について, ある自治体のホームページから保健計画と評価について調べ, どのようなものか説明できるようにまとめる。(2時間×9回)
(復習)

第1～15回 授業時に配布する資料内容がある教科書部分は必ず読んで復習しておくこと。(2時間×15回)

教科書・参考書等

教科書

藤内修二他著: 標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論第5版, 医学書院, 2021年, 3410円

参考書

厚生労働統計協会: 国民衛生の動向, 2025/2026, 2970円 (参考価格)

新版保健師業務要覧第4版2025年版, 日本看護協会出版会, 2025年, 5060円

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回ポートフォリオ等を提出してもらいます。(出席確認)
- ・学ぶ意欲をもって授業に臨むこと。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生の実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BACM-40-Lg 授業科目名 (講義コード:M675013-1) 保健医療福祉行政演習 Seminar of Health and Medical Welfare Administration Theory	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香	関連授業科目 保健医療福祉行政特論 履修推奨科目 疫学特論, 実践統計特論		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 特論において学んだ基礎知識をもとに、特定地方公共団体における保健医療福祉行政の現状、課題、各種施策の方向性について理解し、保健医療福祉行政における基本計画の策定、実施、評価についての展開方法について、可能な範囲で協議会等に参加、もしくは各種計画のためのデータ分析を手伝い、実地に学ぶ。別表1保健医療福祉行政論			
授業の目的 保健医療福祉行政について、活動の基盤を作る施策が身近に感じられるよう、実習地域を対象とした演習によってPDCAサイクルを経験する。具体的には、収集された、もしくは、これから収集する地域のデータを統計的にまとめ、健康課題を見出し、それを多職種・住民にプレゼン(準備)し、検討することができるようにする。			
到達目標 1. 保健医療福祉行政の計画・実施・評価について説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 2. 保健医療福祉行政施策について実習地域の行政計画のなかの位置づけを説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 3. 特定の健康課題について、実習地域の現在の施策と保健事業を説明できる。 (DP「専門知識・理解」に対応) 4. 課題課題を解決するための方策を多職種・住民と検討し提案できる。 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 既存の協議会もしくはデータヘルスなど各種計画の検討会に参加し、データ収集・整理・プレゼン資料作成を分担できる。 (DP「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 レポート60% (主に到達目標1~4に対応)、発表及び討議40% (主に到達目標5に対応)。 成績の評価は、次のとおり到達目標の達成度により行う。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 第1回 ガイダンス 実習地域の保健医療福祉行政計画を調べてみよう① (芳我) 第2回 実習地域の保健医療福祉行政計画を調べてみよう②(川本) 第3回 発表・講評(芳我・川本) 第4回 特定健康課題についてそれを解決するための方策についてまとめてみよう(川本) 第5回 特定健康課題についてそれを解決するための保健事業についてまとめてみよう(川本) 第6回 特定健康課題についてそれを解決するための社会資源についてまとめてみよう(川本) 第7回 発表・講評(芳我・川本) 第8回 実習地域の保健活動について参加してみよう (課題検討の方法)(川本) 第9回 実習地域の保健活動について参加してみよう (住民の思い・願いの実際を収集①)(川本) 第10回 実習地域の保健活動について参加してみよう (住民の思い・願いの実際を収集②)(川本) 第11回 実習地域の保健活動について参加してみよう (住民の思い・願いの実際を収集③)(川本)			

2026 医学系研究科

- 第12回 現状分析(川本)
- 第13回 課題の発見・提言作成(川本)
- 第14回 発表会(芳我・川本)
- 第15回 振り返り・まとめ(芳我・川本)
- 第16回 修正レポート作成グループワーク・提出(芳我・川本)

【授業及び学習の方法】

この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習のアドバイス】

- 第1～7回 実習地域の政策，施策，財政状況なのかを調べておく（2時間×7回）
- 第8～15回 実習地の業務状況に応じて会議参加時間を授業時間外に確保する。（2時間×8回）
（復習）
- 第1～15回 授業時に配布する資料内容がある教科書部分は必ず読んで復習しておくこと。（2時間×15回）

教科書・参考書等

教科書

藤内修二他著：標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論，医学書院，2021年，3410円

参考書

厚生労働統計協会：国民衛生の動向2025/2026，2970円（参考価格）

新版保健師業務要覧第4版2026年版，日本看護協会出版会，5280円

オフィスアワー

授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回ポートフォリオ等を提出してもらいます。（出席確認）
- ・学ぶ意欲をもって授業に臨むこと。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生看護実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BCDM-40-Px 授業科目名 (講義コード:M675014-1) 地域健康生活支援実習 Public Health for Healthy Life by Nursing Practice	科目区分 専門科目 (公衆衛生 看護学)	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 1年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BCD・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香・林 信平	関連授業科目 公衆衛生看護学実習 履修推奨科目 公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
学習時間 実習45時間 × 2週 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 個別事例の支援過程を通して、支援課題を見出すとともに、地域の社会生活環境がその対象者および家族の健康に与える影響、および既存のサービス等社会資源の利活用状況をアセスメントした上で支援計画を立案・実施・評価する。具体的には、周産期にある母子とその家族を対象に、エビデンスに基づく育児支援計画を立案し、看護過程を展開するとともに。必要な社会資源の活用の実態を把握し、今後求められる資源、サービスの在り方について考察し、まちの総合計画・保健計画との整合性をもって地域の活動計画へとつなげる素材を蓄積する。さらに、受け持ち事例を通して市町保健センターにおける母子保健事業を経験し、周産期および幼児期における健康な親子のニーズと育児支援の基礎を理解する。また、支援のための信頼関係構築により保健師としての基本姿勢や倫理的態度を養う。 別表1個人・家族・集団・組織の支援実習			
授業の目的 既習の理論および技術を対象者に対するケア実践において統合する。個別支援の基本的看護援助(家庭訪問・保健指導・健康教育)が実践できるよう、基礎的能力を学ぶ。また個別事例から政策提言へとつなげられるよう、公衆衛生看護管理の視点から各種行政計画との整合性を考慮しながら、地区活動計画を立案するための素材を蓄積する。保健師および助産師による産後の母子支援(乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健診)を受け持ち親子とともに経験し、保健師の担うべき役割と支援方法を理解するとともに、実際の保健指導や健康教育を実施する。			
到達目標 1. 対象者の信頼を得て、家庭訪問を継続できる。 2. 顕在する看護上のニーズのみでなくウェルネスの観点から支援課題を見出し説明できる。 3. 新生児および乳幼児の身体を正しく、安全、安楽に計測できる。 4. 育児中の親の社会的サポートの活用状況および必要な資源をアセスメントし説明できる。 5. 妊婦教室および乳幼児の健康診査の実施方法を説明できる。 6. 育児支援のための制度等社会資源について、まちの各種行政計画における位置づけを説明できる。 7. 今後の地区活動計画を検討できる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題の達成状況 (15%) 2. 実習への参加状況および積極的行動等の態度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等 2. 具体的実習内容 1) 継続家庭訪問 1組の親子を受け持ち、妊娠期から育児期まで継続して関わり、個別の育児支援を計画・実施・評価する。 2) 両親学級、乳幼児健診における保健指導・健康教育の計画立案・実施(可能な範囲で) 受け持ち親子とともに、両親学級および4か月健診を受診する。また、1歳6か月、3歳児健診において、保健指導場面に立ち会い、保健指導計画を立案、可能な範囲で実施する。これらの保健事業において、待ち時間等を利用した健康教育を計画、可能な範囲で実施する。 3) 社会資源の利活用状況のアセスメント			

2026 医学系研究科

親子が活用している社会資源について、調べ、利用状況や今後の課題について整理する。

4) 母子健康手帳交付, 分娩見学

まちで実施している手帳の交付に立ち会い, 親となることをどのように受け止めているか観察するとともに, そこで求められる支援について考察する。この出会いから児童虐待防止の対策が始まることについて学ぶ。

5) 要保護児童対策地域協議会への参加と見学

育児支援の延長にある児童虐待対策の実際と, 生じている問題について学ぶ。

6) 地区活動計画 (母子保健) の立案と検討

公衆衛生看護管理論において地区活動計画を立案できるよう, 母子保健に関わる制度や社会資源を整理し, 地区の課題について考察する。

3. カンファレンス

実習最終日にカンファレンスを実施し, 目標の達成度合いを振り返り自己の今後の課題を見出す。

【授業および学修の方法】

大学附属病院と連携しているぽっこ助産院において母子事例を紹介いただく。継続して関わられるよう, 学生が自ら関係を築き, 6か月以上関わる。母子保健事業および地域の資源については, 紹介いただいた事例の市町村への同伴を相談することになるが, 状況によっては受け入れ困難が予測されるため, 三木町を基本とする。

【自学自習のためのアドバイス】

実習前に, 妊婦, 産婦, 褥婦と新生児の看護を既習内容からまとめておく。また, 育児指南書などを参考に, 一般的な育児支援情報について調べておく。継続事例については, 長期間にわたり関わることになるため, 信頼関係の構築に心がける。中断の場合もあることを了解しておくこと。

支援中は, それぞれの受持ち事例について実習記録にまとめ, ケア計画と実施内容について振り返る時間を自主的にもつこと。

教科書・参考書等

教科書: 保健学講座 公衆衛生看護学概論, メジカルフレンド社, 2022年, 3410円 保健学講座2, 公衆衛生看護支援技術, メジカルフレンド社, 2022年, 3850円 保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論, メジカルフレンド社, 2022年, 3960円 公衆衛生学 社会・環境と健康, 同文書院, 2025年, 3080円

参考書: 公衆衛生がみえる, MEDIC MEDIA, 最新版, 4620円 (参考価格) 国民衛生の動向2025/2026, 厚生労働統計協会, 最新版, 2970円 (参考価格)

オフィスアワー

実習終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

より実践的な実習をめざしています。主体的な学びを期待します。

教員の実務経験との関連

担当教員は公衆衛生看護実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M2NRS-BCDM-40-Px 授業科目名 (講義コード: M675015-1) 公衆衛生看護学実習 Public Health Nursing Practice	科目区分 専門科目 (公衆衛生看護学)	時間割 通年集中 その他集中	対象年次及び学科 2年次 看護学専攻博士前期課程
	水準・分野 M2・NRS	DP・提供部局 BCD・M	対象学生・特定プログラムとの対応 40
	授業形態 Px	単位数 3	
担当教員名 芳我 ちより・川本 美香・林 信平	関連授業科目 公衆衛生看護学技術Ⅱ・Ⅲ, 地域健康生活支援実習 履修推奨科目 1年次開講の講義・演習の履修を全て終えていること。		
学習時間 実習45時間 × 3週 + 自学自習 (準備学習25時間 + 事後学習20時間)			
授業の概要 地域住民の健康生活を支援するため、そこに暮らす全ての住民の健康を保持・増進するヘルスケアシステムとしての保健所・市町村の機能・役割について、これまでに学んだ理論を基に理解を深める。また、「地域健康生活支援実習」において実施した個人・家族への支援から、地域の資源をアセスメントした内容を基に、まちの健康課題を見出し、その解決に向け生活を支援する保健師活動を計画し、地区活動計画を立案する。 別表1 公衆衛生看護活動展開論実習, 公衆衛生看護管理論実習			
授業の目的 保健所および市町村がヘルスケアシステムとしての機能・役割を理解するとともに、それらを有効に機能させるための保健師の地区活動の展開方法を理解する。また、学生が自ら経験した個人・家族の生活支援を通して得られた情報をもとに、地区活動の展開を試行する。さらに、集団に対する支援方法としての地区組織づくりおよびまちづくりについて理解を深める。			
到達目標 1. 地域の健康課題を解決するための施策について、各種事業との関連、保健福祉サービスなどの具体的な内容を理解する。 2. 住民および労働者の健康課題に合わせた保健事業のあり方について、見学した内容から検討する。 3. 個別の関わりからグループ支援、組織づくり、体制づくりへ発展している活動事例を聞き、保健師の役割を考察し、説明する。 4. 地域の健康課題を解決する方法について、具体的な支援について計画し、助言を得る。 5. 市町における実習地域の地区組織について、把握する。 6. 特定の組織活動に着目し、その成り立ち、現状での支援内容について説明を受け、保健師の役割について考察する。 7. 健康増進活動（一次予防）における保健師の役割について考察し、今後の課題について自分の意見を述べる。 (以上、DPの「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」に対応)			
成績評価の方法 1. 事前学習課題の達成状況 (15%) 2. 実習への参加状況および積極的行動等の態度 (50%) 3. 課題に応じた資料作成と発表、および討議内容 (15%) 4. 実習記録内容 (20%)			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀 (90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優 (80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良 (70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可 (60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可 (60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 1. オリエンテーション 実習方法、学習計画、注意事項等 <市町実習> 2. 具体的実習内容 1) 地区活動の背景となる地区の概要を調べ整理し、健康課題を見出す。 既存の資料 (市・町勢要覧、人口統計、各種保健統計、総合計画、各種事業計画など) を基に情報をまとめ、整理し、実習地域について具体的にイメージした上で、実習地域の地区踏査計画を立案し、実施する。地域の住民の代表者 (民生委員、愛育委員、自治会長、NPO法人等、当該健康課題の関係者) へ面談し、当該地区で生活する住民の生活の様子・考えを知り、それをまとめて報告する。 2) 実習地域のヘルスケアシステムおよび保健師の機能・役割について理解する。 保健所オリエンテーションにより、保健所の各組織および各々に配属されている職種の役割や機能について説明を受け、理解する。また、保健所と市町村の機能・役割の違いについて考察する。また、市町村オリエンテーショ			

2026 医学系研究科

ンにより、市町の概要、保健・福祉部門（保健センター、地域包括支援センターなど）の体制と業務内容および連携の実際、個別の関わりからグループ支援、組織づくり、体制づくりへと発展させた活動事例について説明を受け、市町村保健師の役割を理解する。

3) 各種保健事業の成り立ちについて理解する。

実習保健所および市町村の保健事業の全体像について説明を受け、個別のニーズから集団のニーズを把握する過程を理解し、保健師（スタッフ、管理者）の役割について理解する。また、見学可能な事業等の目的・目標、これまでの経緯、現状の評価について説明を受け、参加した事業等について学生の視点から検討し、今後の事業等のあり方について対策を提案する。

4) 地区活動計画の立案

地域の健康課題の中から、1つ特定領域・課題を決め、これまでの対策について整理するとともに、その評価指標と関連するデータ、担当保健師の意見を収集し、総括した上で、今後の課題・展望について学生間で検討・考察し、保健師と（および可能であれば関連職種も交えて）意見交換する。

5) データヘルス計画、保健事業の一体的実施への参加により、成人期から高齢期に関わる保健事業の成り立ち・現状について理解する。

特定健診・保健指導場面への見学・保健指導もしくは健康教育の実施を企画、可能であれば実施する（公衆衛生看護学特論Ⅱ・Ⅲと連動）。

積極的支援対象者や重症化予防のための対象者への家庭訪問による保健指導を計画し、実施・評価する。

3. 最終まとめ・カンファレンス

実習最終日に実習地の保健師の産科により地区活動計画を発表し、その後、学生・教員によるカンファレンスにおいて目標の達成度合いを振り返り自己の今後の学習課題を見出す。

<産業保健実習>

2. 具体的実習内容

1) 産業保健における健康課題を理解する。

健診結果等、産業保健領域におけるデータの特性や管理方法を学び、壮年期にある労働者の健康課題を検討する。

2) 労働者の安全と健康を守るための職場の組織を理解する。

産業保健活動5管理（作業環境管理、作業管理、健康管理、総括管理、労働衛生教育）の実際について、見聞し、それらにより、どのように労働者の安全と健康が守られているか、また関係する職種・委員の役割について説明を受け、理解する。

3) 産業の場における看護専門職の活動方法について把握し、個別および集団への健康管理方法、労働衛生教育の実施、作業および作業環境管理の方法を理解する。

衛生教育について、一つ課題をもって実施計画を立案し、可能であれば実施する。

【授業および学修の方法】

東讃保健所および三木町保健センターを実習施設として母子、成人、高齢期の保健福祉施策について学ぶ。範囲が広大なため、地域健康生活支援実習においてまとめた母子保健福祉施策をもとに、健康課題を特定していくことを推奨する。現在の国の健康増進施策の中核をなす生活習慣病予防についても、データヘルス計画、保健事業の一体的実施など、実際の三木町での保健施策をもとに学ぶ。

【自学自習のためのアドバイス】

実習前に、これまで各演習および地域健康生活支援実習においてまとめた三木町の各種保健計画、保健福祉施策について実地に学ぶ機会とする。また、見学できる保健事業については、数か月にわたり参加することが可能であり、関連する住民組織・NPO組織への見学・面談予約を随時入れることも可能なため、実習計画を主体的に立案すること。成人期および高齢期にある対象者の健康増進に関する家庭訪問が受け入れ状況によっては可能であるため、演習等で立案した保健指導計画、健康教育計画について活用できるよう、信頼関係の構築に心がける。

教科書・参考書等

教科書：公衆衛生学 社会・環境と健康、最新版、同文書院、3190円（参考価格）

参考書：医療情報科学研究所／編集、公衆衛生がみえる 最新版、MEDICMEDIA、4620円（参考価格）

国民衛生の動向最新版、厚生労働統計協会、3740円（参考価格）

オフィスアワー

実習終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1年次開講の講義・演習の履修を全て終えていることを履修の条件とします。より実践的な実習をめざしており、与えられた課題をこなすというより、自ら課題を見つけ、取り組む高度な主体性を求める実習です。

教員の実務経験との関連

担当教員は保健師資格を備え、公衆衛生看護実践経験を有する。

2026 医学系研究科

ナンバリングコード M4NRS-BACM-20-Ex 授業科目名 (講義コード：M665001-1) 特別研究 Master's Thesis	科目区分 ＜＜研究科目＞＞	時間割 通年集中 その他 集中	対象年次及び学科 2年次 看護学専攻博 士前期課程
	水準・分野 M4・NRS	DP・提供部局 BAC・M	対象学生・特定プログラ ムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 10	
担当教員名 市原 多香子. 川田 紀美子. 西村 亜希 子. 芳我 ちより. 松本 啓子. 山本 美輪. 渡邊 久美. 石井 有美子. 三明 淳一朗. 加 藤 育子. 川本 美香. 今井 多樹子. 山本 麻理奈.	関連授業科目 各領域特論・演習		
	履修推奨科目 看護研究方法論1、看護研究方法論2、看護倫理学		
学習時間 授業90分×75回 + 自学自習 (準備学習150時間+事後学習150時間)			
授業の概要 研究活動に必要な知識と技術を修得できるよう指導します。 本授業では、研究テーマの設定、研究計画の立案と修正、研究の実施、結果の分析、考察の各プロセスについて講義と演習を行います。また、指導教員と副指導教員1名以上の指導のもと、ゼミ形式で運営します。1年次から研究計画の立案を開始し、2年次では研究実施・分析、研究をまとめを行えるよう支援します。			
授業の目的 看護学の発展に寄与できる修士課程に相応しい研究成果物を作成するために、各自の研究テーマに関する倫理的課題と研究の意義と方向性を整理した上で、研究を企画・実施する方法、文献検討、分析方法、論文作成のための基礎的知識を学びます。 研究の結論を導き出すプロセスを通じて、研究課題を実装可能なものへと進化させる力、批判的思考力、データ分析力を身につけます。具体的には、国内外の看護学の知見を総覧し、倫理的課題を考慮したうえで研究課題を明確化し、研究目的を追求するための判断力や実践力を養い、データ分析に関わる質的および			
到達目標 1. 研究テーマや研究目的を決定し、自己の研究計画書を発表できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 2. 倫理的配慮のもとデータ収集できる(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 収集したデータを研究計画書にもとづき分析できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応)。 4. 文献検討後、レビューとして論述することができる。(DPの「専門知識・理解」に対応) 5. 科学的論文を執筆できる。(DPの「研究能力・応用力」に対応) 6. 自己の研究課題をまとめて、発表することができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法 研究過程での学習内容(50%：主に到達目標2から5)および発表内容(50%：主に到達目標1と6)で評価する。			
成績評価の基準 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業計画】 看護研究について以下のことを討議する。 第1回 研究計画の再検討：一貫性の検討 第2回 研究計画の再検討：研究方法の再検討 第3回 研究計画の再検討：倫理的課題の再検討 第4回 研究計画の再検討：追加文献レビュー 第5回 データ収集：対象者へのアプローチ 第6回 データ収集：インフォームドコンセント・アセント 第7回 データ収集：自己の研究方法に応じて初回データ収集 第8回 データ収集：引き続き、初回データ収集を行う 第9回 初回データの入力 第10回 初回データの入力内容のチェック 第11回 初回データの修正 第12回 初回データの検討 第13回 初回データに基づき、データ収集方法の検討 第14回 リサーチミーティング：データ収集方法の提示			

2026 医学系研究科

- 第15回 リサーチミーティング：データ収集の修正
- 第16回 データ収集：見直したデータ収集方法による
- 第17回 データ収集：適宜指導を受けながらデータ収集を行う
- 第18回 データ収集：データの入力を行いながらデータ収集を行う
- 第19回 データ収集：データの整理を行いながらデータ収集を行う
- 第20回 データ整理：自己の研究方法に応じてデータの整理を行う
- 第21回 データ整理：客観的資料となるようデータを整理する
- 第22回 データ整理：入力内容の確認
- 第23回 データ整理：入力内容に関して、指導を受ける
- 第24回 リサーチミーティング：基本データの確認
- 第25回 リサーチミーティング：データ整理方法の修正
- 第26回 データ分析：自己の研究方法に応じてデータ分析
- 第27回 データ分析：分析のプロセスを残す
- 第28回 データ分析：データの質の評価－信頼性
- 第29回 データ分析：データの質の評価－妥当性
- 第30回 データ分析：データの質の評価－信用性
- 第31回 データ分析：データの質の評価－明解性
- 第32回 データ分析：データの質の評価－確認可能性
- 第33回 データ分析：データの質の評価－転用可能性
- 第34回 リサーチミーティング：分析結果の提示
- 第35回 リサーチミーティング：分析結果の検討
- 第36回 データ分析：ミーティングに基づき適宜修正
- 第37回 結果の要約：結果として記述
- 第38回 結果の要約：研究方法に応じた図表作成
- 第39回 結果の要約：研究方法に応じた結果の記述
- 第40回 結果の要約：客観的・具体的記述
- 第41回 結果の要約：論理的記述
- 第42回 リサーチミーティング：結果の説明
- 第43回 リサーチミーティング：結果の検討
- 第44回 結果の要約：ミーティング結果に基づく修正
- 第45回 結果の要約：結果完成
- 第46回 考察：明らかになったことの確認
- 第47回 考察：結果の解釈
- 第48回 考察：結果は何を意味しているのか
- 第49回 考察：自己の主張を客観的に証明
- 第50回 考察：既存の知識との比較
- 第51回 考察：解釈の妥当性の記述
- 第52回 考察：研究目的達成のために研究方法は適切であったか
- 第53回 考察：看護への示唆
- 第54回 考察：研究の限界
- 第55回 考察：今後の研究課題
- 第56回 リサーチミーティング：考察の説明
- 第57回 リサーチミーティング：考察の検討
- 第58回 考察：ミーティング結果に基づく修正
- 第59回 考察：考察の完成
- 第60回 論文作成方法：作成要領の確認
- 第61回 論文作成方法：IMRAD
- 第62回 論文作成方法：序論（研究問題）
- 第63回 論文作成方法：序論（研究問題の重要性）
- 第64回 論文作成方法：序論（研究設問や研究仮説など）
- 第65回 論文作成方法：文献レビュー
- 第66回 論文作成方法：目的
- 第67回 論文作成方法：方法（研究デザイン、対象と設定）
- 第68回 論文作成方法：方法（データ収集用具、手法、データ分析）
- 第69回 論文作成方法：結果
- 第70回 論文作成方法：考察・研究の限界
- 第71回 論文作成方法：引用文献リスト確認
- 第72回 論文作成方法：結論
- 第73回 論文作成方法：タイトル、キーワード
- 第74回 論文作成方法：要旨
- 第75回 発表準備、抄録・発表要旨の作成

【授業及び学修の方法】

本科目は、院生と指導教員による対面授業を基本とします。授業の途中では、教室全体での討議（リサーチミーティング）を行い、研究をすすめます。授業の進め方は、各学生の研究課題や研究方法に応じて異なります。学生は

2026 医学系研究科

データを収集・分析を行い、まとめた成果の発表します。

授業は原則として対面で行いますが、状況に応じて、一部または全回を遠隔で行う可能性があります。学生は指導教員と連絡をとり、対面と遠隔を適切に使い分けてください。

【準備学修及び事後学修のためのアドバイス】

指導教員に適切に指導を受け、授業に関する箇所を参考書等からまとめておいてください。(300時間)

教科書・参考書等

【教科書 特になし】

【参考書】

- ・前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦訳(2023): APA論文作成マニュアル, 医学書院, 2023. 4260円
 - ・グレッグ美鈴他編: よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 第2版, 医歯薬出版, 2016. 4180円
- その他、各自の研究課題・研究手法に応じて、適宜、指導教員より指示があります。

オフィスアワー

各指導教員による。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

対面授業を主とします。

学内の中間発表会において研究計画書の公開指導を受けるとともに、医学部倫理委員会に倫理審査申請書を提出して、承認を得る必要があります。

授業の進行は、個々の研究課題および研究方法により異なりますが、授業計画にそって成果をまとめて、定期的に指導教員と討議してください。

教員の実務経験との関連

各指導教員ともに臨床での実務経験を持ち、その経験をもとに大学院の特別研究指導を行っています。また、多くの教員は修了生を輩出しています。